

第5章 オーストラリアの国際教育¹

はじめに：オーストラリアの社会・文化的状況

オーストラリアはかつて先住民の土地であったが、18世紀以降はイギリスの流刑地となり、19世紀には全土がイギリスの植民地となった。その後もイギリスからの移住が進んだが、1901年によりやうくイギリスから独立した。独立当初の同国の人口は僅か380万人に過ぎなかったが、その中で移民の占める割合は23%と非常に大きく、そのほとんどがイギリスなどの欧州からの移民であった。この時期は「白豪主義」が採られていたために、その後も同様な移民傾向が続いた。

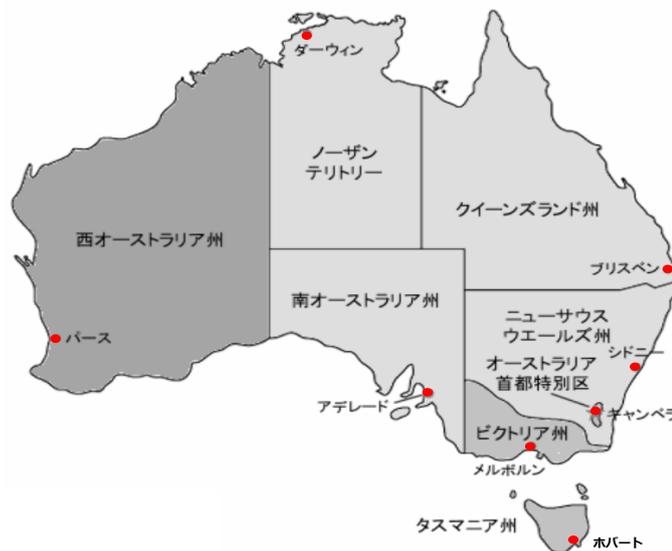
この傾向に初めて変化が見られたのが第二次世界大戦中の1943年である。この時、国家安全保障と労働力不足の観点から人口増加が必要であるという認識のもとで、人口増加率目標が2%と定められ、そのうちの1%を移民によって達成しようという政策が採られたのである。これによって、イギリス以外の欧州やアメリカからの移民を積極的に受け入れるようになった。

しかしながら、1970年代入ると、人口の自然増加率が低迷し、人口増加が進まないという状況になり、ようやくこれまでの「白豪主義」を捨て「多文化主義」へと大きく舵を切り直したのである。そしてポイント制²を取り入れて世界中からの移民を受け入れるようになった。このような新たな政策のもとで、当初はベトナム戦争などを逃れた難民が大量に流入し、その後もその家族の呼び寄せなどで人口は次第に増加していった。

近年、オーストラリアは国内の労働力不足を満たすべく、受け入れるべき移民の流入規模を毎年州別・職業別の労働人口データに基づいて計算して決定している。こうした状況の中、同国における最大の出身勢力はやはりイギリスであるが、昨今の移民の多くはアジア諸国出身であり、中国、インド、フィリピンなどの出身者が多数を占めるようになってきている。2016年には初めてアジア出身の人口が欧州出身の人口を上回った。そして、こうした移民の多くは就労機会の多い都市部に集中して居住しており、シドニーやメルボルン、パースなどでは全人口に対する移民の割合が40%となっている。その他、ダーウィン、ブリスベン、キャンベラでも移民人口は全体の20%を超えている。

こうした現状に鑑み、オーストラリア政府は、文化的な多様性を尊重しつつ、社会秩序の安定と国家の発展を目指す「多文化主義」を全面に掲げ、様々な社会支援プログラムを実施している。こうした政府の努力によって、同国は移民によって経済的便益を最大化することに成功してきた。具体的には労働力需要の充足、経済成長の実現、高齢化の抑制といったことである。

こうした現状に鑑み、オーストラリア政府は、文化的な多様性を尊重しつつ、社会秩序の安定と国家の発展を目指す「多文化主義」を全面に掲げ、様々な社会支援プログラムを実施している。こうした政府の努力によって、同国は移民によって経済的便益を最大化することに成功してきた。具体的には労働力需要の充足、経済成長の実現、高齢化の抑制といったことである。



出典：調査団作成。

図5-1 オーストラリアの行政区分（6州・1準州・1特別区）

¹ 本章においては、「国際教育」という用語を主として用いるが、オーストラリア現地の教育状況の説明においては、同国で使われている「グローバル教育」「グローバル・シティズンシップ教育」などの用語を適宜用いる。

² 「ポイント制」とは、従来のように出身地域や民族による選定ではなく、地域や民族に関係なく全人類を受け入れの対象とする普遍原則に基づいている。年齢、学歴、語学力、就労経験などを基準に沿ってポイント化し、そのポイントによって移民の受け入れ可否を判断するという制度である。オーストラリアだけでなく、カナダ、イギリスの移民政策においても採用されている。

5-1 オーストラリアの教育概要

5-1-1 教育制度

(1) 教育制度と学校系統図

オーストラリアは連邦制を採用しており、教育に関する事項は、憲法規定に基づき、州政府の権限に属する。そのため、州により教育制度やカリキュラムが異なる。しかし、経済界からの要請に基づき 1990 年代後半に実施された全国的なリテラシー調査を皮切りに、教育における公平性・公正性や効率性が一層求められるようになり、2000 年代を通して、ナショナル・カリキュラムの導入や中等教育資格の整備など、国家としての基準・枠組みが強化されてきた。

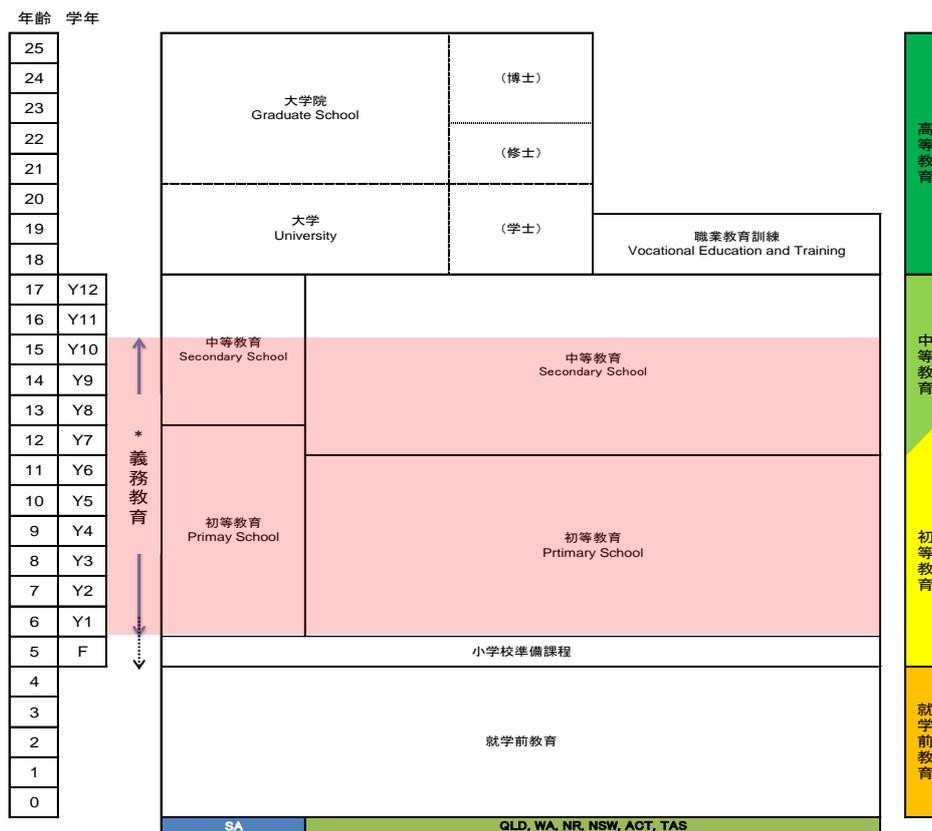
現在、すべての州で 13 年間の学校教育が提供されている。義務教育は、多くの州で 6 歳から 17 歳であるが、政府の施策により就学前の 1 年間も義務ではないものの無償化されているため、ほとんどの子どもが 6 歳以前に学校教育を開始する。学校教育は、ファウンデーションと呼ばれる 1 年もしくは 1 年半の就学前教育に続き、南オーストラリア州を除くすべての州で、6 年の初等教育とそれに続く 6 年の中等教育で構成される（5-1 表参照）。なお、全学校数の約 7 割が政府系（州立）学校で、残りの 3 割が非政府系（カトリック及びインディペンデント）学校である。

表 5-1 オーストラリア各州の学校教育制度

州	就学前教育の名称	初等教育	中等教育	就学前教育が開始できる年齢	義務教育開始年齢	義務教育を終了できる最低年齢
NSW	Kindergarten	Kindergarten Year 1-6	Year 7-12	7/31 までに 5 歳	6 歳	17 歳
Vic	Preparatory	Preparatory Year 1-6	Year 7-12	4/30 までに 5 歳	6 歳	17 歳
Qld	Preparatory	Preparatory Year 1-6	Year 7-12	6/30 までに 5 歳	6 歳半	17 歳
SA	Reception	Reception Year 1-7	Year 8-12	5/1 までに 5 歳	6 歳	17 歳
WA	Pre-primary	Pre-primary Year 1-6	Year 7-12	6/30 までに 5 歳	5 歳半	17 歳半-18 歳
Tas	Preparatory	Preparatory Year 1-6	Year 7-12	1/1 までに 5 歳	5 歳	17 歳
NT	Transition	Transition Year 1-6	Year 7-12	6/30 までに 5 歳	6 歳	17 歳
ACT	Kindergarten	Kindergarten Year 1-6	Year 7-12	4/30 までに 5 歳	6 歳	17 歳

注：NSW（ニューサウスウェールズ州）、Vic（ビクトリア州）、Qld（クイーンズランド州）、SA（南オーストラリア州）。WA（西オーストラリア州）、Tas（タスマニア州）、NT（ノーザンテリトリー）、ACT（オーストラリア首都特別区）を指す。

出典：Australian Curriculum, Assessment and Reporting Authority (ACARA), National Report on Schooling 2021, 2023, p. 29, Table 1.13 をもとに本節担当の調査メンバー作成。



注1: QLD(クイーンズランド州), WA(西オーストラリア州), SA(南オーストラリア州), NT(北部準州), NSW(ニューサウスウェールズ州), ACT(首都直轄区), VIC(ビクトリア州), TAS(タスマニア州)
 注2: 「F」は「Foundation」の略
 注3: 大学は3及び4年間
 * 17歳になるまでは正規の教育訓練課程もしくは労働に従事することが求められている。

出典：調査団作成。

図 5-2 オーストラリアの教育制度

(2) 教育行政制度

先述したように、オーストラリアでは、教育に関する権限は各州政府にあるため、連邦及び各州教育大臣を主たる構成員とする審議会が、古くから国家教育指針をはじめとする同国の教育の枠組みを構築する上で重要な役割を担ってきた。同国発のナショナル・カリキュラムである「オーストラリアン・カリキュラム (Australian Curriculum: AC)」も、連邦・州教育大臣の合意により策定された先の国家教育指針「メルボルン宣言」(2008年)で、国家目標を実現するための行動計画の一つに掲げられ、その開発・導入が実現した。

ACの開発を主導したのは、連邦レベルの組織として創設された、オーストラリアン・カリキュラム評価報告機関 (Australian Curriculum, Assessment and Reporting Authority: ACARA) である。ACARAは、連邦及び州政府の出資により運営される機関で、各州の代表者を理事会の構成員にもつ。その主たる任務は、①ACの開発・監督、②ACに沿った国家評価プログラム (National Assessment Program: NAP) の実施、③全国規模の評価データの収集とその報告であり、教育と評価の一体化が図られている。また、ACARAと同様に、教員及びスクールリーダーの専門性を支える枠組みを国家レベルで準備することを目的に、同時期に、オーストラリア教職・スクールリーダーシップ機関 (Australian Institute for Teaching and School Leadership: AITSL) が設立された。AITSLは、既存組織の改編により組織されたが、主に教員及びスクールリーダーのための各スタンダードの開発、良質な教員研修の開発と運用に責任をもつ。

(3) 教員養成・研修制度

オーストラリアで教員になるためには、主として、教育に関する学士号を取得するか、各専門領域の学士号を取得した後、1～2年間の教職に関わる大学院レベルの資格・学位を取得し、各州で教員登録を行う必要がある。前者は、すべての学習領域を教える初等教育段階の教員を、また後者はそれぞれ専門とする学習領域をもつ中等教育段階の教員養成を担うコースにより提供される。大学をはじめ高等教育機関における教員養成コースでは、AITSLが定める「教員のためのオーストラリアの専門職スタンダード (Australian Professional Standards for Teachers)」に示される、最初の段階に位置付けられる教員養成課程修了者 (Graduate) に求められる基準を満たす内容を提供する必要がある。

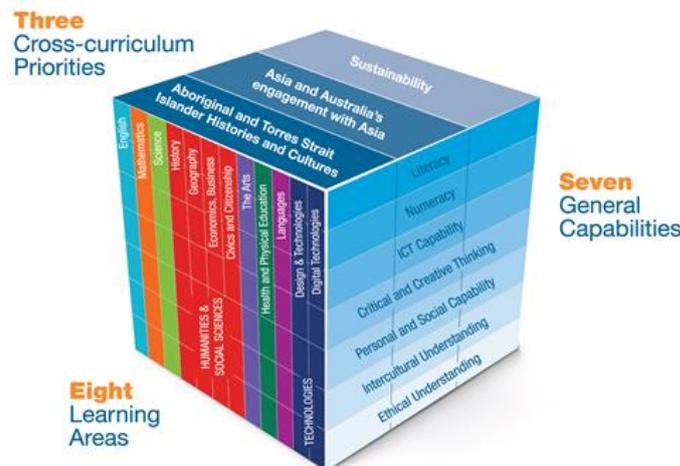
このスタンダードは、教員養成課程修了者、熟達教員 (Proficient)、非常に優れた教員 (Highly Accomplished)、指導的立場 (Lead) の四つの段階における教員に求められる知識やスキル、態度などを七つの項目で示したものであり、教員は教職年数に応じて、指導的立場へとステップアップすることが求められる。しかしながら、現在、非常に優れた教員及び指導的立場の教員は、教員全体の0.2% (1,300人) に留まっており、2025年までにその数を1万人にまで増やすことが目標とされている。

教員の雇用及び研修も含めたその管理は、各州教育省の管轄であり、各州では教員資格の更新に必要な教員研修の内容及び時間数が定められている。例えば、本調査で対象としたニューサウスウェールズ (NSW) 州では、資格更新のため、教員は5年間で100時間の研修を受講する必要があるが、それらの管理・監督は、カリキュラムや資格管理を行う州政府機関により行われている。しかし、実際に教員の研修を含めた職務管理を担うのは学校長であり、各学校でも、学習領域・学年毎に、様々な研修が行われている。

5-1-2 教育課程の構造と内容及びその特徴 (教育内容の扱いと資質・能力との関係)

(1) 構造と内容及びその特徴

オーストラリアでは、2013年以後、ナショナル・カリキュラムであるACが運用されている。ACは、いわゆる教科にあたる学習領域 (Learning Areas) と汎用的能力 (General Capabilities)、領域横断的優先事項 (Cross-Curriculum Priorities) の三層構造をもつ。ACでは、この三層が同等に重視されており、オンラインベースのカリキュラムである利点を活かして、それぞれの層を表にして内容を提示することにより、それぞれの学びの連続性や成果の進捗が見られるよう工夫がなされている (図5-3参照)。



出典：オーストラリアン・カリキュラムウェブサイト (<https://www.australiancurriculum.edu.au/f-10-curriculum/structure/>) (2024. 1. 14 アクセス確認)。

図5-3 ACの三層構造 (3-Dimensions)

以下の表 5-2 は、三層構造それぞれに含まれる内容をまとめたものである。学習領域は、学習の基礎を提供するものであり、すべての児童生徒に必要な不可欠な知識、理解、スキルを構造的に示したものである。「英語」「算数・数学」「科学」「人文・社会科学 (Humanities and Social Science : HASS)」「美術」「テクノロジー」「保健体育 (Health and Physical Education : HPE)」「言語」の八つが含まれる。汎用的能力は、各学習領域をまたがって必要とされる知識、スキル、行動及び態度を示したもので、リテラシー、ニューメラシー、デジタル・リテラシー、批判的・創造的思考、倫理的理解、異文化理解、個人的・社会的能力の七つが含まれる。一方、領域横断的優先事項には、オーストラリアのすべての子どもが学習すべき現代的課題として、アボリジニとトレス海峡島嶼民の歴史と文化、アジアとオーストラリアの結びつき、持続発展性の三つが挙げられている。領域横断的優先事項は、汎用的能力のような知識、スキルなどではなく、各学習領域に内容や視点を提供する役割を担っている。

表 5-2 AC の内容

学習領域	汎用的能力	領域横断的優先事項
英語	リテラシー	アボリジニとトレス海峡島嶼民の歴史と文化
算数・数学	ニューメラシー	アジアとオーストラリアの結びつき
科学	デジタル・リテラシー	持続発展性
人文・社会科学 (HASS)	批判的・創造的思考	
芸術	倫理的理解	
テクノロジー	異文化理解	
保健体育 (HPE)	個人的・社会的能力	
言語		

出典：本節担当の調査メンバー作成。

七つの汎用的能力には、リテラシーやニューメラシーのように、すべての学習にとって必要不可欠であり、かつ特定の学習領域と関連の深い能力もあれば、すべての学習領域に関わるものの、特に教員が意識しなければ、育成が難しい能力もある。そのため、AC では、各学習領域の内容に汎用的能力の育成に関する記述が組み込まれ、それぞれに作成されたアイコンによりそれが目立つよう工夫がなされている。また、汎用的能力それぞれに「ラーニング・コンティニウム (Learning Continuum)」もしくは (リテラシー・ニューメラシーの場合は)「ラーニング・プログレッション (Learning Progression)」と呼ばれる学習や到達基準の連続性を示す一覧が用意されており、各学習領域における学習の流れとは別に、児童生徒の成長や進捗が意識的に把握されるような整備もなされている。

(2) カリキュラムを構成する要素と AC の位置付け

各学習領域のカリキュラムは、主として、到達度スタンダード (Achievement Standards) と内容の説明 (Content Descriptions) から構成される。到達度スタンダードは、児童生徒が一般的に何を理解し、何ができるのかを示したものであり、F~Y10 までの各年次レベルにおいて、児童生徒が習得を期待される理解とスキルとが提示される。教員は、この到達度スタンダードの達成に向けて学習計画を立て、児童生徒の学習を管理し、評価を行う。一方、内容と説明は、教員が何を教え、児童生徒が何を学ぶのかを明らかにするものである。内容の説明では、説明の詳細 (Content Elaborations) が添付され、補助資料として図解や例示が提示されている。また、その年次及び内容の中で取り上げられるべき汎用的能力及び領域横断的優先事項もアイコンで示され、意図的な教授が目指されている。

F~Y10 までのカリキュラムでは、これらに加え、各学習領域全体の説明として、学習の根拠 (Rationale)、ねらい (Aims)、構造 (Structure)、考慮すべき事項 (Key Considerations)、汎用的能力及び領域横断的優先事項、他の学習領域との関係性 (Key Connections)、教材 (Resources) のダウンロードへのリンクが紹介されている。考慮すべき事項では、例えば、英語の学習領域においては、AC における英語の役割、学習計画を立てる上での各要素の統合について、様々な言語のモードに

ついて、テキストについて、さらには先住民や多様な学習者の対応について、英語を母語としない子ども達に対する支援などが述べられている。

AC は、先にも述べたように、連邦及び各州教育大臣の「合意」に基づきその開発が進められてきた。また、AC の到達度スタンダードや内容が全国的な学力調査（National Assessment Program Literacy and Numeracy : NAPLAN）と関連し、かつ NAPLAN への参加が、連邦政府から州政府への補助金要件の一部となっていることから、各州における AC の運用は、州政府が教育に関する権限を有するとはいえ、義務である。しかし、広い国土をもつオーストラリアでは、地域により、教育資源へのアクセスや児童生徒の学習ニーズなどが異なるため、各地の実情に即したカリキュラムの翻訳や運用のための調整も必要である。そのため、ACARA はもちろん、各州教育省及びカリキュラム開発組織では、学校や教員が活用可能な様々な教材・資料の提供を行うとともに、AC ではカリキュラムに記載される内容が、教員にとって教えられる（Teachable）分量であることを前提に、学校での教育活動全体の 8 割程度に留めることが意識されている。

また、オーストラリアでは、国家教育指針に掲げられる公正な教育機会の提供という目標の達成のため、学習者の多様な背景・ニーズを満たすカリキュラムの提供が求められている。AC では、言語・文化的背景はもちろん、同国の公用語である英語のレベルや障害・発達上の特性の有無、英才児（Gifted and Talented Students）教育の必要性など、特別な調整・支援や機会の提供が必要な児童生徒への対応が示されている。近年、学習の個人化（Personalising）も推奨されているが、これは AC でも、児童生徒が適切に調整された内容に公正にアクセスする上で必要かつ効果的なアプローチだと考えられている。

（3）改訂サイクルと主な改訂内容

AC は、2012 年にまず、「英語」「算数・数学」「科学」「歴史」の 4 領域で就学前から 10 年生まで（F～Y10）のカリキュラムが開発された後、各州においてはそれらの導入がなされつつ、段階的にその他の学習領域のカリキュラムの開発が進められた。2016 年には、中等教育修了資格に関わる後期中等教育（Y11～12）を除く F～Y10 のすべてのカリキュラムが開発・整備されたが、それに先立ち、その前年の 2015 年には、ACARA により 6 年毎のカリキュラムの見直しが提案され、連邦・州政府の教育大臣会議で承認された。そして、2022 年には新たなカリキュラムの運用が始められるよう、2020 年に ACARA によりカリキュラムの改訂作業が開始された。

改訂に際しては、教員及び専門家・関係者との協議はもちろん、10 週間にわたる大規模な公開協議（Public Consultation）が行われ、広く意見の集約が行われた。また、クイーンズランド大学に委託し、各国・地域の教育課程に関する調査が行われ、報告書がまとめられた。さらに、ボランティア参加の初等学校 47 校が、最初に提出された原案を試行するプロジェクトに参加し、内容の確認が行われた。これらの過程を経て、2024 年からは、（後期中等教育段階を除き）Version 9.0 と呼ばれる新たなカリキュラムの運用が、各州で順次開始される予定である。

主な改訂の内容は、以下の通りである。①最初に発表された四つの学習領域の開発からはすでに 10 年以上が経過しており、内容の刷新が行われた。また、②これまで指摘されてきたカリキュラムの過密化に対応するため、内容の削減や重複の見直しも行われた。全体としては、21%の内容削減が行われたが、それらは各学習領域で平等に行われたわけではない。例えば、初等教育段階（F～Y6）においては、人文社会科学（HASS）における内容の削減は全体の中で最も多く、同様に、中等教育段階（Y7～10）においても、シティズンシップや地理において内容が整理された。また、各学習領域間の重複の削減も行われた。さらに、③汎用的能力及び領域横断的優先事項の学習領域への一層の統合が図られたことは重要である。AC は開発当初から、学習領域、汎用的能力、領域横断的優先事項の三層構造をもつことが特徴であり、各学習領域に汎用的能力及び領域横断的優先事項の組み込みは意図的かつ明示的に行われてきたものの、各学習領域のカリキュラムの開発・運用が段階的に行われてきたこともあり、汎用的能力もしくは領域横断的優先事項から学習領域を眺めるという視点は十分にもち

えなかった。そのため、今回の改訂において、改めて汎用的能力・領域横断的優先事項を視点に学習領域を見直したことにより、より一層、それら三者の統合が可能になったと言える。

5-1-3 教育実施体制

先述したように、オーストラリアでは教育に関する権限は州政府にある。そのため、各州は、連邦及び各州教育大臣の合意により開発された AC を、各学校が運用できるよう環境を整備する責任をもつ。州により、AC をそのまま運用する (Adopt) か、AC に基づき州のカリキュラムを開発・整備する (Adapt) かという違いはあるものの、現在、オーストラリアのすべての子どもが、AC に定められる到達度スタンダードの達成に向けて、その内容に地域の実情を反映した多少の違いはあるものの、原則として同じカリキュラムに基づき教育を受けている。

各州には、教育プログラムの開発・運用に責任をもつ教育省 (Department of Education) と、カリキュラム及び評価の開発・管理に責任をもつカリキュラム・評価機関 (Authority の名称をもつ機関) が存在する。前者は、州立学校のみを対象とするのに対し、後者は、州により異なるが、カトリック及び独立学校もその対象とするのが一般的である。また、教員の専門職スタンダードやそれに照らした教員登録に関わる研修の管理などについては、カリキュラム・評価機関で行う場合と、それらとは別に独立した組織としてもつ州もある。

本調査では、シドニーを州都とし、オーストラリア最大の人口を誇るニューサウスウェールズ (NSW) 州とメルボルンを州都とするオーストラリア第二の州であり、古くから自律的学校経営の歴史をもつビクトリア (VIC) 州を対象とした。以下では、両州を事例に、特に AC の運用に焦点をあてて、教育の実施体制を見ていく。

(1) ニューサウスウェールズ (NSW) 州

①カリキュラム改革

NSW 州では、2018 年から 2 年間にわたりカリキュラム改訂に着手してきた。この改訂は、過去 30 年間における初めての総合的な改革であり、より明示的で知識ベースのアプローチへと舵を切るものであった。改革を主導したマスターズ (Masters, G.) の報告によれば、①それまでのカリキュラムには内容の整理 (De-Clutter) が必要であり、深い学習 (Deep Learning) にかける時間が十分ではなかった、②「英語」及び「算数」の学習の基礎が十分ではない子ども達が存在する、③すべての中高等教育修了試験 (HSC) 科目がさらなる学習や進路と明確な関係性をもっていない、といった課題を抱えていた。そのため、すべての児童生徒が習得すべき知識やスキルにより焦点をあてた、教員にとってわかりやすいカリキュラムへと変更すべく、同州カリキュラムの開発・管理に責任をもつニューサウスウェールズ州教育標準機関 (NSW Education Standard Authority : NESAs) の主導で、改訂作業が行われた。改訂にあたっては、広く協議の場などがもたれ意見の集約が行われるとともに、公募により教員などの専門家チームが作られ、教育段階及び学習領域毎の検討が行われた。

②カリキュラムの構造

NSW 州において学校は、NESAs により開発された個々の教科 (Subjects) のシラバスに基づき授業計画を策定する必要がある。同州の担当者は、教科毎のシラバスの採用は、学校及び教員に、より詳細に教育・学習すべき内容が提示できるため、それがひいては同州の高い教育成果に繋がっていると言う。シラバスは、学習の連続性 (Sequence of Learning) を提供するため、各教員が教室レベルの授業計画を行う際にも、各学校が学校全体の教育計画を立案する際にも主要なツールとなると考えられている。

NSW 州においては、教育段階は、初等教育 (K~Y6) と中等教育 (Y7~12) の二つに区分され、さらに、就学前教育を早期教育段階 (Early Stage 1) として、その後 2 学年を一括りに、学習の段階

(ステージ 1 から 6 まで) が用意されている。すべての児童生徒が学習しなければならない主要学習領域 (Key Learning Areas : KLA) は、以下の表の通りである。シラバスは、それぞれの KLA の下で細分化される教科ごとに用意されている。

表 5-3 NSW 州カリキュラムにおける主要学習領域

初等教育 (K-Y6)	中等教育 (Y7-12)
英語	英語
算数	数学
科学とテクノロジー	科学
人間社会と環境 (HSIE)	テクノロジーと応用学習
保健体育 (PDHPE)	人間社会と環境 (HSIE)
芸術	個人の発達と保健体育 (PDHPE)
言語	創造的芸術
	言語
	職業教育訓練 (VET)

出典：本節担当の調査メンバー作成。

各学校における教育プログラムでは、NESA のシラバスに示される成果 (Outcomes) と内容 (Contents) に即した学習の範囲と順序とを示さなければならない。「成果」は、児童生徒の学習の進捗や達成度を測定するために重要な基準を示すものである。シラバスでは、各ステージの終了時点までに、ほとんどの児童生徒が身に付けることが期待される知識、理解、スキルが示されている。一方、「内容」には、成果の解釈と活用方法、各ステージに適した学習内容、領域横断的優先事項に取り組むための内容などが含まれている。学校は、学習内容を選択する上で検討すべき優先事項や必要とされる調整・支援、現存の教育環境・資源などを考慮し、学習内容を柔軟に決定することができる。なお、NESA は、就学前から 6 年生までの各学習領域に配分する時間の目安も提示している。

NSW 州では、AC の汎用的能力及び領域横断的優先事項が、NSW が独自に加えた項目などと合わせて能力と優先事項 (Capabilities and Priorities) として定義されている。これらは、同州のすべての児童生徒が、カリキュラムで定められた幅広い学習成果を達成できるよう支援するものであり、個々の KLA の内容を通して育成される。そのため、能力と優先事項は、シラバスに記載される内容とは別に教えられたり、評価されたりすることはない。能力は、児童生徒が生活を送る上で、またその後の就労等に必要な知識、スキル、態度、行動を包括するものである。一方、優先事項に掲げられる課題は、児童生徒のコミュニティに対する理解や現代的な課題、彼らを取り巻く世界を把握するのに貢献する。それぞれに含まれる内容は表 5-4 に示したとおりである。

表 5-4 NSW 州カリキュラムにおける能力と優先事項

能力 (Capabilities)	優先事項 (Priorities)
リテラシー	アボリジニとトレス海峡島嶼民の歴史と文化
ニューメラシー	アジアとオーストラリアの結びつき
デジタル・リテラシー	持続発展性
批判的・創造的思考	公民とシティズンシップ (Civics and Citizenship)
倫理的理解	多様性と違い (Diversity and Difference)
異文化理解	仕事と企業 (Work and Enterprise)
個人的・社会的能力	

出典：本節担当の調査メンバー作成。

③各学校におけるカリキュラム開発と教員に対する支援

NSW 州において各学校は、州教育法、教育における障害基準 (Disability Standards for

Education) 及びシラバスに基づき、各学校のカリキュラムと教育プログラムを計画しなければならない。その際、州教育省が定める「カリキュラム・ポリシー・スタンダード (Curriculum Policy Standards)」に掲げられる事柄を満たす必要がある。

カリキュラム・ポリシー・スタンダードでは、教育段階を K～Y6、Y7～10 とに区分し、それぞれに求められる事項が定められている。例えば、K～Y6 では、必ず学習しなければならない領域として、「創造的芸術 (Creative Arts)」「英語」「HSIE」「算数」「PDHPE」「科学とテクノロジー」が挙げられており、「言語」は (選択科目として各言語のシラバスは用意されているもの) 必修ではない。また、柔軟な教育計画立案の必要性が前提とされつつも、学習時間の配分として、「英語」「算数」にかける時間を全体の半分、それ以外の学習領域及びスポーツには残り半分のうちの 40%をあてるよう指示している。特に身体を使う活動は重視されており、この 40%のうち、週に 150 分はスポーツや「PDHPE」にあてるべきことも言われている。一方、Y7～10 では、各学習領域の最低時間数が表 5-5 に示すように定められている。

表 5-5 NSW 州の 7～10 年生カリキュラムにおける最低学習時間数/年

学習領域	カリキュラム立案のために政策上求められる (最低) 総時間数
英語 (Y7～10)	500
数学 (Y7～10)	500
科学 (Y7～10)	500
HSIE (Y7～10)	400 (内訳は以下のとおり) ・地理 (7～8 年生) : 100 ・地理 (9～10 年生) : 100 ・歴史 (7～8 年生) : 100 ・歴史 (9～10 年生) : 100
言語	100 (1 年間継続)
テクノロジー (必修) (Y7～8)	200
音楽 (Y7～10)	100
ビジュアル・アーツ (Y7～10)	100
PDHPE	300 (7～10 年生にわたって提供)
スポーツなど身体を使う活動	150 分/週
追加的学習 (選択) (Y9～10)	400 (200 時間は定型の職業教育訓練 (VET) にかかわるコース, 残り 200 時間もしくはそれ以上は州教育省認可のコース)

出典 : NSW Department of Education, Policy Standards: Implementation document for curriculum planning and programming, assessing and reporting to parents K-12 policy, 2023, p.6 Table 1 をもとに本節担当の調査メンバー作成。

学校教育カリキュラムの立案において、特に重視されているのが評価である。各学校は、児童生徒が関連する学習の各ステージの成果の達成を証明するために、妥当性があり、信頼のできる評価方法を用いること、児童生徒の学習を管理し、フィードバックを提供し、彼らの達成度を判断するために適切な評価を行うこと、評価を継続的な教育・学習の指針とすることなどを求められる。また、保護者や関係組織に対する報告については、カリキュラム・ポリシー・スタンダードに、国家レベルの規定に基づき、その方法が詳細に規定されている。

各学校では、基本的に、学校の規模にもよるが、中等学校であれば、教科毎のチームがあり、カリキュラム作りはそのチームのコーディネーターを中心に行われる。コーディネーターがコアとなる教材や評価を開発し、チームでそれを活用し授業を提供する。基本的に、教える内容はシラバスに記載されているため、カリキュラムはシラバスをもとに開発される。各教員にはシラバス研究にあてるための時間も定期的に与えられている。

今回調査で訪問した中等学校では、教える内容を手段としてスキルを身に付けることに重きが置かれているため、各教員による評価も、それらを測定するのに適切な方法が模索されている。また毎年、学校全体でカリキュラムの評価を行う機会も設けられている。生徒の学習成果に照らしてカリキュラムの評価を行うことで、次年度への課題を共有し教育改善に繋げる取り組みがなされていると言える。

(2) ビクトリア (VIC) 州

①カリキュラムの構造

ビクトリア (VIC) 州のカリキュラム・フレームワークであるビクトリアン・カリキュラム (Victorian Curriculum: VC) (F～Y10) は、児童生徒が 11 年間の学校教育で学ばなければならない知識及びスキルを定めたものであり、学習領域 (Learning Area) と能力 (Capabilities) から構成される。それぞれの内容は表 5-6 にまとめた通りである。

表 5-6 ビクトリアン・カリキュラム (Victorian Curriculum: VC) の構造

学習領域	能力
芸術 ・舞踊 ・演劇 ・メディア芸術 ・音楽 ・美術 ・ビジュアル・コミュニケーション・デザイン	批判的・創造的思考
	倫理的な理解
	異文化理解
	個人的・社会的な能力
英語	
保健体育	
人文科学 ・公民とシティズンシップ ・経済・ビジネス ・地理 ・歴史	
言語	
算数・数学	
科学	
テクノロジー ・デザインとテクノロジー ・デジタル技術	

出典：本節担当の調査メンバー作成。

AC と VC の構造上の明らかな違いとして、①AC で示される汎用的能力が七つであるのに対し、VC では四つであること、②VC には領域横断的の優先事項が構造上、取り立てて明示されていないことが挙げられる。汎用的能力について、VC ではリテラシー、ニューメラシー、デジタル・リテラシー (旧 ICT リテラシー) は、個別の学習領域や個別の知識・技能をもつ能力としては取り出されてはいない。その理由として、例えば、リテラシーとニューメラシーは、「英語」と「算数・数学」といったそれらの育成を主に担う領域が明確に存在するため、それらのスキルを取り立ててカリキュラムにおいて定義する必要はないことが挙げられている。また、デジタル・リテラシーについては、現在ではカリキュラム全体にわたって、児童生徒の学習に組み込まれている。一方、これら三つの能力以外の批判的・創造的思考、倫理的な能力、異文化理解、個人的・社会的な能力については、学習領域の中で完全に定義されているわけではないものの、それぞれの学習領域で教員が明示的に教えなければならないスキルであるため、それぞれに到達度スタンダードが設定され、意図的な教育・学習が求められる。

一方、領域横断的の優先事項に関しては、カリキュラムの構造に明示的に含まれていないからといって、それらが軽視されているわけではない。むしろ、アボリジニとトレス海峡島嶼民の歴史と文化をはじめ、各学習領域の内容に具体的に組み込まれることで、その教育・学習が確実に行われると考えられている。例えば、言語や芸術の領域においては、先住民の言語や文化が教育資源とされ学習対象とされるのはもちろんのこと、7～8 年生の「公民とシティズンシップ」の領域では、ナショナル・ア

イデンティティについて先住民の視点から考えるといった内容も組み込まれている。これらの優先事項は、児童生徒が自分たちを取り巻く世界と関わり、それらをよりよく理解するための知識及びスキルを身に付ける上で重要だと考えられている。

VIC 州でも、NSW 州同様に、学習段階は 2 学年毎のまとまりで区切られている。そのため、VC の各学習領域の到達度スタンダードも、「英語」と「算数・数学」については、年次毎に 11 のレベルが設けられているものの、それ以外の領域は、5 もしくは 6 のレベル設定となっている。また、AC の改訂に伴い、現在、VC の改訂作業も進められており、2024 年以後、ビクトリアン・カリキュラム Version 2.0 の運用が順次開始される予定である。

②各学校におけるカリキュラム開発と教員に対する支援

VIC 州では、各学校が、校長のリーダーシップのもと、学校全体の教育計画（Whole School Curriculum Planning）を策定することが求められている。カリキュラムとはそもそも、すべての児童生徒が生涯学習し、社会的に成長し、活動的で教養のある市民となる上で必要な一連の知識及びスキルを示したものであり、学校における教育・学習プログラムの基盤を提供するものであるが、各学校には、自らの置かれた環境や保有する教育資源、専門家を考慮し、カリキュラムの運用を保証しつつも、自らの強みをより一層伸ばし得るプログラムを開発することが奨励されている。

各学校は、VIC 州カリキュラム評価機関（Victorian Curriculum and Assessment Authority: VCAA）がまとめた「VC F~10 改訂版カリキュラム開発と報告のためのガイドライン（Victorian Curriculum F-10 Revised Curriculum Planning and Reporting Guidelines）」をもとに、各学校の教育・学習計画を策定する。ガイドラインでは、VC に規定された内容は児童生徒の学習の基礎であること、カリキュラムの立案は 2 学年を基準に行うこと、学校は、校長の責任において教育・学習プログラムの開発にあたり保護者やコミュニティと協力すべきこと、また自身の教育・学習プログラムを記した学校全体の教育計画（Whole School Curriculum Planning）を公開すべきこと、カリキュラムの到達度スタンダードに照らして児童生徒の学習を報告しなければならないこと、その形式は地域やコミュニティの状況に合致する形式で行い得ることなどが定められている。

また、教育段階を、基礎段階（Foundation Stage、F~Y2）、発段階（Breadth Stage、Y3~8）、進路形成段階（Pathways Stage、Y9~10）と区分し、それぞれの段階で必要とされる学習内容及びその位置付けが説明されている。例えば、発段階（Y3~8）においては、児童生徒は VC に定められるすべての領域・能力に従事する機会をもつべきであり、学校は、以下の教育を提供すべきこととされている。

- ・ 各年次において「英語」「算数・数学」「科学」の体系的な教育・学習プログラム
- ・ （一つの）言語プログラム
- ・ 「歴史」「地理」「公民」。5 年生からは「経済・ビジネス」を含む人文科学プログラム
- ・ 3~4 年次には五つの芸術分野すべてを含み、5~6 年次及び 7~8 年次には少なくとも二つの芸術分野（パフォーマンス・アーツとビジュアル・アーツから一つずつ）を含む芸術プログラム
- ・ 「デザインとテクノロジー」及び「デジタル技術」の双方を含むテクノロジー・プログラム
- ・ 四つの能力を含む学習プログラム

学校は、これらの領域などの区分に従い時間割を構成する必要はない。しかし、これらの領域・能力などに関する教育・学習は、すべての児童生徒に確実に提供されなければならない。各学校では、NSW 州と同様に、これらの規定をもとに学習領域毎のチームにより授業計画が立案される。

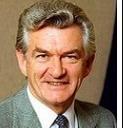
5-2 オーストラリアの国際教育に関する教育政策・方針

5-2-1 国際教育・現代的諸課題に関する基本政策・基本方針

オーストラリアはイギリスの系統を引くアングロサクソン系住民によって構成される社会であると考えられがちであるが、実は総人口の約4分の1が海外で生まれた者で構成される多文化社会である。例えば、ニューサウスウェールズ（New South Wales: NSW）州は州都をシドニーとする人口約650万人を抱える国内最大の州であるが、そのうち海外生まれの住民は約160万人で、割合にすると23%を超えている。またビクトリア（Victoria: VIC）州の州都であるメルボルンはギリシャ系住民の人口が国外で最も多い都市であると言われている。

多文化国家オーストラリアは、1901年の連邦結成以来、幾度にもわたる政策の方針転換がなされた後に成立したものであり、それは連邦結成時の「移住制限法（Immigration Restriction Act, 1901）」から第二次世界大戦後の国内労働力不足解消のためにイタリア、ギリシャなどの南ヨーロッパを含むヨーロッパ移民の大量受け入れや1970年代のベトナム戦争を背景としたインドシナ難民受け入れが契機となったアジア諸国からの移民の急増といった流れの中で、1972年に白豪主義の放棄、1975年の「人種差別禁止法（Racial Discrimination Act, 1975）」の制定を通じて、多文化主義社会に向けた取り組みを本格化させて現在に至っている。

表 5-7 オーストラリアの多文化主義の発展史の概要

時期	政治的な動き	当時の首相
白豪主義時代	<ul style="list-style-type: none"> 1770年：イギリス海軍のジェームズ・クックがオーストラリア大陸南東岸へ到着 1788年：オーストラリアの植民地化開始（当初は流刑地） オーストラリア先住民に対する軽視・差別（内向け白豪主義：アボリジニ絶滅政策）、天然痘でオーストラリア先住民の人口減少 1851年～：ゴールドラッシュで中国人移民激増 1855～1886年：各植民地地域で「移民制限法」の制定 VIC州植民地「特定の移住者に備えて準備するための法律」 NSW州植民地・西オーストラリア（WA）州植民地「中国人移住制限法」 1901年：オーストラリア連邦成立、「連邦移民制限法」→白豪主義へ 	バートン首相（保護貿易党） 
白豪主義の放棄・多文化主義への転換	<ul style="list-style-type: none"> 1958年：白豪主義政策のシンボルであった「ナタール方式」による書き取りテスト廃止 1972年：「移民法」「オーストラリア市民権法」の改正→「オーストラリア型多文化主義」へ（文化的多元主義型多文化主義、いわゆる温かな多文化主義） 1975年：「人種差別禁止法」制定 	メンジャーズ首相（自由党）  ホイットラム首相（労働党） 
多文化主義国家へ	【保守政権下の初期政策】 <ul style="list-style-type: none"> 1975年：「移民及びエスニック問題省（Department of Immigration and Ethnic Affairs）」の設置→移民の推奨 1979年：移民選考のためのポイント制導入 【経済的合理主義による発展期とその反動】 <ul style="list-style-type: none"> 経済成長の点から労働人口確保するための移民政策（高学歴の移民） 多文化主義者と反多文化主義者の移民論争勃発 1988年：「一つのオーストラリア」提唱（同国の伝統的価値観の再認 	フレイザー首相（自由党）  ホーク首相（労働党） 

	<p>識、反多文化主義)</p> <p>【アジアとの関係強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 新概念「生産的多様性」が多文化主義政策に加わる • 1995年：『多文化国家オーストラリア：2000年に向けて及び2000年を見越しての次のステップ』公表 <p>【保守的価値観の再現】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1988年以来の「一つのオーストラリア」を強調 • 反多文化主義政策（多文化主義関係の組織閉鎖、予算大幅削減） • 2003年：『多文化国家オーストラリア：多様性の中の結合』公表（文化的多様性が生み出す利点を強調） 	<p>キーティン グ首相（労働党） </p> <p>ハワード首相（自由党） </p>
<p>先住民理解重視のより発展した多文化主義</p>	<p>【先住民の理解強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 2019年の下院総選挙で、与党・保守連合が予想に反して勝利し、モリソン首相が第2次内閣を発表。 • 新内閣では初めて先住民問題相にオーストラリア先住民のケン・ワイアット氏を指名。これによって、今まで以上に先住民への理解が教育において重要な位置を占めるようになる 	<p>モリソン首相（自由党） </p> <p>アルバーニージー首相（労働党） </p>

出典：増田あゆみ「オーストラリア多文化主義政策の変遷」名古屋学院大学『論集、社会科学編 第47巻、第1号』2010年、pp. 83-94、遠山嘉博「白豪主義から多文化主義へ」（雑誌名、発表年不明）を参考に調査団作成。

このような多文化国家オーストラリアにおいては国際教育が非常に重視されており、このことはACで定められた七つの汎用的能力の一つとして「異文化理解 (Intercultural Understanding)」が設定されていることをはじめとして、「人文・社会科学 (Humanities and Social Science: HASS)」や「公民とシティズンシップ (Civics and Citizenship)」「経済とビジネス (Economy and Business)」「地理 (Geography)」「歴史 (History)」「古代史 (Ancient History)」「近現代史 (Modern History)」「科学 (Science)」「地球と環境科学 (Earth and Environmental Science)」といった学習領域を中心にして国際教育の学習内容が多く取り扱われていることから明らかである。さらに領域横断的の優先事項としての「アボリジニとトレス海峡島嶼民の歴史と文化 (Aboriginal and Torres Strait Islander History and Cultures)」「アジアとオーストラリアの結びつき (Asia and Australia's Engagement with Asia)」「持続発展性 (Sustainability)」という三つの内容も国際教育に密接に関係している。では、学習領域の中に記された国際教育に関連する主要な記述について見ていく。

<p>【学習領域】「人文・社会科学 (HASS)」(F~Y6)、「地理」「歴史」「公民とシティズンシップ」「経済とビジネス」(ともに Y7~10)</p> <p>児童生徒は、世界の様々な場所や人々の多様性、生活様式、文化的慣行、価値観、信念について学びながら、異文化理解 (Intercultural Understanding) を深める。また自分自身の歴史と他者の歴史を理解することの重要性を学び、オーストラリア先住民の歴史と文化及びオーストラリアへの移民が同国で行った貢献の重要性について認識する。こうしたことは文化の多様性 (Cultural Diversity) とすべての人々の人権を尊重することを意味する。</p> <p>さらに児童生徒は、オーストラリアと他国との経済的及び政治的関係と、現在及び将来の異文化理解の役割について学ぶ。人々間の相互関係と場所がもつ重要性についての調査を通して、自分自身を含む様々な文化的アイデンティティがどのように形成されているのかを学ぶ。加えて集団への帰属や伝統、習慣、宗教的及び文化的慣行などの要因が市民生活にどのように影響するのかを考慮して、自分自身の異文化体験を振り返り、人々が文化の境界を超えてどのように交流するのかを探っていく。</p> <p>児童生徒はアジア地域の国々の内外に存在する文化、価値観、信念、歴史、環境の多様性を学ぶ。そしてこの多様性が、人々が互いに交流する方法、居住場所、地域全体の社会的、経済的、政治的、文化的システムにどのように影響を与えているのかについて学習していく。またアジア地域での国内移住とアジアか</p>

らオーストラリアへの移住の背後にある理由を調べ、現在オーストラリア市民であるアジア系の人々の経験についての理解を深めていく。さらに児童生徒はオーストラリアとアジア地域の共有された歴史と環境、社会、経済の相互依存についても学び、変化するグローバル化した世界において、アジアとオーストラリアの間の相互依存の性質が変化し続けていることを理解する。加えて、**国境を超えた異文化間の協働による持続可能な未来を支援する方法を探究**することを通じて、オーストラリア人が知的な市民として積極的にアジア地域に参加していく方法について考える。(太字は調査団による)

出典：Australian Curriculum Version 9.0 の各教科記述の「汎用的能力」及び「領域横断的優先事項」の記述を調査団翻訳。

【学習領域】「古代史」(Y11～12)

生徒は、文化的に多様な視点とその役割についての知識を習得し、それらが時間の経過とともにどのように変化するかを学ぶ。また古代世界の多様な社会と文化についての理解を深め、**様々な生活様式が現代世界における異文化間の多様性 (Intercultural Diversity) を認識・評価するための基準の枠組みを提供**してくれることを学習する。さらに生徒は、様々な視点、それらの視点の歴史的な文脈及び現代世界との関係における古代社会の遺産についても探究していく。

遺跡の研究や古代インド及び古代中国社会における信念と慣習の研究などを通して、こうしたアジアの古代社会について理解を深めることが重要である。したがって、こうした古代社会における個人の役割、古代インド及び中国の特定の歴史的時期における急速な発展状況などについて学ぶ。(太字は調査団による)

出典：Australian Curriculum Version 8.4 の各教科記述の「汎用的能力」及び「領域横断的優先事項」の記述を調査団翻訳。

【学習領域】「近現代史」(Y11～12)

生徒は、**様々な文化集団の多様な信念と価値観を探究し、現代に見られるそれらの多様性についての理解を深める**。また異なる文化集団間の紛争、統合、または相互依存の性質、原因、結果についても学習し、理解する。さらに生徒は、様々な現代的視点、それらの視点の歴史的な背景、社会における多様な集団間の関係についての歴史的な影響、現代世界における個人及び集団の行動にどのように貢献してきたかについて学ぶ。

アジア諸国が辿ってきた開発の道筋（及びそれらがヨーロッパの経験とどのように異なるか）、アジアの独特の変化、世界におけるアジアの影響力の増大、オーストラリアのアジアとの関与がどのように行われてきたかを学ぶ。また現代のアジアとオーストラリアとの関係は文化的、経済的、政治的に変化してきたことも理解する。(太字は調査団による)

出典：Australian Curriculum Version 8.4 の各教科記述の「汎用的能力」及び「領域横断的優先事項」の記述を調査団翻訳。

【学習領域】「地理」(Y11～12)

生徒は幅広い文化的文脈の中で、**地理的な問題を検討しながら異文化理解 (Intercultural Understanding) を深めていく**。これには世界の文化の複雑さと多様性について認識し、世界の環境と課題に対する代替の対応を評価することも含まれる。また国際的に統合された世界で相互接続と持続可能な解決策を見つけ、**様々な文化的反応からの意味を考える**。

「地理」の学習を通じてアジア地域及びアジアとオーストラリアの関係について幅広い文脈において調査・研究を行う。例えば、自然及び生態学的危険についての調査・研究及びそのようなリスクの発現を管理して人々や環境に対する弊害を排除または最小限に抑える方法の調査・研究、開発途上国、特にアジア地域の巨大都市が直面する課題、人間活動によって変化している土地被覆に関する調査・研究、経済的及び文化的統合の結果として起こる社会的変化の調査・研究などが含まれる。(太字は調査団による)

出典：Australian Curriculum Version 8.4 の各教科記述の「汎用的能力」及び「領域横断的優先事項」の記述を調査団翻訳。

【学習領域】「科学」(地球と宇宙科学分野) (F~Y10)

児童生徒は、様々な時間と空間において作動するシステムを理解し、システムの仕組み、その変化と対応を調べることで、地球上の地圏、水圏、生物圏、大気圏の相互接続についての認識を深める。また生態系のダイナミクス、風化と浸食、エネルギー源、グリーンケミストリー、**地球規模の気候変動 (Global Climate Change)** などの状況を調べ、人間やその他の活動が地球システムに及ぼす可能性のある影響を予測し、管理計画を策定するために科学的知識がどのように活用されるのかを理解することができる。さらに、こうした地球システムへの影響を最小化あるいは軽減する代替技術についても学ぶ。加えて、**科学が社会の多くの分野で意思決定の基礎を提供し、これらの決定が環境、社会、経済システムの持続可能性 (Sustainability) に大きな影響を与える可能性があることを認識する。** (太字は調査団による)

出典：Australian Curriculum Version 9.0 の各教科記述の「領域横断的優先事項」の記述を調査団翻訳。

【学習領域】「地球と環境科学」(Y11~12)

生徒は、「地球と環境科学」の学習を通じて、**アジア地域及びオーストラリアとアジアの関係についての幅広い文脈において調査・研究を行う。**例えば、**アジア地域の多様な環境を探索し、人間活動とこれらの環境との相互作用がオーストラリアを含む地域に影響を与え続けており、世界の他地域にとっても重要であるという認識を深める。**また地球環境科学の発展について調べることで、自然災害の予測と管理、天然資源の管理、エネルギーなどの分野で、**アジア地域がオーストラリアの科学者との協力を含めた形で科学の研究と開発において重要な役割を果たしていることを理解する。**

「地球と環境科学」では**持続可能な発展 (Sustainable Development)** というテーマも扱う。地球システムモデルにおいては、**地球と生物圏、地圏、水圏、大気圏の相互接続と、これらのシステムが空間及び時間的スケールの範囲にわたってどのように機能し、相互作用しているかを理解する。**また様々な現象における原因と結果などの関係を探究し、自分自身の周りの世界におけるこれらの関係を現在及び将来にわたって調べるための観察能力、分析能力を習得していく。 (太字は調査団による)

出典：Australian Curriculum Version 8.4 の各教科記述の「領域横断的優先事項」の記述を調査団翻訳。

こうした国際教育を重視する背景には、オーストラリアで生きていくためにはそこに居住する多様な人々もつ文化や習慣の違いを理解しなければいけないという考え方があり、こうした理解をもって初めて多様な人々とともに生活し、仕事もともにすることが可能となるということが社会通念として多くのオーストラリア人に浸透しているということが言えるであろう。汎用的能力の一つ「異文化理解」には、その意味として「文化と文化的多様性への省察 (Reflecting on Culture and Cultural Diversity)」「文化的・言語的多様性への取り組み (Engaging with Cultural and linguistic Diversity)」「異文化状況のナビゲート (Navigating intercultural Contexts)」が示されているが、まさにこうしたことを教育活動として行っていくことが必要であると考えられているのである。

また、各州では連邦政府の大原則に則って、より詳細な規則や法律を策定している。例えば、NSW 州では 2000 年に「多文化主義の原則 (Multicultural Act 2000)」が策定されると同時に、州全体の多文化主義政策の推進機関である「NSW 州における多文化主義のためのコミュニティ関係委員会 (Community Relations Commission for a Multicultural NSW: CRC)」の設立を規定した「2000 年コミュニティ関係委員会及び多文化主義の原則に関する法律 (Community Relation Commission and Principles of Multicultural Act, 2000)」が制定され、州内の多文化主義政策を強力に推進する体制が整備されている。

この法律は、27 条及び四つの附則で構成され、第一章において「多文化主義の原則」を規定し、第二章以降で CRC の構成や任務を規定している。この法律で規定された多文化主義は次のようになっている。もちろん、この規定は NSW 州の公立学校の教育活動にも適用され、この規定に則って NSW 州内で学校教育が実践されている。

「2000年コミュニティ関係委員会及び多文化主義の原則に関する法律」における多文化主義の定義

第三条 多文化主義の原則

- (1) 議会は、NSW 州の住民が言語、宗教、人種及び民族に関して異なる環境を有し、住民が個人として、またはコミュニティの他の構成員とともに、自らの言語、宗教、人種及び民族の継承に関し公言し、実行し、維持することができる自由を有することを認識する。議会はそのため以下に掲げる多文化主義の原則を支持し、促進する。
 - (a) 第一原則：NSW 州のすべての個人は、公民として法律上参加することが可能なすべての場面において最大限の寄与または参加の機会が付与されなければならない。
 - (b) 第二原則：すべての個人及び機関は、英語が共通語であるオーストラリアの法的及び制度的な枠組みの範囲内で、他者の文化、言語及び宗教を尊重し、提供しなければならない。
 - (c) 第三原則：すべての個人は、NSW 州政府により提供され、または処理される事業及びプログラムについて最大限の利用または参加の機会が付与されなければならない。
 - (d) 第四原則：NSW 州のすべての機関は、NSW 州の住民に存する言語及び文化の財産が貴重な資産であることを認識し、この資産を州の発展のために最大限になるよう促進しなければならない。
- (2) (省略)
- (3) 多文化主義の原則は州の政策である。
- (4) したがって、各公的団体は事務を実施するにあたり、多文化主義の原則を遵守しなければならない。
- (5) 各公的団体の最高経営責任者は、その所管事務の範囲において本条の規定を実施する責務を有する。

出典：甘利昌也他「特集 オーストラリアの多文化主義政策」『自治体国際化フォーラム』2010年、p.5及びNSW Government, “NSW legislation” (<https://legislation.nsw.gov.au/view/whole/html/inforce/2003-10-23/act-2000-077>) を参照して調査団作成。

またVIC州では2014年以降、「グローバル教育 (Global Education)」がやや下火になっていたが、それに代わる新たな教育活動として、「世界多文化・市民性教育 (Global Multicultural Citizenship Education)」というものが積極的に推進されている。同州では歴史的に多くの移民を受け入れてきたという経緯もあり、オーストラリアでも有数の多文化・多言語を有する州であることから、言語や文化、それに歴史教育に力が入られるようになってきており、そうした政策の方向性から、「世界多文化・市民性教育」という新しい教育活動が生まれてきたようである。

この教育活動のもとでは、すべての児童生徒にグローバルな人的移動の活発化や文化的・政治的・経済的相互関係性によって特徴付けられる世界で成長するために必要な知識、スキル、態度を育成しようとしており、それらには異文化コミュニケーションスキル、異文化リテラシー、高度な英語のスキル、英語以外の言語の能力、多文化的・グローバルなものの見方・考え方といった能力が含まれる³。

³ 見世千賀子「オーストラリアのシティズンシップ教育：オーストラリアのシティズンシップ教育がめざすもの」公益財団法人 明るい選挙推進協会『Voters 12号』2013年、pp.18-19、及び酒井喜八郎「オーストラリアの環境教育としてのシティズンシップ教育～ESD教育を中心に～」2018年（公益財団法人国土地理協会 第14回学術研究助成）、p.18を参照。

コラム：ACの発展過程

オーストラリアはもともと連邦制を採用しており、憲法規定に基づき、教育に関する権限は各州政府がもっている。そのため、従来から教育制度はもとより、学校の教育課程もすべて各州が独自に編成して、教育活動を行ってきたために、州によって制度や内容が大きく異なっていた。しかしながら、1980年代後半に連邦政府及び各州教育大臣の合意により「国家教育指針」が策定されて以降は、国家としての統一性が徐々に求められるようになってきた。

2008年には国家教育指針として「メルボルン宣言 (Melbourne Declaration on Educational Goals for Young Australians)」が提唱され、同国初のナショナル・カリキュラムの開発が始まった。このナショナル・カリキュラムは2013年以降、段階的に各州で導入され、2020年からは義務教育後の後期中等教育段階でもその使用が開始され、これによってすべての教育段階及び学習領域で統一された指針・基準に基づいた教育が提供されるようになった。この同国初のナショナル・カリキュラムは、通称「オーストリアン・カリキュラム (Australian Curriculum: AC)」と呼ばれている。そして、この導入を導いた「メルボルン宣言」では次の二つの国家教育目標が掲げられ、ACは最終的にこの目標の実現を目指したものとなった。

「メルボルン宣言」における国家教育目標

- ① オーストラリアの学校教育は、公正 (Equity) と卓越性 (Excellence) を促進する
- ② オーストラリアのすべての若者は、成功した学習者、自信に満ちた創造的な個人、活動的で教養のある市民となる⁴

ここで「メルボルン宣言」以降の同国のACの発展については以下のようである。

表 5-8 2008年以降のACの発展

年 (月日)	ACの発展の状況
2008年	・すべての州政府によってナショナル・カリキュラム策定が合意される。
2010年	・小学校準備課程 (F) から10年生 (Y10) における「英語」「算数・数学」「科学」「歴史」のAC (Version 1.0) が公表される。
2011-2012年	・「英語」「算数・数学」「科学」「歴史」のACが改訂される (Version 2.0及び3.0)。
2012年	・「英語」「数学」「科学」「歴史」の4学習領域の後期中等教育のACが開発される (Version 4.0)。
2013年	・「地理」がACに追加される (Version 5.0)。
2014年	・「保健体育」「テクノロジー」「芸術」及び「人文・社会科学」を構成する数科目がACに追加される (Version 6.0)。また、「言語」を構成する数科目がACに追加される (Version 7.0)。
2015年	・2014年に行われたオーストラリア政府のACレビューによって8学習領域すべてのACが改訂される (Version 8.0)。 ・この2015年のACレビューに続き、6年毎にACARAがレビューを行い、この最初のレビューは2020～2021年から始まることが各州大臣によって合意される。
2015-2020年	・ACの微細な改訂及び追加が行われる (Version 8.4)。
2020年	・ACのレビュー方法が各州大臣によって合意される。 ・2021年4月～7月にかけて国民への公開と意見聴取を含むレビュー案がACARAより提案される。
2022年4月1日	・AC (Version 9.0) が承認される。

出典：ACARA (Australian Curriculum, Assessment and Reporting Authority) ホームページを参考に調査団作成。
(<https://acara.au/curriculum>)

⁴ 原文は「Goal 1: Australian schooling promotes equity and excellence, Goal 2: All young Australian become successful learners, confident and creative individuals, and active and informed citizens.」となっている。

上記の表 5-8 から現在は 2019 年に発表された国家教育指針「アリススプリングス宣言 (Alice Springs <Mparntwe> Education Declaration)」⁵に基づいた新たな AC (Version 9.0) が運用されているが、この「アリススプリングス宣言」では次のような国家教育目標が掲げられた。

「アリススプリングス宣言」における国家教育目標

- ① オーストラリアの教育制度は卓越性 (Excellence) と公正 (Equity) を促進する
- ② オーストラリアのすべての若者は、自信に満ちた創造的な個人、成功した生涯学習者、活動的で教養のあるコミュニティの構成員になる⁶

この「アリススプリング宣言」の内容は、基本的には「メルボルン宣言」と同様であるが、多少異なった用語が使われている。「学校教育」が「教育制度」と変更されたり、「成功した学習者」が「成功した生涯学習者」と改訂されたり、「活動的で教養のある市民」が「活動的で教養のあるコミュニティの構成員」と代えられたりしている。また用語の順序も多少入れ替わっている。

現在の AC (Version 9.0) は上記の「アリススプリングス宣言」を踏まえて改訂され、2022 年から運用されているが、先に触れた前カリキュラムと同様に、就学前教育段階から 12 年生までのすべての教育段階を通して、すべての学習領域で使用されている。ただし、従来の「オーストラリアン・カリキュラム (AC)」から大きく改訂された点として次のようなものが挙げられている。

- 従来のカリキュラムから 21% の内容の削除。これにより各内容のより深い学習が可能となる。
- 英語のフォニックスを強化。
- 「算数・数学」における本質的な内容、能力、概念、学習過程の強化とその適切な導入。
- 計算機を使用せずに「算数・数学」の計算が正しくできるように基本的計算能力の向上。
- 「算数・数学」の内容提示の改訂、特に時刻の読み方、分数の導入、乗法表、等式の解法。
- 1 年生 (Y1) における「算数・数学」の加法・減法に関する内容、2 年生 (Y2) における乗法に関する内容の一部導入繰り下げ。
- 9 年生 (Y9) 及び 10 年生 (Y10) においてグローバル化の文脈からの「オーストラリア史」の優先度強化。
- 「ファースト・ネーション：オーストラリア史と文化」についての深い理解とイギリス人定住者のオーストラリアへの到着と彼らの近代国家建設に向けた貢献の学習強化。
- オーストラリアの民主主義におけるキリスト教及び西洋遺産の起源と同国コミュニティの多様性についての指導の強化。
- 小学校準備課程 (F) から 10 年生 (Y10) において児童生徒の発達段階に対して適切な方法で同意と尊重の関係を指導することの強化。
- デジタル化時代におけるプライバシーと安全性の追加。
- 児童生徒の学習において、自然との触れ合いや屋外での活動により焦点を合わせた身体的な学習活動の強化。
- 1 年生 (Y1) における八つのすべての学習領域の学びを有意義なものとするために、小学校準備課程 (F) での本質的な学習内容の強化。

出典：ACARA, “Australian Curriculum-What’s changed in the new Australian Curriculum?” 2023 (<https://v9.australiancurriculum.edu.au/resources/stories/curriculum-changes>)。

⁵ 「Mparntwe」とは、古くからこの地に享受してきたオーストラリア先住民のアレント (Arrente) 族による呼称であり、「ムパーントゥワ」と発音する。

⁶ 原文は「Goal 1: The Australian education system promotes excellence and equity, Goal 2: All young Australians becomes confident and creative individuals, successful lifelong learners, and active and informed members of the community.」

5-2-2 現代的諸課題⁷（本調査での4課題）の教育課程上の位置付け

本調査においては、現代的諸課題として「異文化理解」「国際関係・国際教育」「移民/多文化共生」「地球環境/気候変動」の4分野が想定されている。すでに「オーストラリアン・カリキュラム（AC）」の教育課程における国際教育における教育政策及び方針については触れたが、ここでは再度これら4分野の現代的諸課題との関係性について整理しておく。

その前にAC、NSW州教育課程、VIC州教育課程で示されている教育段階別の学習領域構成を確認し、その後、現代的諸課題がそうした領域の中でどのように取り扱われているかを概観する。

表 5-9 現行 AC (Version 9.0) における学習領域 (F-Y10)

学習領域	F-Y6	Y7-10	改訂年
英語 (English)	✓	✓	2022
算数・数学 (Mathematics)	✓	✓	2022
科学 (Science)	✓	✓	2022
保健体育 (Health and Physical Education)	✓	✓	2022
人文・社会科学 (Humanities and Social Science: HASS)			
人文・社会科学 (HASS)	✓		2022
公民とシティズンシップ (Civics and Citizenship)		✓	2022
経済・ビジネス (Economy and Business)		✓	2022
地理 (Geography)		✓	2022
歴史 (History)		✓	2022
芸術 (The Arts)			
舞踊、メディア芸術、音楽、美術	✓	✓	2022
テクノロジー (Technologies)	✓	✓	2022
言語 (Languages)			
中国語、フランス語、イタリア語、日本語などを含む	✓	✓	2022

注：網掛けは国際教育に密接に関連していると考えられる学習領域を示す。

出典：ACARA, “Australian Curriculum-Learning Areas”, 2023 を参考に調査団作成。

(<https://v9.australian.curriculum.edu.au/f-10-curriculum-overview/learning-areas>)

表 5-10 現行 AC (Version 8.4) における学習領域 (Y11-12)

学習領域	Y11	Y12	改訂年
英語 (English)			
英語 (English)	✓	✓	2020
追加的言語あるいは方言としての英語 (English as an Additional Language or Dialect)	✓	✓	2020
必須英語 (Essential English)	✓	✓	2020
文学 (Literature)	✓	✓	2020
数学 (Mathematics)			
必須数学 (Essential Mathematics)	✓	✓	2020
一般数学 (General Mathematics)	✓	✓	2020
数学的方法 (Mathematical Methods)	✓	✓	2020
専門数学 (Specialist Mathematics)	✓	✓	2020
科学 (Science)			
生物 (Biology)	✓	✓	2020
化学 (Chemistry)	✓	✓	2020

⁷ ここで言う「現代的諸課題」とは、日本の文部科学省「学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」2017年の「付録6」で言及されている①伝統や文化に関する教育、②主権者に関する教育、③消費者に関する教育、④法に関する教育、⑤知的財産に関する教育、⑥郷土や地域に関する教育、⑦海洋に関する教育、⑧環境に関する教育、⑨放射線に関する教育、⑩生命の尊重に関する教育、⑪心身の健康の保持増進に関する教育、⑫食に関する教育、⑬防災を含む安全に関する教育、といった13の内容をもとに、特に国際教育に関連した内容として、次の4分野を指すこととする。㉞異文化理解、㉟国際関係・国際協力、㊱移民/多文化共生、㊲地球環境/気候変動、の四つである。

地球と環境科学 (Earth and Environmental Science)	✓	✓	2020
物理 (Physics)	✓	✓	2020
人文社会科学 (Humanities and Social Science)			
古代史 (Ancient History)	✓	✓	2020
近現代史 (Modern History)	✓	✓	2020
地理 (Geography)	✓	✓	2020

注：網掛けは国際教育に密接に関連していると考えられる学習領域を示す。

出典：ACARA, “Australian Curriculum-Learning Areas”, 2023 を参考に調査団作成。

(<https://v9.australian.curriculum.edu.au/senior-secondary-curriculum>)

表 5-11 NSW 州の現行の教育課程において定められた学習領域 (K-Y12)

学習領域	K-Y6	Y7-8	Y8-10	Y11-12	改訂年
英語 (English)	✓	✓	✓	✓	2023
算数・数学 (Mathematics)	✓	✓	✓	✓	2023
科学 (Science)					
科学 (Science)		✓	✓		2023
生物 (Biology)				✓	2017
化学 (Chemistry)				✓	2017
物理 (Physics)				✓	2017
地球と環境科学 (Earth and Environmental Science)				✓	2017
人間社会と環境 (Human Society and Its Environment: HSIE)					
地理 (Geography)	✓	✓	✓	✓	2015
歴史 (History)	✓	✓	✓		2012
商業 (Commerce)		✓	✓		2019
先住民学 (Aboriginal Studies)		✓	✓	✓	2020
労働教育 (Work Education)		✓	✓		2019
労働学 (Work Studies)				✓	2012
古代史 (Ancient History)				✓	2017
近現代史 (Modern History)				✓	2017
経済 (Economics)				✓	2009
ビジネス学 (Business Studies)				✓	2010
ビジネスと経済・ライフスキル (Business and Economics, Life Skills)				✓	2010
ビジネス・サービス (Business Services)				✓	2022
法学 (Legal Studies)				✓	2009
社会と文化 (Society and Culture)				✓	2013
宗教学 I 及び II (Studies of Religion)				✓	2009
労働とコミュニティ (Work and the Community Life Skills)				✓	2015
創造的芸術 (Creative Arts)					
創造的芸術 (Creative Arts)	✓			✓	2006
舞踊 (Dance)		✓	✓	✓	2023
演劇 (Drama)		✓	✓	✓	2023
音楽 (Music)		✓	✓	✓	2003
美術 (Visual Arts)		✓	✓	✓	2004
ビジュアルデザイン (Visual Design)		✓	✓	✓	2004
写真デジタルメディア (Photographic and Digital Media)		✓	✓		2004
写真・ビデオ・デジタルイメージ (Photography, Video and Digital Imaging)				✓	2000
個人の発達と保健体育 (Personal Development, Health and Physical Education: PDHPE)					
個人の発達と保健体育 (PDHPE) 及びライフスキル (Life Skills)	✓	✓	✓		2018
子ども学 (Child Studies)		✓	✓		2019
身体活動・スポーツ学 (Physical Activity and Sports Studies)		✓	✓		2019
コミュニティと家族学 (Community and Family Studies: CAFS)				✓	2016
幼児期の探索 (Exploring Early Childhood)				✓	2007
健康と動きの科学 (Health and Movement Science)				✓	2023
スポーツ・生活様式・レクリエーション学 (Sport, Lifestyle and Recreation Studies)				✓	2007

言語 (Languages)					
先住民言語 (Aboriginal Languages)	✓	✓	✓		2023
手話 (Auslan)	✓	✓	✓		2023
古典 (Classical Languages)	✓	✓	✓		2023
テクノロジーと応用学習 (Technology and Applied Studies)					
科学とテクノロジー (Science and Technology)	✓				2017
テクノロジー (Technology)		✓			2023
農業技術 (Agricultural Technology)		✓	✓		2019
コンピューティング・テクノロジー (Computing Technology)		✓	✓		2023
デザイン技術 (Design and Technology)		✓	✓		2019
食品技術 (Food Technology)		✓	✓		2019
グラフィック・テクノロジー (Graphic Technology)		✓	✓		2019
工業技術 (Industrial Technology)		✓	✓		2019
海洋水産技術 (Marine and Aquaculture Technology)		✓	✓		2019
繊維技術 (Textile Technology)		✓	✓		2019
農業・ライフスキル (Agriculture Life Skills)				✓	2010
工学 (Engineering Studies)				✓	2011
企業コンピューティング (Enterprise Computing)				✓	2023
食品技術 (Food Technology)				✓	2013
海洋学 (Marine Studies)				✓	2012
ソフトウェア工学 (Software Engineering)				✓	2023
繊維デザイン (Textile and Design)				✓	2013
職業教育訓練 (Vocational Education and Training: VET)					
自動車 (Automotive)				✓	2023
ビジネスサービス (Business Service)				✓	2023
建設 (Construction)				✓	2023
電子技術 (Electrotechnology)				✓	2023
情報・デジタル技術 (Information and Digital Technology)				✓	2023

注：網掛けはACで言及された以外のNSW州教育課程において独自に設定された国際教育と関係の深い学習領域を示す。

注1：「英語」と「算数・数学」(F-Y10)はAC Version 9.0をもとにして2023年に改訂されたばかりであるが、それ以外はAC Version 8.4をもとにしたものであり、今後順次改訂されていく予定である。

出典：NSW Education Standards Authority, “NSW Curriculum”, 2023を参考に調査団作成。

<https://curriculum.nsw.edu.au/learning-areas>

表 5-12 VIC州の現行の教育課程において定められた学習領域 (F-Y12)

学習領域	F-Y10	Y11-12	改訂年
英語 (English)	✓	✓	2023
算数・数学 (Mathematics)	✓	✓	2023
科学 (Science)			
科学 (Science)	✓		2022
生物 (Biology)		✓	2022
化学 (Chemistry)		✓	2017
環境科学 (Environmental Science)		✓	2022
物理 (Physics)		✓	2017
心理学 (Psychology)		✓	2022
人文科学 (The Humanities)			
公民とシティズンシップ (Civics and Citizenship)	✓		2018
経済・ビジネス (Economics and Business)	✓		2018
地理 (Geography)	✓	✓	2021
歴史 (History)	✓	✓	2022
オーストラリアと世界の政治 (Australian and Global Politics)		✓	2018
古典研究 (Classical Studies)		✓	2019
哲学 (Philosophy)		✓	2019
宗教と社会 (Religion and Society)		✓	2022

社会学 (Sociology)		✓	2018
ビジネス・経済 (Business and Economics)			
会計学 (Accounting)		✓	2019
ビジネス経営 (Business Management)		✓	2023
経済学 (Economics)		✓	2023
産業と企業 (Industry and Enterprise)		✓	2019
法学 (Legal Studies)		✓	2018
芸術 (The Arts)			
舞踊 (Dance)	✓	✓	2019
演劇 (Drama)	✓	✓	2019
演劇研究 (Theatre Studies)		✓	2019
メディア芸術 (Media Arts)	✓	✓	2019
芸術創作練習 (Art Creative Practice)		✓	2019
芸術創作・展示 (Art Making and Exhibiting)		✓	2022
音楽 (Music)	✓	✓	2022
美術 (Visual Arts)	✓	✓	2022
メディア (Media)		✓	2018
ビジュアル・コミュニケーション・デザイン (Visual Communication Design)	✓	✓	2018
保健体育 (Health and Physical Education)			
保健体育 (Health and Physical Education)	✓		2018
健康と人間の成長 (Health and Human Development)		✓	2018
屋外及び環境学 (Outdoor and Environmental Studies)		✓	2018
体育 (Physical Education)		✓	2018
言語 (Language)			
第一外国語 (First Languages)	✓	✓	2022
第二外国語 (Second Language)	✓	✓	2019
古典外国語 (Classical Language)		✓	2022
テクノロジー (Technology)			
デザインとテクノロジー (Design and Technology)	✓		2019
デジタル技術 (Digital Technology)	✓		2019
農業・園芸学 (Agriculture and Horticultural Studies)		✓	2020
食品学 (Food Studies)		✓	2022
商品デザインと技術 (Product Design and Technology)		✓	2018
システム工学 (Systems Engineering)		✓	2019
デジタル技術 (Digital Technologies)			
アルゴリズム (Algorithmics)		✓	2022
応用コンピューティング (Applied Computing)		✓	2020
職業教育 (Vocational Major : VM)			
職業－リテラシー (VM Literacy)		✓	2022
職業－スメラシー (VM Numeracy)		✓	2022
職業－職業に関連したスキル (VM Work Related Skills)		✓	2022
職業－個人成長スキル (VM Personal Development Skills)		✓	2022
職業教育プログラム (VET Programs)		✓	2022
自動車、建設、動物学、電子産業、実験スキル、音楽産業、美容など 26 科目			

注：網掛け AC で言及された以外の VIC 州教育課程において独自に設定された国際教育と関係の深い学習領域を示す。

注1：「算数・数学」のみ AC Version 9.0 をもとに、2023 年に改訂公表された「Version 2.0」であるが、それ以外は AC Version 8.4 をもとにした「Version 1.0」であり、2024 年から新しいものになる予定である。

出典：Victorian Curriculum and Assessment Authority, “F-10 Curriculum”, 2023

(<https://www.vcaa.vic.edu.au/curriculum/foundation-10/Pages/default.aspx?Redirect=2>) 及び Victoria (State Government Australia, 「カリキュラム、アセスメント (評価)、学校卒業資格」2023

(<https://www.study.vic.gov.au/jp/study-in-victoria/victoria's-school-system/Pages/curriculum-and-assessment.aspx>) を参考に調査団作成。

では、上記の AC、NSW 州教育課程、VIC 州教育課程で設定された国際教育に密接に関係している学習領域では、どのような現代的諸課題がどのように取り扱われているのかを見ていく。

表 5-13 現代的諸課題（4分野）の教育課程上の位置付け

現代的諸課題	教育課程上の位置付け
異文化理解	<p>【AC】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ AC の根幹をなす「汎用的能力」の中に「異文化理解（Intercultural Understanding）」が規定されており、各学習領域においてはもちろん、学習領域横断的にも扱うテーマとされている。 ・ AC (Version 9) は、①文化と文化的多様性への省察 (Reflecting on Cultural and Cultural Diversity)、②文化的・言語的多様性への取り組み (Engaging with Cultural and Linguistic Diversity)、③異文化状況のナビゲート (Navigating Intercultural Contexts)、という三つの要素から構成されている。 ・ 「人文・社会科学 (Humanities and Social Studies: HASS)」(2～6 年生)：オーストラリアの先住民族、他国からの移民によって社会が多様化し、「異文化理解 (Intercultural Understanding)」が重要になってきているとされている。 ・ 「歴史 (History)」(7 年生)：オーストラリアの初期の先住民の歴史が扱われる。 ・ 「地理 (Geography)」(8 年生)：人々と居住場所との関係が扱われる。 ・ 「公民とシティズンシップ (Civics and Citizenship)」(7～10 年生)：オーストラリア社会の「Cultural and Religious Diversity (文化的・主教的多様性)」が扱われる。 <p>【NSW 州】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「先住民族学 (Aboriginal Studies)」(7～8 年生)：オーストラリアの先住民族について経済、芸術、音楽、メディアなど多様な視点から調査する学習が扱われる。 ・ 「社会と文化 (Society and Culture)」(11～12 年生)：オーストラリアの複雑な社会における「Intercultural Communication (異文化コミュニケーション)」の重要性が扱われる。 ・ 「宗教学 I・II」(11～12 年生)：オーストラリアの先住民の信仰や世界の主要な宗教 (仏教、キリスト教、ヒンズー教、イスラム教、ユダヤ教) についての思考の違いが扱われる。 ・ 「コミュニティと家族学 (Community and Family Studies)」(11～12 年生)：個人、集団、家族、コミュニティの多様性と相互依存が扱われる。 <p>【VIC 州】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「心理学 (Psychology)」(11～12 年生)：アボリジニやトレス海峡島嶼民の文化、価値観、経験を心理学的に考察する学習が扱われる。 ・ 「宗教と社会 (Religion and Society)」(11～12 年生)：宗教の違いによって様々な異なった世界観が社会に共存する際の倫理的意思決定と道徳的判断が扱われる。 ・ 「社会学 (Sociology)」(11～12 年生)：オーストラリアの先住民文化に対する一般的な認識の時代による変化が扱われる。 ・ 「健康と人間の成長 (Health and Human Development)」(11～12 年生)：アボリジニやトレス海峡島嶼民の健康と福祉についての考え方、価値観が扱われる。またグローバル化時代における医療や公衆衛生アプローチの変化についての学習が扱われる。 ・ 「言語 (Language)」(F～12 年生)：この教科の中には「先住民言語」が選択科目として含まれる。また言語学習を通して、その言語が使われている国や地域の文化や考え方も学習される。
国際関係・国際協力	<p>【AC】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ AC の根幹をなす「領域横断的優先事項」の中に「アジアとオーストラリアの結びつき (Asia and Australia's Engagement with Asia)」というテーマが規定されており、特にアジア地域との関係・協力が重視されている。 ・ AC (Version 9) では、①アジアとその多様性 (Knowing Asia and its

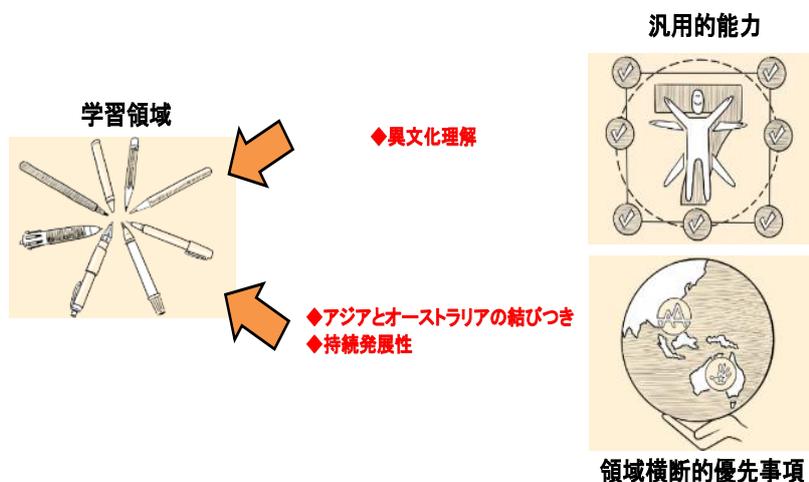
	<p>Diversity)、②アジアの世界的な役割についての理解 (Understanding Asia's Global Significance)、③成長するアジアとオーストラリアの対応 (Growing Asia-Australia Engagement)、という三つの側面を学習することになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人文・社会科学 (Humanities and Social Studies: HASS)」(6年生): オーストラリアとアジア地域の関係が扱われる。 ・「歴史 (History)」(8~10年生): オーストラリアと世界の国々、アジア地域の関係が1800年代から現代に至る長期の時間枠の中で扱われる。 ・「公民とシティズンシップ (Civics and Citizenship)」(10年生): オーストラリアが地域及び世界レベルで果たすべき役割と責任が扱われる。 ・「経済・ビジネス (Economy and Business)」(9年生): オーストラリアと他国との経済的関係、アジアとの経済関係について扱われる。 <p>【VIC州】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「オーストラリアと世界政治 (Australia and Global Politics)」(11~12年生): グローバルなアクターが協力して、どのように対立や不安定性を効果的に管理できるようになるかが扱われる。
<p>移民/多文化共生</p>	<p>【AC】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「移民」や「移住」という用語が教育課程の中でかなり多く用いられている。 ・「人文・社会科学 (Humanities and Social Science: HASS)」 「地理 (Geography)」 「歴史 (History)」 「公民とシティズンシップ (Civics and Citizenship)」 「経済とビジネス (Economy and Business)」 においては、「Immigration (移民・移住)」という用語が頻繁に用いられ、オーストラリアへの移民によって生じた文化の多様性についての理解、移民がオーストラリアに果たした役割や貢献などが重要な学習内容とされている。 ・「多文化共生」は「多様な文化 (Divers Culture)」という用語を用いて表現されている。 ・「人文・社会科学 (Humanities and Social Studies: HASS)」(2~6年生): オーストラリアへの「移民 (Immigration)」の集団の社会的役割についての内容が扱われる。 <p>【NSW州】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「個人の発達と保健体育 (PDHPE) 及びライフスキル (Life Skills)」(F~12年生): 人権と自由、コミュニティへの参加や活動的な市民の育成が扱われる。 ・「コミュニティと家族学 (Community and Family Studies)」(11~12年生): 個人、集団、家族、コミュニティの多様性と相互依存が扱われる。
<p>地球環境/気候変動</p>	<p>【AC】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校準備課程~10年生までを対象とした「科学 (Science)」の「地球と宇宙科学 (Earth and Space Science)」分野の学習において、「地球環境」及び地球規模の「気候変動 (Climate Change)」が扱われる。 ・11~12年生を対象とした学習領域として「地球と環境科学 (Earth and Environmental Science)」が設定されており、その中で「Earth System (地球システム)」や「気候変動 (Climate Change)」といった内容が扱われる。 ・「科学 (Science)」(F~10年生): 地球圏、水圏、大気圏の間のエネルギーの流れのモデルを使って、地球環境の気候変動のパターンが扱われる。 ・「地理 (Geography)」(8~10年生): 人間活動による環境への危険な影響が扱われる。 ・「地理 (Geography)」(11~12年生): 地球的な規模での環境問題についてその解決策への模索が扱われる。 ・「地球と環境科学 (Earth and Environmental Science)」(11~12年生): 地球と環境のモデル、地球システム内及びシステム間の相互関係が扱われる。また「異常気

	<p>象 (Severe Weather Events)』に対応した都市開発計画が扱われる。</p> <p>【NSW 州】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「科学とテクノロジー」(Science and Technology) : 太陽系における地球の位置、自然災害によって引き起こされる地球表面の変化、気候変動が扱われる。 <p>【VIC 州】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「健康と人間の成長 (Health and Human Development)」(11~12 年生) : グローバル化の進展と気候変動に関する世界的な傾向が健康に与える影響が扱われる。 ・「デザインとテクノロジー (Design and Technology)」(F~10 年生) : 経済的、環境的、法的、美的、機能的要因及びテクノロジーが個人、家族、地域、地球規模のコミュニティ、環境に与える影響についての学習が扱われる。 ・「農業・園芸学 (Agriculture and Horticultural Studies)」(11~12 年生) : 土地管理の観点からの農業の持続可能性と食品及び繊維産業における持続可能性の役割、さらに気候変動やその他の環境問題による影響、それへの対応策などが扱われる。 ・「食品学 (Food Studies)」(11~12 年生) : 世界の食料と環境、気候、生態学、倫理、水と土地の使用と管理を含む農業慣行、イノベーションを技術開発、食料安全保障と食糧生産の課題とその解決策が扱われる。
--	--

出典：調査団作成。

現行の「オーストラリアン・カリキュラム (AC)」、もっと詳細に言えば、小学校準備課程 (F) ~ 10 年生 (Y10) の学習内容を定めた AC (Version 9.0)、11 年生~12 年生の学習内容を定めた AC (Version 8.4) の両者において、本調査が対象としている四つの現代的諸課題のいずれにおいても非常に多くの記述が見られ、学習活動の中で重視されていることが一目瞭然である。特に、「異文化理解」は AC において汎用的能力の一つとして非常に大切な能力であるとされており、各学習領域においては非常に丁寧に扱われている。また「アジアとオーストラリアの結びつき」と「持続発展性」とは領域横断的優先事項として規定されており、前者は現代的諸課題の「国際関係・国際協力」及び「移民/多文化共生」と密接に関係するテーマであり、後者は「地球環境/気候変動」と直結するテーマである。

このように現代的諸課題としての 4 分野すべてが AC においてはカリキュラムを構成する鍵概念となっていることから、こうした内容を反映した学習がすべての学習領域において取り入れられているのである。



出典：調査団作成。

図 5-4 現代的諸課題の学習領域への反映のイメージ図

コラム：ACの基本的構造

ACを構成する三つの要素（学習領域、汎用的能力、領域横断的優先事項）の関係性がどのように示されているのかについて理解することは重要である。まず各学習領域のカリキュラムを見ると、①学習の根拠（Rationale）、②ねらい（Aims）、③カリキュラム内容（Curriculum Content）④達成スタンダード（Achievement Standards）の項目で構成されていることがわかる。

その大部分を占める「カリキュラム内容」では「内容に関する説明（Content Descriptions）」とそこで習得すべき知識・スキルが具体的に示されている。例えば、「人文・社会科学（HASS）」の6年生のカリキュラムでは、大きく「知識と理解」と「スキル」に分けられ、前者では「歴史」「地理」「公民とシティズンシップ」「経済・ビジネス」という四つの学習領域についてその主要な学習内容が提示され、その学習で育成したい汎用的能力、さらにはその内容と関係の深い教科横断的優先事項が示されている。また後者では「質問と調査」「解釈・分析・評価」「結論と決定」「コミュニケーション」の4領域についてその主要な学習内容及びその学習を通じて児童が育むことを期待する汎用的能力が示されている。

表 5-14 6年生の「人文・社会科学（HASS）」のカリキュラム内容とその構造

【知識と理解】	カリキュラム内容	汎用的能力	優先的事項
歴史	・ オーストラリアの国家、憲法、民主主義に貢献した重要人物や出来事	・ 批判的・創造的思考	
	・ 連邦後のオーストラリアの政治制度と市民権の変化とオーストラリア先住民、移民、女性、子どもに影響を与えた20世紀全体の変化	・ 倫理的理解 ・ 異文化理解	
	・ 連邦制以来、そして20世紀を通じてオーストラリアに移住した人々の動機、アジア地域からの移住者を含む、彼らの物語とオーストラリア社会への影響	・ 批判的・創造的思考	・ アジアとオーストラリアの結びつき
地理	・ アジアの位置と地理的多様性及びオーストラリアとの関係での位置	・ 異文化理解	・ アジアとオーストラリアの結びつき
	・ オーストラリアと他国との繋がりとそれらが人々と場所をどのように変えていくか	・ 批判的・創造的思考 ・ 異文化理解	・ アジアとオーストラリアの結びつき
公民とシティズンシップ	・ オーストラリアの政治における主要機関、それがウェストミンスター制度 ⁸ とどのように関係しているか、西側の民主主義の主要な価値観と信念	・ 倫理的理解 ・ 個人的・社会的能力	
	・ オーストラリア政府の三つのレベルにおける役割と責任	・ 批判的・創造的思考 ・ 倫理的理解	
経済とビジネス	・ 情報に基づいた個人的な消費者と金融の選択を行うのに役立つ消費者の選択と戦略への影響	・ 倫理的理解 ・ 数的能力	
【スキル】	カリキュラム内容	汎用的能力	優先的事項
質問と調査	・ 人々、出来事、発展、場所、システムを調査するための質問を作成する	・ 批判的・創造的思考 ・ リテラシー	
	・ 一次及び二次資料やデータを様々な形式で検索、収集、整理する	・ 批判的・創造的思考 ・ リテラシー	
解釈・分析・	・ 様々な形式の情報とデータを評価して、パ	・ 批判的・創造的	

⁸ 「ウェストミンスター制度」とはイギリスで形成された多数決主義的な議会民主主義を指す概念である。その定義は一つに定まてはいないが、1688年の名誉革命から第二次世界大戦後までの、イギリスの長い議会政治の伝統の中で培われてきた制度や慣行の特徴を指すものと理解することができる。

評価	ターンと傾向を特定して説明するか、関係を推測する	思考 ・ リテラシー	
	・ 一次及び二次資料を評価して、起源、目的、視点を決定する	・ 批判的・創造的思考 ・ リテラシー	
結論と決定	・ 事実に基づいた結論を導く	・ 批判的・創造的思考 ・ リテラシー	
	・ 問題または課題に対する行動または対応を提案し、基準を使用して考えられる影響を評価する	・ 批判的・創造的思考 ・ 個人的・社会的能力	
コミュニケーション	・ 説明し、情報源からアイデア、調査結果、視点を引き出し、関連する用語と慣習を使用する	・ リテラシー ・ 個人的・社会的能力	

出典：ACARA, “Australian Curriculum-Learning Areas”, 2023 を参考に調査団作成。
(<https://v9.australian curriculum.edu.au/f-10-curriculum.html/learning-areas/hass-f-6>)

「カリキュラム内容」に続いて、「達成スタンダード」が示されるが、これは児童生徒が一般的に理解し、できるようになることを明示したものである。評価の基準はもちろん教員が評価を行う目安として活用できるように、児童生徒の作業・成果例 (Student work samples) も盛り込まれている。上記で見た 6 年生の「人文・社会科学 (HASS)」の「達成スタンダード」は次のように示されている。

6 年生「人文・社会科学 (HASS)」の達成スタンダード

児童は、6 年生の終わりまでに、オーストラリア連邦、民主主義、市民権に関する重要な人物、出来事、考え方が果たした役割について説明できるようになる。また、連邦制以降のオーストラリアへの移住の原因と影響も説明できるようになる。これらは、場所の地理的な多様性と、他の国との相互接続の影響を受けていることを理解していることを意味する。加えて、児童は、オーストラリアの政府レベルの主要な制度、役割、責任、民主的な価値観と信念について説明することができ、さらに、消費者への影響と情報に基づいた消費者と金融の選択のための戦略を用いて説明できるようになる。

児童は、質問を作成し、様々な一次的及び二次的情報源から必要な情報とデータを見つけ、収集し、整理することができる。そして、情報源を評価して、起源、目的、視点を決定することもできる。また児童は様々な情報とデータ形式を評価して、パターン、傾向、または推測される関係を特定して説明できるようになるとともに、証拠を評価して結論を導き出すこともできるようになる。さらに、児童は行動または対応の仕方を提案し、基準を使用して考えられる影響を評価することもできるようになる。加えて、児童は情報源からアイデアや調査結果を選択し整理して、様々な関連用語や慣例を使用して説明できるようになる。

出典：ACARA, “Australian Curriculum-Learning Areas”, 2023 を参考に調査団作成。
(<https://v9.australian curriculum.edu.au/f-10-curriculum.html/learning-areas/hass-f-6>)

5-2-3 国際教育・現代的諸課題の実施状況についての評価

これまで見てきたように、オーストラリアの教育課程においては国際教育及び現代的諸課題に関する学習内容が豊富に盛り込まれており、国家をあげてこうした国際教育が重要視されていることがわかる。このことは AC の基本的構成要素である「汎用的能力」の中に「異文化理解」が設定されていること、「領域横断的優先事項」が「アボリジニとトレス海峡島嶼民の歴史と文化」「アジアとオーストラリアの結びつき」「持続発展性」という三つから構成されていること、などから明らかである。またこの汎用的能力と領域横断的優先事項を受けて各「学習領域」においても具体的に国際教育及び現代的諸課題に関する記述が至る所に見られる。特に本調査でオーストラリアン・カリキュラム評価報告機関 (ACARA) を訪問した際、AC で設定されている学習領域において、国際教育及び現代的諸課題を扱っている主要なものとして以下の学習領域が挙げられた。特に「公民とシティズンシップ」では国家評価プログラム抽出評価 (NAP Sample Assessment) がオンラインで実施されており、生徒の学習度合いが測られている。

【義務教育期間の学習領域】

- 「科学 (Science)」(F~10 年生)
- 「人文・社会科学 (Humanities and Social Science: HASS)」(F~6 年生)
- 「公民とシティズンシップ (Civics and Citizenship)」(7~10 年生)
- 「経済・ビジネス (Economics and Business)」(7~10 年生)
- 「地理 (Geography)」(7~10 年生)
- 「歴史 (History)」(7~10 年生)

【後期中等教育期間の学習領域】

- 「地球と環境科学 (Earth and Environmental Science)」(11~12 年生)
- 「古代史 (Ancient History)」(11~12 年生)
- 「近現代史 (Modern History)」(11~12 年生)
- 「地理 (Geography)」(11~12 年生)

上記のことは、NSW 州及び VIC 州についても言えるが、オーストラリアでは教育実践の権限は各州にあるため、それぞれにおいては独自の取り組みも行われている。NSW 州では AC の「汎用的能力」が単に「能力 (Capabilities)」と呼ばれている。ただし、ここで定められている能力の内容は同じである。そして、本調査で NSW 州教育標準機関 (NESA) を訪問した際、NSW 州教育課程で定められている学習領域の中で、国際教育及び現代的諸課題を多く扱っているものとして以下のような学習領域が挙げられた。

【義務教育期間の学習領域】

- 「科学 (Science)」(K~10 年生)
- 「地理 (Geography)」(K~10 年生)
- 「歴史 (History)」(K~10 年生)
- 「先住民民族学 (Aboriginal Studies)」(7~10 年生)
- 「個人の発達と保健体育 (PDHPE) 及びライフスキル (Life Skills)」(K~10 年生)
- 「科学とテクノロジー (Science and Technology)」(K~6 年生)

【後期中等教育期間の学習領域】

- 「地球と環境科学 (Earth and Environmental Science)」(11~12 年生)
- 「地理 (Geography)」(11~12 年生)
- 「先住民民族学 (Aboriginal Studies)」(11~12 年生)
- 「古代史 (Ancient History)」(11~12 年生)
- 「近現代史 (Modern History)」(11~12 年生)
- 「社会と文化 (Society and Culture)」(11~12 年生)
- 「宗教学 I・II (Studies of Religion)」(11~12 年生)

- 「コミュニティと家族学 (Community and family Studies: CAFS)」(11～12年生)

VIC州教育課程においてもNSW州の教育課程と同様に、ACの「汎用的能力」が「能力」として記述されている。各「能力」には学年毎の達成基準 (Achievement Standard) が示されており、児童生徒はその達成状況が評価される。なおVIC州の「能力」の内容はACの汎用的能力とは異なり、「批判的・創造的思考」「倫理的能力」「異文化理解」「個人的・社会的能力」の四つとなっており、ACの汎用的能力に含まれている「リテラシー」「ニューメラシー」「デジタル・リテラシー」の三つがない。この理由は、こうした三つの能力は学習領域における学習の中で習得するものであるため、特に「能力」として取り出す必要はなく、学習領域横断的な学びの過程において身に付けていくと考えられているためである⁹。

また、本調査でVIC州カリキュラム評価機関 (VCAA) を訪問した際、国際教育・現代的諸課題を多く扱っている学習領域について尋ねたところ、以下のような学習領域が挙げられた。

【義務教育期間の学習領域】

- 「科学 (Science)」(F～10年生)
- 「公民とシティズンシップ (Civics and Citizenship)」(F～10年生)
- 「経済・ビジネス (Economics and Business)」(F～10年生)
- 「地理 (Geography)」(F～10年生)
- 「歴史 (History)」(F～10年生)
- 「保健体育 (Health and Physical Development)」(F～10年生)
- 「言語 (Language)」(F～10年生)

【後期中等教育期間の学習領域】

- 「環境科学 (Environmental Science)」(11～12年生)
- 「心理学 (Psychology)」(11～12年生)
- 「オーストラリアと世界政治 (Australia and Global Politics)」(11～12年生)
- 「宗教と社会 (Religion and Society)」(11～12年生)
- 「社会学 (Sociology)」(11～12年生)
- 「健康と人間の成長 (Health and Human Development)」(11～12年生)
- 「言語 (Language)」(11～12年生)
- 「農業・園芸学 (Agriculture and Horticultural Studies)」(11～12年生)
- 「食品学 (Food Studies)」(11～12年生)

こうした各学習領域において、扱われている現代的諸課題については先に概観した通りであり、その詳細は本章末の「付属資料」に示している。以上のように、オーストラリアでは、教育政策上において、国際教育・現代的諸課題は大変重要視されていると考えられ、これらが多くの学習領域の中でかなりの時間を割いて取り扱われるようになっている。

そして、この後の節で詳細に見ていくが、各州政府はこうした教育課程における国際教育、現代的諸課題を学校現場においても円滑に指導できるように、多様な教材・リソースの開発を進めており、オンライン上において無料でダウンロードできるようにしている。これらの教材・リソース数は何百にも及び、どれもが学校教員の視点に立ってわかりやすく、授業実践でも使いやすい内容や形式となっている。

⁹ VIC州の教育課程 (Version 2.0、調査時点では公には未公開であったが、面談時に特別に調査団に共有された) で定められた「能力」の一つである「異文化理解」の達成基準は、「生徒は、10年生の終了までに、多様な文化が相互に影響を与える様々な方法について説明し、それがアイデンティティや帰属意識、包摂感にどのように影響を与えるかを分析することができる。また制度が異文化間関係や経験にどのような影響を与えるかについても説明し、文化的に多様性のある社会を維持するか、維持できない場合の課題を分析することができる。さらに社会的及び環境的課題に対処するアプローチを評価し、様々な要因が世界観に与える影響について分析することができる」と記載されている。

5-3 オーストラリアの国際教育のに関する学習内容

5-3-1 国際教育を通じて育成を目指す資質・能力（国際教育の扱いにより目指すもの）

これまで見てきたように、ACはグローバル化が急速に進行する社会において、将来を担う子ども達が積極的に挑戦し、よりよい生活を営んでいくために必要な知識や能力を提供するもので、ここには国際教育が重要であるという共通認識のもと、本調査で焦点があてられている「異文化理解」「国際関係/国際協力」「移民/多文化共生」「地球環境/気候変動」といった現代的諸課題を中心に据えた教育が行われていると言える。このことは、ACに沿った教育を受けることで、国際教育で扱われる学習内容の多くを学ぶ機会が提供され、それらの学習を通じてACが目指す資質・能力が習得されるということを示している。

したがって、ACにおいては、国際教育を通じて育成を目指すべき資質・能力は、「汎用的能力」として定められている①批判的・創造的思考 (Critical and Creative Thinking)、②デジタル・リテラシー (Digital Literacy)、③倫理的理解 (Ethical Understanding)、④異文化理解 (Intercultural Understanding)、⑤リテラシー (Literacy)、⑥ニュメラシー (Numeracy)、⑦個人的・社会的能力 (Personal and Social Capacity) の七つであると言える。

このことはオーストラリア連邦を構成している各州についても言えるが、先に触れたように各州ではACをそのまま適用するのではなく、ACを基準として州の特徴を含めた独自の教育課程を策定しているところもあるため、正確に言えば、国際教育を通じて育成を目指す資質・能力は、各州の教育課程で定められた「能力」であると言える。すなわち、NSW州では上記の七つの能力であり、VIC州では「批判的・創造的思考」「倫理的理解」「異文化理解」「個人的・社会的能力」の四つの能力である。

なおこれらは、これまで見てきた韓国やカナダ（オンタリオ州）で用いられていた資質・能力モデルのように、認知スキル、社会スキル、基礎的なリテラシーから構成されていることがわかる。

汎用的能力	能力	能力	
AC	NSW州	VIC州	
リテラシー	リテラシー		基礎的なリテラシー
ニュメラシー	ニュメラシー		
デジタル・リテラシー	デジタル・リテラシー		
批判的・創造的思考	批判的・創造的思考	批判的・創造的思考	認知スキル
個人的・社会的能力	個人的・社会的能力	個人的・社会的能力	社会スキル
倫理的理解	倫理的理解	倫理的理解	
異文化理解	異文化理解	異文化理解	

出典：調査団作成。

図 5-4 オーストラリアの AC、NSW 州教育課程、VIC 州教育課程の能力比較

5-3-2 教科書・教材における国際教育（特に現代的諸課題）の扱い

これまで見てきたように、オーストラリアでは全国共通のACがあり、同時にNSW州やVIC州はACに基づいて同州の教育状況を考慮して開発された独自の教育課程がある。基本的な方向性は同じであるものの、その構造や設置されている学習領域などにおいて若干の違いが見られる。ここではACにおける国際教育に関連した主要な学習領域の内容とともに、NSW州、VIC州の教育課程における国際教育に関連した主要な学習領域の内容も見ていく。

(1) ACで設定された学習領域（教科）における国際教育（特に現代的諸課題）の記述

ACにおいて設定されている学習領域（教科）の中で国際教育に密接に関係していると考えられる教
 学学習領域（教科）としては「科学」（小学校準備課程～10年生）、「人文・社会科学（HASS）」（小学校
 準備課程～6年生）、「歴史」「地理」「シティズンシップと公民」（ともに7～10年生）、「地球と環境科
 学」「古代史」「近現代史」「地理」（ともに11～12年生）が挙げられる。ここでは、これらの内容に
 ついて見ていく。なお、これら学習領域（教科）の全体構成は巻末の付属資料を参照のこと。

1) 「科学」（小学校準備課程～10年生）

学年	分野	内容	関連する現代的 諸課題
10年生	地球・宇宙 分野	・ 地球圏、生物圏、水圏、大気圏の間のエネルギーの流れのモデルを使って、地球規模の気候変動パターンについて説明する。	・ 地球環境/気 候変動

2) 「人文・社会科学（HASS）」（小学校準備課程～6年生）

学年	分野	内容	関連する現代的 諸課題
2年生	地理分野	・ 地理的区分において身近な地域から地方、そして国へとどの ように表現されていくのかを知る。 ・ 人々と場所はどのように相互関連しているのかを理解する。 ・ オーストラリア先住民と場所との相互関係を認識する。	・ 異文化理解 ・ 移住/多文化 共生
3年生	歴史分野	・ 地域における変化とその影響を理解する。 ・ 多様な背景をもった人々がどのようにこうした変化に貢献し たのかを理解する。 ・ オーストラリアのアイデンティティと多様性にとって重要な 出来事、シンボル、象徴がどのように国内で祝われているの かを理解する（「オーストラリアの日 ¹⁰ 」「ANZACの日 ¹¹ 」 「NAIDOCウィーク ¹² 」「National Sorry Day ¹³ 」「イースター」 「クリスマス」やその他の宗教的文化的催しを含む）。	・ 異文化理解 ・ 移住/多文化 共生
	地理分野	・ 国家・領域として、植民地化以前よりオーストラリア先住民 の国/居住地としての現代オーストラリアの存在を認識する。 ・ オーストラリアの近隣地域や国々の位置、オーストラリアの 異なった地域における先住民と国家との繋がり、自然的な特 徴に関して、オーストラリアと近隣諸国との類似点と相違点 を分析する。	・ 異文化理解 ・ 国際関係・国 際協力 ・ 移民/多文化 共生

¹⁰ 毎年1月26日にオーストラリアで祝われる国民の祝日である。1788年1月26日に植民を目的としたイギリスの艦隊がシド
ニー・コーブに到着した事にちなんで定められた。

¹¹ 毎年4月25日、第一次世界大戦のガリボリの戦いで夕刊に戦ったオーストラリア・ニュージーランド軍団（ANZAC）の兵た
ちと、当時国のために尽力した人々のための追悼を行う日。オーストラリア、ニュージーランド、クック諸島、ニウエ、サモ
ア、トンガでは休日となっている。

¹² 「NAIDOC」とは「National Aborigines and Islanders Day Observance Committee」の略称で、オーストラリア先住民であ
るアボリジニとトレス海峡諸島の人々の日を遵守する委員会として20世紀に発足した。毎年真冬の7月にオーストラリア先住
民族の文化や歴史を紐解き称えるセレモニーや講演、ダンス、アート展が催される。

¹³ 「豪州謝罪の日」とも訳される記念日である。毎年5月26日がその日で祝日ではないが、オーストラリアの先住民と白人の
歴史を知る上では重要な日とされている。オーストラリアでは1860年代から1960年代までの約100年間にわたり「白人との
混血を防ぎ、文明的教育を施す」という名目で、オーストラリア先住民の子ども達はオーストラリア政府や地域教会によ
って親元から離され収容所に隔離された。1997年のオーストラリア政府の報告書『Bringing them home』において、この政策によ
ってオーストラリア先住民に対して「アイデンティティを喪失させるなど、数々の人権侵害行為は正式な謝罪に値する」と発表さ
れ、それが「National Sorry Day」となった。

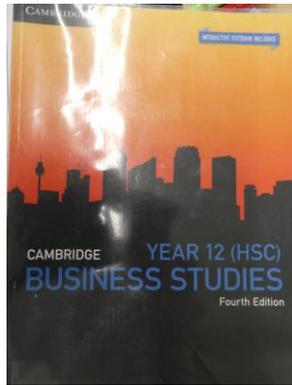
4 年生	歴史分野	<ul style="list-style-type: none"> ・ オーストラリア先住民の多様性と彼らの社会的組織と国家との継続的な関係性について知る。 ・ 1788 年にオーストラリアにイギリス植民地が建設された理由を学ぶ。 ・ イギリス植民地建設に関わった軍隊や文官、囚人を含む個人的、集団的経験を知る。 ・ オーストラリア先住民と外国からの人々との交流の影響、イギリスからの第一艦隊がオーストラリアに到着した後の国の状況、これがオーストラリア先住民にとっては侵略と考えられた理由について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化理解 ・ 移民/多文化共生
	地理分野	<ul style="list-style-type: none"> ・ オーストラリア先住民が国/居住地に対してもっていた管理責任を含む再生可能な資源と再生不可能な資源の持続可能な使用と管理について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化理解
	公民とシティズンシップ分野	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域社会における人々がもっている文化的、宗教的、社会的集団の多様性とその重要性について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化理解
5 年生	歴史分野	<ul style="list-style-type: none"> ・ オーストラリア先住民、植民地経営者、囚人におけるイギリス植民地建設の影響と自然環境におけるイギリス植民地建設の影響について考える。 ・ オーストラリアの植民地発展におけるオーストラリア先住民や同地への移民を含む個人や集団の役割について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化理解 ・ 移民/多文化共生
	地理分野	<ul style="list-style-type: none"> ・ オーストラリア先住民の対する他の国々からの人々の影響について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化理解 ・ 移民/多文化共生
6 年生	歴史分野	<ul style="list-style-type: none"> ・ オーストラリア連邦制構築後から 20 世紀全般においてオーストラリアへの移民する動機について分析する。 ・ アジア地域からオーストラリアへの移民についての物語や社会的影響について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化理解 ・ 移民/多文化共生
	地理分野	<ul style="list-style-type: none"> ・ アジア地域の地理的多様性とオーストラリアに関係するその位置、オーストラリアと他国との関係性について考える。 ・ この関係はどのように人々や場所を変化させたかを考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化理解 ・ 国際関係・国際協力 ・ 移民/多文化共生

3) 「公民とシティズンシップ」(7~10 年生)

学年	分野	内容	関連する現代的諸課題
7 年生	N/A	<ul style="list-style-type: none"> ・ オーストラリア社会の性質、その文化的及び宗教的多様性について理解し、オーストラリア社会の結束を支える価値観について認識する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化理解
8 年生	N/A	<ul style="list-style-type: none"> ・ オーストラリア人が自分たちのアイデンティティの多様な側面を表現する方法について知り、国民的アイデンティティについて説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化理解
9 年生	N/A	<ul style="list-style-type: none"> ・ オーストラリアのアイデンティティと多様性の反映に対するメディアの影響について説明できるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化理解
10 年生	N/A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域及び世界レベルでのオーストラリア政府の役割と責任を説明することができる。 ・ オーストラリアの回復力ある民主主義と団結した社会への課題について説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際関係・国際協力 ・ 異文化理解

4) 「経済・ビジネス」(7～10年生)

学年	分野	内容	関連する現代的諸課題
9年生	N/A	・ オーストラリアが他国と取引する理由及びオーストラリアとアジアの間の取引パターンを説明できる。	・ 国際関係・国際協力



「経済・ビジネス」教科書、出版社：Cambridge、発行年：2013年

5) 「地理」(7～10年生)

学年	分野	内容	関連する現代的諸課題
8年生	N/A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人々の相互作用と環境プロセスが場所の特性にどのように影響するかを説明することができる。 ・ 場所の特徴が人々によってどのように異なって認識され、評価されるのかわかる。 ・ 環境に対する人間の活動の危険性についても理解できるようになる。 ・ 人間と場所と環境との間の相互関係は、それらを変化させることについてもわかる。 ・ 環境的、経済的、社会的要因を参照しながら、地理的現象や課題に対処するための方法や戦略についても理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化理解 ・ 地球環境/気候変動
9年生	N/A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人々の活動や環境プロセスが場所の特徴をどのように変化させるかについて説明することができる。 ・ 環境に対する人間の活動の影響及び人間の活動に対する環境への影響について理解することができる。 ・ 生物群系の分布の特徴を説明し、環境への影響を特定することもできる。 ・ 環境的、経済的、社会的要因を参照しながら、地理的現象や課題に対処するための方法や戦略についても理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地球環境/気候変動
10年生	N/A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な規模での人間と環境プロセスの相互作用が場所の特性をどのように変化させるかを説明することができる。 ・ 環境に対する人間活動の影響、人間の活動に対する環境への影響を時間軸を使って説明することができる。 ・ 人間と場所と環境との間の相互関係は、それらを変化させることについてもわかる。 ・ 環境的、経済的、社会的要因を参照しながら、地理的現象や課題に対処するための方法や戦略についても理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地球環境/気候変動

6) 「歴史」(7～10年生)

学年	分野	内容	関連する現代的諸課題
7年生	N/A	<ul style="list-style-type: none"> 古代における過去の歴史的意義とオーストラリアの初期の先住民族の歴史について理解する。 オーストラリアや他の社会における個人や集団の出来事とその発展、原因と結果についてわかり、これらの社会の変化と継続性に関する社会的、宗教的、文化的、経済的、環境的及び政治的側面についても理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 異文化理解
8年生	N/A	<ul style="list-style-type: none"> 古代と現代の間の歴史的意義について理解し、中世、ルネサンス、前近代のヨーロッパまたは帝国やその拡大に関する社会、またこの時期のアジア太平洋世界の社会における出来事、発展、転換期、その原因と結果を説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国際関係・国際協力
9年生	N/A	<ul style="list-style-type: none"> 1918年までの近世の時代の歴史的意義を説明することができる。 オーストラリアと第一次世界大戦に関連した世界的な出来事や転換点、その原因と結果を理解する。 また、上記のことをアジアの文脈においても説明できる。 これらは社会的、文化的、経済的、政治的側面とも密接に関係していることを理解し、この時代の社会における重要な個人や集団、機関の役割と歴史的出来事への影響についてもわかるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国際関係・国際協力
10年生	N/A	<ul style="list-style-type: none"> 20世紀のオーストラリア及び国際的な出来事、転換点、その原因と結果を説明することができる。 これらの事柄は社会的、文化的、経済的、政治的側面とも密接に関係していることを理解し、この時代の社会における重要な個人や集団、機関の役割と歴史的出来事への影響についてもわかるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国際関係・国際協力

7) 「地球と環境科学」(11～12年生)

学年	分野	内容	関連する現代的諸課題
11～12年生	単元 1：地球システム	<ul style="list-style-type: none"> 地球システムとその構成要素が様々な空間規模にわたってどのように相互に関連しているか、また時間の経過とともにどのように変化したかを分析することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境/気候変動
11～12年生	単元 2：地球のプロセス・エネルギーの移動と変換	<ul style="list-style-type: none"> 物質の循環とエネルギーの移動の変換が、時間的・空間的規模の範囲にわたって地球システム内及び地球システム間でどのように相互に関連しているかを分析することができる。 システムを説明するために使用される理論とモデル及びそれらに含まれるシステムの側面について説明することができる。 システムとプロセスの理論とモデルを適用して、現象を説明し、複雑な問題を解釈し、馴染みのない状況で合理的でもっともらしい予測を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境/気候変動
11～12年生	単元 3：地球に住む—地球資源の精算・使用・管理	<ul style="list-style-type: none"> 地球と環境の理論とモデルの開発における協働、議論、レビュー、テクノロジーの役割を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境/気候変動

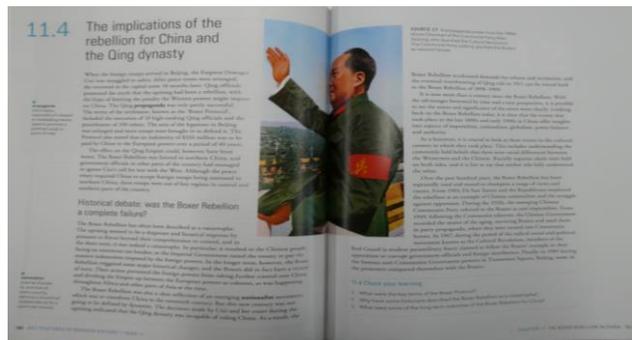
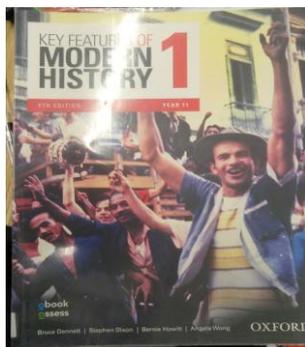
11～12 年生	単元 4： 変わる地球 —アースハ ザード〈地球 的危機〉の原 因と影響	<ul style="list-style-type: none"> 多様なニーズを満たし意思決定のための情報を提供するために、地域及び環境科学が他の科学と一緒にどのように用いられているかを考える。 これらの応用が相互作用する社会的、経済的、倫理的要因によってどのように影響を受けているかを理解することができる。 異常気象に対応した都市開発計画について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境 / 気候変動
-------------	---	--	---

8) 「古代史」(11～12 年生)

学年	分野	内容	関連する現代的諸課題
11～12 年生	単元 3： 人々、力、 権力	<ul style="list-style-type: none"> 「新王国時代のエジプトからホルレムヘブの死まで」「ペルシャ」「古代ギリシャ」「アテネ」「ローマ」「後漢と三国時代」という六つの中から一つを選び、それについて調べる。 「アケナテン」「アウグストゥス」「シーザー」「シセロ」「シモン」「ダリウス 1 世」「ハトシェプスト女王」「劉備」「リヴィア」「ペリクレス」「ソロン」「スラ」「テミストクレス」「トトメス 3 世」「諸葛孔明」「クセルクセス」の中から 1 人の人物を選び、その人物について調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 異文化理解 国際関係・国際協力
11～12 年生	単元 4：古 代社会の再 構築	<ul style="list-style-type: none"> 「テーベ」「新王国の帝国主義」「アテネのアゴラとアクロポリス」「アテネ・スパルタ・ペロポネソス戦争」「フリオ・クラウディアンとローマ帝国」「ポンペイとヘルクラネウム」という六つの中から一つを選び、それについて調べ、古代世界の思想、信念、価値観の起源、その影響、現代に伝えられる遺産について理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 異文化理解 国際関係・国際協力

9) 「近現代史」(11～12 年生)

学年	分野	内容	関連する現代的諸課題
11～12 年生	単元 4： 1945 年以降 の近代世界	<ul style="list-style-type: none"> 「世界秩序の変化」「アジアとの関わり」「グローバル化した世界」「人々の動き」「中東和平を求める闘争」「平和と安全の探求」の中から一つのテーマを選び、1945 年から 2010 年の時期に焦点をあてて、その状況について調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国際関係・国際協力



「近現代史」教科書、出版社：Oxford、発行年：2017 年

10) 「地理」(11～12 年生)

学年	分野	内容	関連する現代的諸課題
11～12 年生	単元 2：持 続可能な場	<ul style="list-style-type: none"> 変化のプロセスが様々な規模で場所や環境に空間的な影響を与える方法を分析し、文脈の役割を説明することができるよ 	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境 / 気候変動

	所	うになる。 ・空間分析、パターン及び関連性を様々な規模及び文脈で分析し、もっともらしい将来の変化を予測することができる。	
11～12年生	単元 4：グローバルな変革	・地理的な問題または課題についての別の視点を分析し、相互作用する環境的、経済的、社会的要因によって意思決定がどのように伝えられるかについて説明することができる。 ・国際関係についての概要を理解する。	・地球環境/気候変動 ・国際関係

(2) NSW州教育課程で設定された学習領域（教科）における国際教育（特に現代的諸課題）の記述

次に NSW 州教育課程において国際教育に関連する学習内容が扱われていると考えられる学習領域（教科）を見ていく。ここでは AC には含まれていなかった NSW 州独自の「先住民学」（7～12 年生）、「個人の発達と保健体育及びライフスキル」（小学校準備課程～10 年生）、「科学とテクノロジー」（小学校準備課程～6 年生）、「社会と文化」「宗教学 I」「宗教学 II」「コミュニティと家族学」（ともに 11～12 年生）の七つの学習領域について、その内容を概観する。

1) 「先住民学」（7～12 年生）

学年	分野	内容	関連する現代的諸課題
7～10年生	必須	・オーストラリア先住民のアイデンティティを理解する。 ・オーストラリア先住民の自己決定と自律性について調べる。	・異文化理解
	選択	・オーストラリア先住民の企業と組織 ・オーストラリア先住民と美術 ・オーストラリア先住民と音楽 ・オーストラリア先住民とメディア ・オーストラリア先住民と口語及び筆記表現 ・オーストラリア先住民と映画やテレビ番組 ・オーストラリア先住民とテクノロジー ・オーストラリア先住民とスポーツ ・オーストラリア先住民による法的・政治的な相互関係	・異文化理解
11～12年生	選択	・先住民とその土地 ・遺産とアイデンティティ ・世界の先住民コミュニティ（比較学習） ・地域社会の調査（調査・探究学習） ・社会正義と人権問題 ・先住民と土地の問題についての考察 ・プロジェクト研究	・異文化理解

2) 「個人の発達と保健体育及びライフスキル」（小学校準備課程～10 年生）

学年	分野	内容	関連する現代的諸課題
9～10年生	ライフスキル分野	・人権と自由について考え、コミュニティへの参加や活動的な市民を育成する。	・異文化理解

3) 「科学とテクノロジー」（小学校準備課程～6 年生）

学年	分野	内容	関連する現代的諸課題
3～4年生	地球と宇宙分野	・地球の表面とそれが時間の経過によってどう変化するかを調べ、考察する。	・地球環境/気候変動

5～6 年生	地球と宇宙 分野	<ul style="list-style-type: none"> 太陽系における地球の位置、自然災害によって引き起こされる地球表面の変化及びそれらをどのように軽減できるかを考え、解決策を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境 / 気候変動
-----------	-------------	---	---

4) 「社会と文化」(11～12年生)

学年	分野	内容	関連する現代的 諸課題
11～12 年生	予備コース	<ul style="list-style-type: none"> 個人と社会のアイデンティティを学ぶ、特に多様な社会的・文化的文脈における社会化と個人と社会のアイデンティティの関係について考察する。 異文化コミュニケーションについて学ぶ。特に多様な社会的・文化的・環境的文脈に置かれた人々の行動様式とコミュニケーションを介した周囲の世界について認識する。 	<ul style="list-style-type: none"> 異文化理解
	人間・社会・文化コース：鍵概念	<ul style="list-style-type: none"> 社会的・文化的継続性と変化について学ぶ。特に社会的・文化的な継続性と変化の特徴及び選択された国別研究における方法と社会理論について分析する。 	<ul style="list-style-type: none"> 異文化理解
	人間・社会・文化コース：深い学習	<ul style="list-style-type: none"> 信念体系とイデオロギーについて学ぶ。特に文化とアイデンティティに対する信念体系とイデオロギーの関係を考える。 社会的包摂と排除について学ぶ。特に社会的包摂と排除の特徴及び社会と文化における個人と集団への影響について考察する。 社会的適合性と不適合性について学ぶ。特に適合性と不適合性の特徴及び人々の態度と行動形成への影響について分析する。 	<ul style="list-style-type: none"> 異文化理解

5) 「宗教学 I」(11～12年生)

学年	分野	内容	関連する現代的 諸課題
11～12 年生	予備コース	<ul style="list-style-type: none"> 宗教と信念の特徴について学ぶ。特に人生の意味としての人間に探究に対する独特の反応として、オーストラリアの先住民の信念と精神性を含む宗教と信念の特徴を理解する。 二つの宗教についての学習を行う。仏教、キリスト教、ヒンズー教、イスラム教、ユダヤ教から二つを選択し、それぞれについて起源、主な信条、聖典と書物、中核となる倫理的教え、個人の献身・信仰の表明・遵守などについて調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 異文化理解
	人間・社会・文化コース	<ul style="list-style-type: none"> 1945年以降のオーストラリアにおける宗教・信念体系について学ぶ。1945年以来、オーストラリアの多文化及び多信仰社会における宗教的表現及びオーストラリア先住民の精神性への感謝と、今日のオーストラリアにおける宗教的信念と宗教的表現についての理解をも含む内容について考察する。 二つの宗教についての深い学習について学ぶ。仏教、キリスト教、ヒンズー教、イスラム教、ユダヤ教から二つを選択し、それぞれについて重要な人物と思想、生命倫理または環境倫理あるいは性的倫理に関する宗教的伝統における倫理的教え、支持者の生活における重要な実践を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 異文化理解

6) 「宗教学 II」(11～12 年生)

学年	分野	内容	関連する現代的諸課題
11～12 年生	予備コース	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宗教と信念の特徴について学ぶ。特に人生の意味としての人間に探究に対する独特の反応として、オーストラリアの先住民の信念と精神性を含む宗教と信念の特徴を考察する。 ・ 二つの宗教についての学習を行う。仏教、キリスト教、ヒンズー教、イスラム教、ユダヤ教から二つを選択し、それぞれについて起源、主な信条、聖典と書物、中核となる倫理的教え、個人の献身・信仰の表明・遵守などについて調べる。 ・ 古代を起源とする宗教について学ぶ。古代を起源とするアステカあるいはインカあるいはマヤ、ケルト、ノルディック、神道、道教、オーストラリア以外の土着宗教から二つの宗教を選択し、究極の意味を求め人間の探究への応答について調べる。 ・ 1945 年以前のオーストラリアにおける宗教について学ぶ。1945 年以前のオーストラリアにおける宗教の到来、設立、発展について理解する。 	・ 異文化理解
	人間・社会・文化コース	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1945 年以降のオーストラリアにおける宗教・信念体系について学ぶ。1945 年以来、オーストラリアの多文化及び多信仰社会における宗教的表現、及びオーストラリア先住民の精神性への感謝と、今日のオーストラリアにおける宗教的信念と宗教的表現についての理解も含む内容について考察する。 ・ 三つの宗教についての深い学習を行う。仏教、キリスト教、ヒンズー教、イスラム教、ユダヤ教から三つを選択し、それぞれについて主要な人物と思想、生命倫理・環境倫理・性倫理に関する倫理的教え、支持者の生活における重要な実践を調べる。 	・ 異文化理解

7) 「コミュニティと家族学」(11～12 年生)

学年	分野	内容	関連する現代的諸課題
11～12 年生	予備コース	・ 個人、集団、家族、コミュニティの多様性と相互依存性を理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化理解 ・ 移民/多文化共生
	人間・社会・文化コース	・ 特定の集団について学び、特定のコミュニティ集団の特徴とニーズについて調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化理解 ・ 移民/多文化共生
	人間・社会・個人モジュール	・ 家族と社会の相互関係について学ぶ。一生涯にわたって家族を支援し擁護する政府及びコミュニティの構造を考察・分析する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化理解 ・ 移民/多文化共生

(3) VIC 州教育課程で設定された学習領域(教科)における国際教育(特に現代的諸課題)の記述

最後に、VIC 州の教育課程における国際教育に含まれる学習内容を多く取り扱っていると考えられる「保健体育」「言語」(ともに小学校準備課程～10 年生)、「心理学」「オーストラリアと世界の政治」「宗教と社会」「社会学」「健康と人間の成長」「言語」「農業・園芸学」「食品学」(ともに 11～12 年生)の内容を概観する。これらの学習領域(教科)は VIC 州独自の設置であり非常に興味深い。

1) 「保健体育」(小学校準備課程～10年生)

学年	分野	内容	関連する現代的諸課題
F～10年生	健康と幸福のためのコミュニケーションと交流	・ 包括性、アイデンティティに影響を与える要因、効果的なコミュニケーション、敬意をもった関係、コミュニティの健全性への理解を促進するための戦略を策定する。	・ 異文化理解

2) 「言語」(小学校準備課程～12年生)

学年	分野	内容	関連する現代的諸課題
F～12年生	言語分野	・ 先住民言語が選択科目として含まれている。 ・ 言語の学習を通して、その言語が使われている国や地域の文化や考え方についても学習する。	・ 異文化理解

3) 「心理学」(11～12年生)

学年	分野	内容	関連する現代的諸課題
11～12年生	単元 1：行動と精神プロセスの形成	・ アボリジニやトレス海峡島嶼民を含む西洋社会と非西洋社会の古典的及び現代的知識が、心理的発達の理解及び発達を予測し説明するために使用される心理的モデルと理論の発展に与えた貢献を検討する。	・ 異文化理解
11～12年生	単元 2：内的要因と外的要因が行動と精神プロセスに与える影響	・ 異なる文化的グループが異なる経験や価値観をもっていることを認識しながら、個人やグループの行動に影響を与える可能性のある様々な要因や状況を探求する。さらにオーストラリア社会におけるアボリジニとトレス海峡島嶼民の経験と、彼らの経験が心理的機能にどのような影響を与えるかを考えることが奨励される。	・ 異文化理解
11～12年生	単元 3：行動や精神プロセスにおける経験が与える影響	・ アボリジニとトレス海峡島嶼民による記憶の宝庫としての場所の使用など、記憶力を向上させるための記憶術の使用が調査される。	・ 異文化理解
11～12年生	単元 4：精神的な健康のサポートと維持	・ アボリジニとトレス海峡島嶼民の幸福に不可欠な生物心理社会的保護因子と文化的決定要因の重要性を考慮することによって、精神的幸福をどのようにサポートできるかを探求する。	・ 異文化理解

4) 「オーストラリアと世界の政治」(11～12年生、2024年実施)

学年	分野	内容	関連する現代的諸課題
N/A	単元 2：一般分野	・ グローバル化によって生み出された社会的、政治的、経済的な相互関係を特定して分析し、グローバルコミュニティへのオーストラリアの参加について評価できるようになる。 ・ 生徒自身が選択した事例研究に関連して、グローバルなアクターが協力して、どのように対立や不安定性などを効果的に管理できるようになるかを説明できるようになる。	・ 国際関係・国際協力
	単元 3：グローバルな政治分野	・ 主要なグローバル・アクターの力を理解し、彼らが目的をどの程度達成し、国家主権に異議を唱えることができるかを説明できるようになる。	・ 国際関係・国際協力

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 国益を追求する特定のアジア太平洋諸国による様々な種類の権力の使用についての有効性を分析し、評価できるようになる。 	
	単元 4：グローバルな政治分野	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二つの地球規模の倫理問題に関連する議論の内容を分析し、これらの問題に対する世界の関係者の対応についての有効性を評価できるようになる。 ・ 二つの現代における世界的危機を分析し、これらに対する世界の関係者の対応についての有効性を評価することができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際関係・国際経協力

5) 「宗教と社会」(11～12年生)

学年	分野	内容	関連する現代的諸課題
N/A	単元 1：社会における宗教の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宗教の性質と目的について議論し、選択した宗教例にあてはめて宗教の側面を調べることができるようになる。 ・ 宗教の役割の変化と宗教と社会の相互関係について時間軸を念頭に置いて議論できるようになる。 ・ 過去と現在のオーストラリアにおける宗教の存在について議論できるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化理解
	単元 2：宗教と倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数の世界観が共存する社会における倫理的意思決定と道徳的判断に対する様々な影響について説明できるようになる。 ・ 複数の世界観が共存する社会において少なくとも二つのスピリチュアリティ、宗教的伝統及び宗派の中で倫理的視点と道徳的判断がどのように形成されるか分析できる。 ・ 複数の世界観が共存し、スピリチュアリティ、宗教的伝統、宗派が貢献する社会における倫理的問題に関する二つ以上の議論を調べることができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化理解
	単元 3：意味の探索	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宗教と宗教的信念の性質と目的を分析できるようになる。 ・ 宗教の他の側面を通じた信念とその表現が、意味の探究にどのように対応することを意図しているかについても調べることができるようになる。 ・ 宗教に関連する側面と人生の重要な経験を通じて、宗教的信念とその表現との相互作用について分析できるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化理解
	単元 4：宗教、挑戦と変化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宗教的伝統または宗派が異議を唱えられた時にとったスタンスとそれを裏付ける反応について分析し、比較できるようになる。また宗教的伝統または宗派内での相互作用及び宗教的伝統または宗派とより広い社会との間の相互作用について、重要な課題に関連して議論し、これらに対するスタンスと対応の影響を評価できるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化理解

6) 「社会学」(11～12年生)

学年	分野	内容	関連する現代的諸課題
N/A	単元 3：文化と民族性	<ul style="list-style-type: none"> ・ オーストラリアの先住民文化に対する一般的認識と見解の変化を分析し、評価できるようになる。 ・ オーストラリア社会における民族性について分析できるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化理解

7) 「健康と人間の成長」(11～12年生)

学年	分野	内容	関連する現代的諸課題
11～12年生	単元 1：健康と福祉についての理解	<ul style="list-style-type: none"> 健康を理解するための基礎として、世界保健機関（WHO）の体後を調査し、他の解釈も検討する。 オーストラリア先住民や彼らの間、トレス海峡島嶼民の健康に対する考え方、信念、実践に影響を与える要因について調査する。 健康と幸福の多面性、複雑な相互作用に注目する。 	<ul style="list-style-type: none"> 異文化理解
11～12年生	単元 3：グローバル化する世界におけるオーストラリアの健康	<ul style="list-style-type: none"> 健康と福祉を世界的な概念として探求し始め、より広範な調査アプローチをとる。最適な健康と幸福の利点とその重要性を考える時、その考え方は個人及び集団の資源として、普遍的な権利としての健康にまで及ぶことを学習する。 医療システム、公衆衛生アプローチの変化の進行を世界的な文脈の中で考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 国際関係・国際協力
11～12年生	単元 4：グローバル化の文脈における人間の成長	<ul style="list-style-type: none"> 世界の変化を調べることを通じて、世界的な文脈での健康についての理解を深める。 グローバル化の進展と気候変動に関する世界的な傾向が健康に与える影響を考慮し、デジタル技術、世界貿易、人の大量移動について調査する。 国連の持続可能な目標に焦点をあて、健康と福祉、人間開発を改善する。 持続可能な開発目標（SDGs）と世界保健機関（WHO）の取り組みを理解する。 非政府組織の役割とオーストラリアの海外援助プログラムを理解する。 世界的な文脈における健康への取り組みとプログラムを評価し、行動を起こす能力を習得する 	<ul style="list-style-type: none"> 国際関係・国際協力 移民/多文化共生 地球環境/気候変動

8) 「農業・園芸学」(11～12年生)

学年	分野	内容	関連する現代的諸課題
11～12年生	単元 3：未来の確保	<ul style="list-style-type: none"> オーストラリアの食品及び繊維産業における研究とデータ、イノベーションとテクノロジーの役割を検討する。 リスクを軽減し、これらの業界の存続可能性を保護する実践についても検討する。 イノベーションは、オーストラリア及び世界の食品および繊維の生産者が直面する課題の解決と解決策の発見という文脈で考慮される。このような課題に対するオーストラリアの過去の対応を調査し、成功につながった対応や予期せぬ結果をもたらした対応を分析する。 	<ul style="list-style-type: none"> 国際関係・国際協力 地球環境/気候変動
11～12年生	単元 4：持続可能な食品と繊維の生産	<ul style="list-style-type: none"> 土地管理の観点からの持続可能性と食品及び繊維産業における持続可能性の役割を検討する。 持続可能性は、環境、経済、社会の側面を含む総合的な概念である。また気候変動やその他の環境課題への効果的な対応のケーススタディを通じて、気候変動が食料や繊維の生産に及ぼす影響を研究する。 環境劣化と持続可能な土地管理と再生へのアプローチを調査する。また生態系、生物多様性の重要性、環境改変技術の適用可能性を研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境/気候変動

9) 「食品学」(11～12年生)

学年	分野	内容	関連する現代的諸課題
11～12年生	単元 1：食品の起源	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史的及び文化的観点から食に焦点をあて、時代や世界中での食の起源と役割を調査する。 ・ 人類が歴史的にどのように食料を調達してきたかを探求し、狩猟採集民から農村ベースの農業、そして今日の都市生活と食料の世界貿易に至るまでの一般的な進展を調べる。 ・ 世界の特定の食料生産地域を調査することを通して、食の起源と重要性について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際関係・国際協力 ・ 地球環境気候変動
11～12年生	単元 4：食糧の問題、課題、未来	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界の食料システムの一部としてのオーストラリアの食料システムに関する議論を検討し、増加する世界人口に適切に食料を供給するという課題に関連する重要な問題について考える。 ・ 食品情報や誤った情報に対する個人の対応と、消費者が適切な食品を選択できるようにするための食品の知識、スキル、習慣の開発に焦点をあてる。 ・ 食料安全保障、食料主権、食料市民権の関係も考慮する。 ・ 情報を評価し、証拠に基づいた結論を導き出す方法を検討し、この方法論を適用して現代の食品の流行、トレンド、食生活をナビゲートする。加えて、食品ラベルを解釈し、食品パッケージに使用されているマーケティング用語を分析することによって食品選択スキルを練習し、向上させる。 ・ 環境、気候、生態学、倫理、水と土地の使用と管理を含む農業慣行、イノベーションと技術の開発と応用、食糧安全保障と食糧主権の課題に焦点をあてる。 ・ 選択されたトピックを調査し、現在の状況と視点を明確にし、解決策を検討し、問題を解決して持続可能な未来をサポートするために行われた作業を分析する。この単元の焦点はオーストラリアの食糧問題、課題、未来にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際関係・国際協力 ・ 地球環境/気候変動

5-3-3 学校現場での国際教育実践を促進するための支援

オーストラリアでは全国における教育の基準となる AC において、国際教育、特に異文化理解、持続発展性などが重要視されていることから、こうした学習内容を学校現場で実践、浸透させていくために、これまで様々な国家規模のプロジェクトが実施されてきた。その代表的なものを挙げると、「オーストラリア・サステイナブル・スクール・イニシアティブ (Australian Sustainable Schools Initiatives: AuSSI)」と「グローバル教育プロジェクト (Global Education Project: GEP)」である。これらのプロジェクトがどのようなものであったかについて説明する。

(1) オーストラリア・サステイナブル・スクール・イニシアティブ (AuSSI、2003～2011年)

2005年から2014年までの「国連持続可能な開発のための教育の10年 (Decade of Education for Sustainable Development: DESD)」及びその後継プロジェクトとしての「持続可能な開発のための教育に関するグローバル・アクション・プログラム (Global Action Programme)」を受けて、オーストラリアでも「持続可能な未来のための教育—オーストラリアの学校のための全国環境教育声明 (Educating for a Sustainable Future: A National Environmental Education Statement for Australian Schools)」(2005年)や「我々の未来を大切に思うこと—国連持続可能な開発のための教育の10年<2005～2014>に向けたオーストラリア政府の戦略 (Caring for Our Future: The Australian Government Strategy for the United Nations Decade of Education for Sustainable

Development, 2005-2014)」(2014年)などが出された。こうした動きの中で学校現場でのESDを促進していくための具体策としてオーストラリア・サステイナブル・スクール・イニシアティブ(Australian Sustainable Schools Initiative: AuSSI)が2003年から開始された。

この取り組みは、ACの「領域横断的優先事項」の一つである「持続発展性」という事項を学校現場の教室における授業実践の中で具体的に実現していこうという試みであり、ACの「持続発展性」の定義及びそれを構成している要素と密接に関係している。

AuSSIは以下に示した九つの目標をもって実施された活動で、この目標にはカリキュラム編成に関するもの、学校作りや学校運営に関するもの、学校政策実施機関の運営に関するもの、コミュニティ作りに関するもの、個人のあり方に関するものなどが含まれており、学校全体で取り組むという「ホールスクール・アプローチ」が採用された。これは、学校教育の一部に持続可能性に関する学習を位置付けるというものでなく、学習環境の整備や学校作り、学校運営、コミュニティとの連携といったことまでが射程に入った全学校をあげて取り組んでいくというものであった。またAuSSIでは、持続発展性に関する教材、学習計画や報告のためのツール、教職員の研修の機会なども提供されており、ESDの知識や経験がない教職員でも参加しやすく取り組みやすいものとなっていた。

表 5-15 ACの「領域横断的優先事項」に「持続発展性」の具体的な組成概念

大項目	コード	組成概念 (Organizing Ideas)
システム	SS1	人間の生命を含むすべての生命体は地球のシステムに繋がっている地圏、生物圏、水圏、大気圏に依存するもの。
	SS2	持続可能な生活パターンには資源の責任ある使用が必要である。きれいな空気、水、土壌の維持と保存または修復、健康的な環境。
	SS#	社会、経済、政治システムは地球の持続可能性に影響を与える。
世界観	SW1	地球のシステムと価値観の相互依存性を認識する世界観。多様性、公平性、社会正義は持続可能性を達成するために不可欠である。
	SW2	世界観は個人的、地域的、国家的、世界的な経験によって形成される。レベルに応じて、個人、コミュニティ、ビジネス、政治的行動に関連する。
デザイン	SD1	持続可能な設計の製品、環境、サービスは、環境、社会、環境の質と多様性に影響を与える、もしくはそれらを回復する。
	SD2	創造的かつ革新的なデザインは、新しい方法を特定するために不可欠である。持続可能な生活。
	SD3	持続可能なデザインには、場所、過去の実践、研究に対する意識が必要である。技術開発と予測に基づいたバランスのとれた判断。
未来	SF1	持続可能な未来は、情報を得た個人、コミュニティ、地域、国家、世界の公平性を重視したビジネス及び政治的行動、将来にわたる世代を超えた公平性を保つ。
	SF2	持続可能な未来は、個人が情報を探し、解決策を特定し、過去の行動を振り返り、評価し、他者と協力し、影響を与える望ましい変化に向けて努力することである。

出典：ACARA, “Cross-Curriculum Priorities-Sustainability Version 9.0”, 2022, pp.2-3を参考に調査団作成。

AuSSIの目標

1. 学校のカリキュラムの不可欠な要素としての持続可能性のための学習と教授
2. 学校の日常的な業務の一部として、持続可能性に対する事項のアプローチを計画し、実施し、見直すという一連のサイクルに積極的に参加する学校
3. エネルギー、水、廃棄物、生物多様性を含む天然資源を、より持続可能な方法で使用する学校
4. 持続可能性に向けた変化について報告する学校と学校政策実施機関 (School Authorities)
5. 地域のコミュニティ (Local Communities) と連携して持続可能性に向けて取り組む学校
6. 効果的な持続可能性のための教育を支援する指針 (Policies) と実践に取り組む学校と学校政策実施機関
7. 持続可能性に関するエトス (Sustainability Ethos) を支援する価値観を発達させる学校とコミュニティ
8. 持続可能性に関する構想 (Initiatives) と意思決定についての当事者意識 (Ownership) を共有する若者
9. 持続可能性に関する決定と選択を効果的に行うことを支援されている個人

出典：木村裕「学校での持続可能性に関する教育活動の実践上の要点と課題の検討」比較教育学会『比較教育学研究 第58号』2019年、pp.75-94から引用。

AuSSIの参加校が目指す学校目標

(2) グローバル教育プロジェクト (GEP、1994～2015年)

このプロジェクトは、オーストラリア連邦政府が1994年から国家をあげて強力に推進してきたものである。これを担当したのは連邦政府内の海外援助活動を担っていた当時のオーストラリア国際開発庁 (Australian Agency for International Development: AusAID) であった。ただし、実際には開発教育の推進に貢献してきた NGO の職員や学校現場の教員、大学や研究機関の研究者など、多様な立場にある人々の協力のもとで進められてきたもので、最終的には学校現場におけるグローバル教育の実践と普及が目指された。

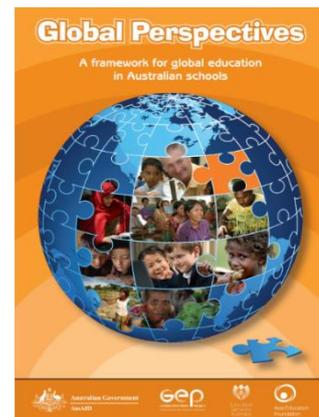
GEP においては、グローバル教育は「万人にとって平和で、公正で、

持続可能な世界に向けて活動することのできるような、物事をよく知り、エンパワーされた未来のグローバル・シティズンとなるための価値観やスキル、態度、知識を学習者に提供する教育活動」と定義された。そしてこの GEP を通じてプロジェクトの一つの到達点でもあるグローバル教育の枠組みを示した『グローバル・パースペクティブ：オーストラリアの学校におけるグローバル教育の枠組み (Global Perspectives: A Framework for Global Education in Australian Schools)』をはじめとした有用な教材が次々に開発され、学校現場で使われるようになった。

この『グローバル・パースペクティブ』には、グローバル教育の主要な学習内容とその学習を通じて習得されるべき価値観や態度 (Values and Attitudes)、知識と理解 (Knowledge and Understanding)、さらに技能 (Skills and Processing)、そして望ましい行動と参加 (Action and Participation) などが明確に記載されており、学校現場の教員にとっては非常にわかりやすく、グローバル教育の実践を始める上で欠かせない資料となっていた。

出典：Global Education ホームページ。
(<https://globaleducation.edu.au/global-issues/gi-australias0aid.html>)

『グローバル・パースペクティブ』



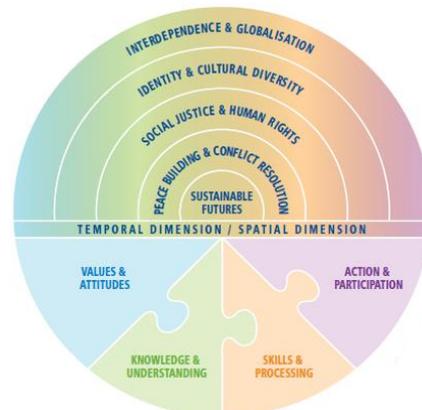
グローバル教育の学習内容とそれを通じて習得すべき知識・技能・能力

主要な学習内容 (Learning Emphases)

- (1) 相互依存とグローバル化 (Interdependence and Globalization)：複雑な社会的、経済的理解、そして人々間の政治的な繋がりや変化が他者に与える影響
- (2) アイデンティティと文化的多様性 (Identity and Cultural Diversity)：自分自身と自分の文化についての理解、そして他者の文化に対してオープンであること
- (3) 社会正義と人権 (Social Justice and Human Rights)：不平等と差別の影響、私たち自身の権利と責任のために立ち上がることの重要性についての理解、他者の権利を尊重すること
- (4) 平和構築と紛争解決 (Peace Building and Conflict Resolution)：平和構築の重要性の理解、前向きで信頼できる関係を構築及び維持することの重要性と、紛争を防止または平和的に解決する方法についての理解すること
- (5) 持続可能な未来 (Sustainable Future)：環境の質を低下させたり、将来の世代が自らのニーズを満たす能力を低下させたりすることなく、現在のニーズを満たす方法を理解すること

育成が期待される価値観や態度 (Values and Attitudes)

- (1) 個人のアイデンティティと自己達成感
- (2) 世界の人々との一体感
- (3) 他者を思いやる態度
- (4) 責任感と協同する態度
- (5) すべての人々の人権と尊厳を尊重する態度
- (6) 多様性と差異に対する受容的な態度



- (7) 他の人々の経験から積極的に学ぶ態度
- (8) 環境への関心と持続可能な活動へのコミットメント

習得が目指される知識と理解 (Knowledge and Understanding)

- (1) 複雑かつお互いに密接に関連したコミュニティの一員としての自己認識とそれがグローバル的問題にどのような影響を及ぼすかという認識
- (2) 人々及びコミュニティの中で、社会、政治、経済、環境がお互いに密接に関連し合っているという認識
- (3) グローバルな問題における視点の範囲と時間的な特徴の認識と評価
- (4) すべての生きものは相互依存関係にあり、それぞれが尊厳と持続発展性をもっているという理解
- (5) 貧困削減と生活水準の向上における経済開発の役割に関する理解
- (6) 多様性、及び異なる文化、価値感、信念が地球社会において正の作用を及ぼしているという認識
- (7) 自然に対する洞察力、偏見や差別の影響及びこうした態度に立ち向かっていく能力
- (8) 普遍的で、不可侵である人権に対する熟知
- (9) 貧困や不平等の原因とその解決方法への理解
- (10) 変化やその変化を引き起こす戦略の原因と結果についての理解
- (11) 戦争の原因と結果及び戦争解決と平和構築の重要性に対する認識
- (12) よい統治 (グッド・ガバナンス) の重要性の認識
- (13) グローバルな問題の特徴及び偏りのない中立的な理解の重要性の認識

習得が求められる技能 (Skills and Processing)

- (1) 協働、共有、戦略と外交、交渉と譲歩、仲介と対立の解決、新しく習得した知識を既存の知識の中に位置づけなおす能力
- (2) 異なった視点からの意見についても考慮できる批判的能力、固定的観念やステレオタイプ的な意見に対する批判的能力、メディアに対する批判的消費者であり、情報を分析し、的確な判断を下し、複雑な問題に対しても適切に処理できる能力
- (3) 個人的または組織的行動を起こすための、調査・探究能力、情報の評価能力と整理能力、推測・推察力、及び問題解決能力
- (4) 天然資源の使用に関する我々の責任の認識—我々の使用権利と環境保護とのバランス
- (5) 自分の意見をしっかりと表現したり、議論を組織したり、証拠を用いるなどして、他人の視点や意見を発展させたり、変えたりできる能力
- (6) 不当な状況を見つけ、公正の原則から、それを是正するための行動の機会をとらえる能力
- (7) 他人の気持ちを共有でき、また自分自身の生活スタイルや行動とそれによる他人や周りの環境への影響との間の関係を見極める能力

望ましい行動と参加 (Action and Participation)

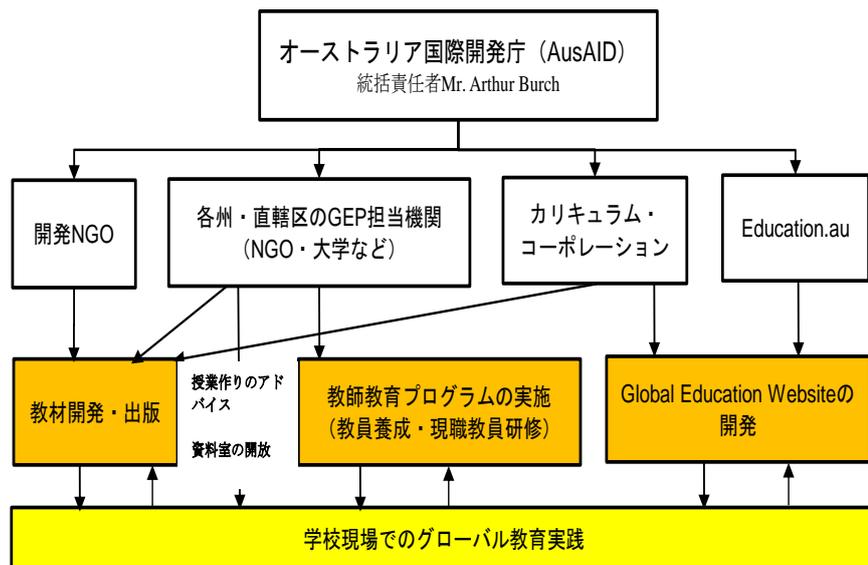
- (1) 行動したり、参加したりする適切な機会を見極める能力
- (2) ある特定の行動が自分自身及び他人に及ぼす正と負の影響を見極める能力
- (3) 望ましい結果を導き出すために積極的に行動を起こしたいという態度
- (4) 参加したことがよい結果をもたらすために、考えられる障害や課題を見極める能力とそれを克服する戦略を工夫する能力
- (5) 他人と協力する積極的な態度と能力、さらに他人の参加を奨励し、それを積極的に価値付けようとする意思と能力
- (6) 行動形式を省察し評価する能力と、その進歩をレビューし、再検討する能力

出典：AusAID, “Global Perspectives: A Framework for Global Education in Australian Schools”, 2008, pp.5-7 を参考に調査団作成。

また GEP の実施体制は次頁の図 5-5 に示したように、AusAID を筆頭にして、カリキュラム・コーポレーションという政府機関や開発 NGO などが加わり、学校現場へグローバル教育の実践ノウハウが確実に落ちていくように組織されていた。

ただし、現在はこうした国家プロジェクトが終了して 10 年近くが経つことから、これらに参加した学校や教員は徐々に少なくなっているが、こうした活動の成果は決して少なくない学校や教員の記憶に残っており、それが現在の国際教育の実践にも繋がっていると言えなくもない。

では次に、NSW 州及び VIC 州における国際教育についての考え方・方針とその実践を支援するために推奨している教材・リソースについて見ていく。



出典：木村裕「オーストラリアのグローバル教育プロジェクトの基本的構想とその特質」京都大学大学院『教育学研究科紀要 第55号』2009年、pp.377-390 から引用。

図 5-5 GEP 全体のフレームワーク

(3) NSW 州における国際教育の考え方・方針と学校現場での実践への支援

NSW 州教育標準機関 (NESA) は州内における教育法の施行状況に責任を負う組織であるが、同機構が 2019 年に発行した『学校カリキュラムにおける記述性と柔軟性のバランス (Balancing Prescriptiveness and Flexibility in the School Curriculum)』の中で、「カリキュラムにおける記述性と柔軟性は、教育実践を行い、それを評価する際に非常に重要になってくる。この観点で NSW 州カリキュラムを見ると、かなりの程度記述性が確立されており、そのため柔軟性がもう少し必要であると指摘することができる」と述べられている。実はオーストラリアン・カリキュラム評価報告機構 (ACARA) による AC は各州のための「ガイドライン」として策定されたものであり、各州にかなりの柔軟性が与えられているのである。

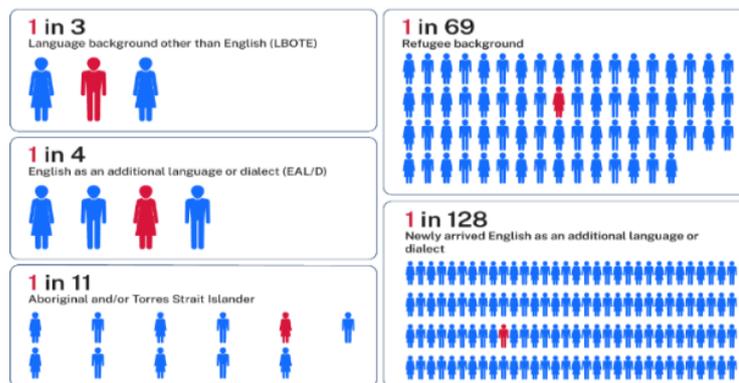
そこで NSW 州は 2010 年以降、ACARA とともに AC、特に「汎用的能力」の「異文化理解」と「領域横断的優先事項」における「アボリジニとトレス海峡島嶼民の歴史と文化」についてのカリキュラム開発とそのモニタリングを行ってきた。その結果として 2020 年に発行された『不思議に思う思考を育み、情熱に火を点ける—新しい学校カリキュラムのデザイン：NSW カリキュラム評価 (Nurturing Wonder and Igniting Passion, Designs for a New School Curriculum: NSW Curriculum Review)』の中で次の五つの提案を行った。

- 社会において、私たちは学校を民主主義に満ちた場所に作り替えていく必要がある。すなわち、文化的にも言語的にも、そして宗教的にも多様な民主主義の中で生活し、参加していくために必要な態度や価値観、文化的理解能力を発展させていくことができる場所である。
- これまで以上に児童生徒が直面する社会は文化的にも言語的にも多様になってきており、こうした社会で生きていかなければならない児童生徒すべてのニーズに合うように、カリキュラムは柔軟であり、学校や教員がこの多様性に合わせて自由に対応可能なものであるべきである。このことは地域の多様性にカリキュラムが柔軟に適応させられるということの意味しており、個々人の児童生徒の家族背景、文化的及び地域社会といった背景に合わせられるものでなければならない。
- アボリジニやトレス海峡島嶼民出身の児童生徒の多くが、学校教育に対して非常に大きな文化的壁を感じており、それは彼らの学習成果に大きな影響を及ぼしている。学校で学習するということは文化的交流を

することであるが、それが十分に行われているとは言い難い。教員がもっと児童生徒のニーズに合うように文化的知識の提供や経験を通じた学習が可能になるようにしていく必要がある。

- 先住民集団からの意見として、現行の学校カリキュラムは西洋文化のもとで成長した子どもを主対象にしているため、こうした子どもがもっている文化的・言語的偏見がカリキュラムを固定的なものにしている。これはオーストラリア先住民の子どもにとっては学習上の非常に大きな障害となっている。
- したがって、NSW 州では近年、急速にグローバル化・多文化化し、社会的にも経済的にも環境的にもより複雑化している社会で生きるために必要な「能力」に焦点をあてている。すなわち、グローバルな能力や異文化理解、社会的能力、倫理的行動といったものである。

このように同州では、AC の基本的な方針に沿って柔軟に対応していく方向性を打ち出しており、特に AC の「汎用的能力」(同州では「能力」と呼んでいる)の中の「異文化理解」をかなり重視している。この背景には、2022 年時点の学校統計において、児童生徒の 3 人に 1 人が英語以外を母語としており、11 人に 1 人がオーストラリア先住民であり、69 人に 1 人が難民家庭の出身であるという状況が明らかになったためである。



出典：NSW 教育省のウェブサイト。

NSW 州の学校における多文化状況

NSW 州教育省のホームページ上では、教員が多文化・異文化を指導する場合、固定観念に捕らわれないようにということで、以下のような文化についての九つの鍵概念が示されている。

NSW 州による文化についての九つの鍵概念

- 文化は複雑でダイナミックなものである
- 文化はアイデンティティと同一ではない
- 文化は広く論争されている用語である
- 文化は視点とアイデンティティに影響を与える
- 文化は移住によって、世代や場所を超えて、また結婚によって適応されていく
- 文化は様々な方法で表現できる
- 文化は目には見えない
- 文化は人を定義しない
- 文化には、世界での行動、考え方、価値観、存在の仕方が含まれる

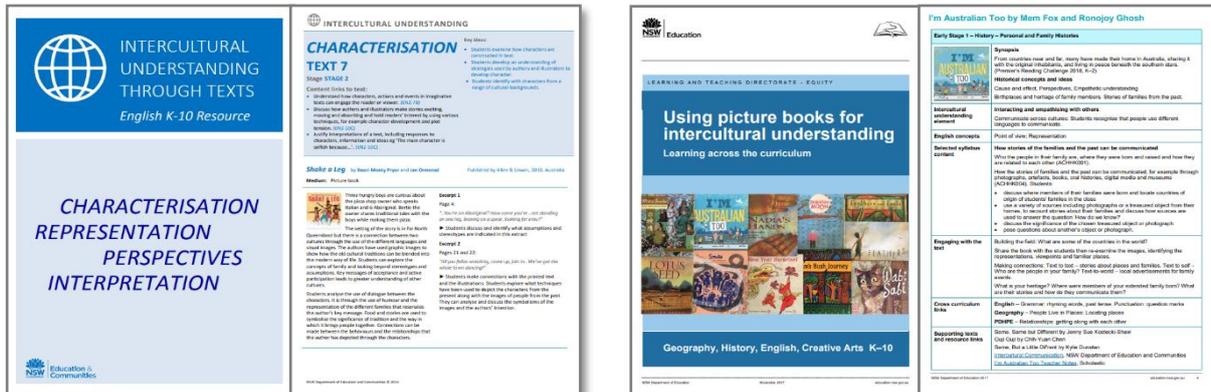
また、教員の文化についての定義を深めるために「文化の定義 (Defining Culture)」「文化交流 (Cultural Exchange)」「文化、民族性、アイデンティティ (Culture, Ethnicity and Identity)」と題された西シドニー大学のグレッグ・ノーブル (Greg Noble) 准教授による講演ビデオも紹介されている。さらに AC の汎用的能力の一

出典：NSW 州教育省のウェブサイト。

「文化の定義」と題された講演ビデオ



つに定められている「異文化理解」能力を育成するために有益な図書も選定され、『テキストを通じた異文化理解 (Intercultural Understanding through Texts)』及び『異文化理解のための絵本の活用 (Using Picture Books for Intercultural Understanding)』で紹介されている。両冊子ともに、異文化理解のレベル (特徴→表現→視点→解釈) と年齢に応じた図書が写真と簡潔な内容要約で説明されており、教員にとっても担当している児童生徒の適切な図書が非常に見つけやすい構成になっている。



出典：NSW 州教育省のウェブサイト。

『テキストを通じた異文化理解』(左) と 『異文化理解のための絵本の活用』(右)

それに加えて、ヘンリーパークス公平性リソースセンター (The Henry Parkes Equity Resource Centre: HPERC) を通じて、異文化理解教育のための教材・リソースを州内の学校に提供している。同センターは、教員や児童生徒、教員養成大学の学生、大学教授などへも異文化理解教育の指導について積極的に支援を行っている組織であり、こうした活動を通じて NSW 州内においては広範囲で異文化理解教育が普及している。

表 5-16 ヘンリーパークス公正リソースセンター (HPERC) が提供している副教材

種類	教材名
副教材	<ul style="list-style-type: none"> 「多文化教育 (Multicultural Education)」 「リテラシーと数的能力 (Literacy and Numeracy)」 「オーストラリア先住民教育 (Aboriginal Education)」 「コネクテッド・ラーニング (Connected Learning)」 「児童生徒の関与と保持 (Student Engagement and Retention)」 「二言語と地域社会言語 (Bilingual and Community Languages)」
学習キット	<ul style="list-style-type: none"> 「リテラシー教材セット (Class Sets of Literacy Texts)」 「幼稚園用キット (Preschool Kits)」 「新開発のキット (New Arrival Kits)」 「和解キット (Reconciliation Kits)」 「文化財キット (Cultural Artefacts Kits)」 「ステージ6先住民学習キット (Stage 6 Aboriginal Students Kits)」

出典：A NSW Government Website-Education, “Henry Parkes Resource Centre” ([Henry Parkes Equity Resource Centre \(nsw.gov.au\)](http://www.henryparkes.com.au))。

(4) VIC 州における国際教育の考え方・方針と学校現場での実践への支援

VIC 州も NSW 州と同様に多文化が浸透した地域である。同州の住民は 200 以上の国々から移住してきた人たちで、260 もの異なった言語を使用し、135 もの異なった宗教や信仰が行われている。同州でもこうした多文化は州の偉大な財産であると考えられ、学校教育においても多文化教育や異文化理

解教育が積極的に行われ、学校がこうした多文化を積極的に受け入れるための重要な役割を担っている。

実は、VIC 州では 2011 年にメルボルン大学 (University of Melbourne) とラ・トロブ大学 (La Trobe University) と共同して、「異文化理解」教育を 26 の公立校 (小学校と中学校を含む) を対象に試行的な調査を行った。そして次のような三つの結果を得ていた。

- 「異文化理解」教育は教育課程全体に及んでおり、「言語」や「人文科学」といった特定の学習領域に限られるものではない
- 「異文化理解」教育の効果的な改善のためには、教育課程の改訂よりも、現在進行中の全学校アプローチが重要である
- 「異文化理解」教育を学校全体に広めるためには、その道具的役割を果たすであろう「異文化理解のためのグローバルシティズンシップ・フレームワーク (Global Citizenship for Intercultural Understanding Framework)」の開発が重要である

なお、この結果を踏まえて、VIC 州では「異文化理解のためのグローバル・シティズンシップ・フレームワーク」が 2015 年に策定されている。

またこの調査に続いて 2015 年から 3 年間にわたって行われた 6 校の公立小学校と 6 校の公立中学校を対象にした調査では、児童生徒の異文化の知識とスキルの習得において最も大きな影響を与えた学習方法として、教室以外で行われた学習、すなわち家族や友達を含む他者との交流学习であったことが判明していた。

こうした調査結果を踏まえて、VIC 州においては学校での異文化理解のための教育活動を支援していくために、ホームページ上で様々な教材や資料の提供を行っている。

例えば、同州教育省のホームページには「多文化教育プログラムと教材 (Multicultural Education Programs and Resources)」というページがあり、そこには「異文化能力カリキュラム (Intercultural Capability Curriculum)」「人種差別について (Addressing Racism)」「人権教育 (Human Rights Education)」「多文化共生 (Multicultural Inclusion)」「年間行事：文化的多様性を祝う (Annual Events - Celebrating Cultural Diversity)」「教員のためのプロフェッショナルな学び (Professional Learning for Teachers)」といった六つの項目が設定され、それぞれにおいて授業で活用できる資料などが入手できるようになっている。

ここでは一例として「多文化共生」について見ていく。まず「多文化共生を促進することは、誰にとっても歓迎され、安心して参加できる活気に満ち繁栄した学校コミュニティを創造していくためには不可欠である」と述べられ、続いて「学校は多様性の受容、異なった文化の知識やグローバル及びローカルの問題の両方についての理解を深めることができる学習環境を提供することによって、はじめて私たちのコミュニティの多文化共生を促進するという重要な役割を果たすことができる。したがって、すべての教職員と児童生徒は学校コミュニティにおける多文化共生に積極的に関与していくことが奨励される」と説明されている。

これを実現していくためのガイドラインとして『多文化共生のためのリーダー的存在の児童生徒に向けたガイド (Student Leaders for Multicultural Inclusion)』が発行されている。ここには児童生徒たち自身が多文化共生といった学校環境を創造していくために必要なことがわかりやすく解説されている。どのようにしてより多くの児童生徒をこの活動に巻き込



出典：VIC State Government のウェブサイト。

『多文化共生のための一時的な存在の児童生徒に向けたガイド』

んでいくことができるかといったことや、VIC 州が行っている「文化的多様性を祝う週 (Cultural Diversity Week)」などのイベントの効果的な活用といった手法が紹介されている。

これ以外にも、同州教育省では「Arc (アーク)」¹⁴というホームページを立ち上げ、教員及び児童生徒を対象とした様々な教材・リソースを無料で提供している。これは、学校の教育活動全体はもちろん、その中でも特に「英語」「言語」「公民とシティズンシップ」「地理」「歴史」といった学習領域を中心に児童生徒の「異文化理解」能力の発展を支援する教材・リソースである。



出典：VIC 州 Arc のウェブサイト ([Arc | Learning \(educationapps.vic.gov.au\)](https://educationapps.vic.gov.au))。

VIC 州の「Arc (アーク)」のウェブサイト

以上より、VIC 州は異文化理解とグローバル・シティズンシップに焦点をあてた国際教育の実践において先進的な州であると言え、その背景にはオーストラリアが世界の中でも最も多文化の進んだ国家であり、グローバル化した社会を抱えていることから、この豊かで複雑な社会の文化的多様性を維持していくためには、異文化認識とその能力が欠かせないものであるとして重要視されているということがある。VIC 州は、これからも児童生徒の「異文化理解」能力の発達のために、様々な学習教材・リソースを開発していく予定であり、先に触れた NSW 州と並んで、オーストラリアの中でも「異文化理解」の教育において最も先進的な教育方針が打ち出されている州であると言える。

¹⁴ このホームページはもともと「FUSE (Find, Use, Share Education)」という名称で立ち上げられたが、2023年に「Arc (アーク)」と名称を新たにして、教員にとってより使いやすいホームページへと改善された。

5-4 学校現場での国際教育の実施体制・指導方法

現地調査では中等教育の学校 2 校を訪問した。一つは NSW 州のルーティ・ヒル・ハイスクール (Rooty Hill High School) であり、もう一つは、VIC 州のマック・ロバートソン・ガールズ・ハイスクール (Mac. Robertson Girls' High School) である。学校の選定にあたっては、教科横断的にグローバル教育がどのように実施されているかを見るため、初等教育ではなく中等教育の学校を選定した。多文化教育の先進的な学校と通常の学校の 2 校を予定していたが、学校訪問の調整に難航し、グローバル教育に熱心な学校 (前者) と、人種・民族が多様であり、教科横断的な授業デザインを行うエリート校 (後者) の 2 校の訪問となった。結果的には、性格の異なる二つの多文化教育の現状を知ることができた。

■ルーティ・ヒル・ハイスクール (生徒数 1,080 名、教員数 80 名)

西シドニー地区に位置する総合制学校 (Comprehensive School)¹⁵であり、コミュニティ・スクール¹⁶である。7 年生から 10 年生の生徒 1,080 人及び 80 名の教員で構成される。同校の 78% の生徒は、NSW 州による世帯の社会階層区分によれば、教育指標で 4 段階のうち下位 2 段階の世帯の生徒である¹⁷。生徒の 650 人は、英語が母語ではない生徒 (English as an additional language or dialect, EAL/D) として登録されている。1 クラスの人数の定員は 24 名である。

先住民出身の生徒の割合はオーストラリア平均の 3% より多く、5% である (同校校長による説明)。生徒が多様な民族で構成され、フィリピン、フィジー、サモアなどの太平洋諸島、イギリス、アラブ、インド系の生徒が多い。教員も多様な出自の教員で構成される。

校長の Ms. Christine は、同校で 26 年間、校長を勤め、多文化教育の充実を図ってきた。「すべての生徒が自らの最善を尽くす」が学校のビジョンである。



出典：調査団撮影。

ルーティ・ヒル・ハイスクールの正面



出典：調査団撮影。

学校入り口のオーストラリア先住民アート(左)、校庭のオーストラリア先住民由来の樹木(Cumberland)と集会場(中)、調査団の訪問は、同集会場にてオーストラリア先住民出身生徒による先住民を記念する作文の朗読で始まった(右)

¹⁵ オーストラリアでは、誰もが入学可能な公立中等教育学校を総合制学校と呼び、1950 年代より制度開発を行ってきた伝統がある。その後、ニューサウスウェールズ州やクイーンズランド州などでは、入学者選抜を行う公立の選抜校 Selective school を設置している。

¹⁶ ニューサウスウェールズ州のホームページでは、Connected Community School という学校種があり、これは先住民の子ども達の教育の改善を地域ぐるみで行う学校を指す。同校が正式にこの学校種であるかは確認できなかったが、先住民との共生を目指す学校であることは校長の聞き取りからわかった。

¹⁷ Rooty Hill High School. (2022). *2022 Annual report*. ニューサウスウェールズ州では、学校別に世帯職業と教育指標 Family Occupation and Education Index を集計している (Centre for Education Statistics and Evaluation. (2014). *Family Occupation and Education Index (FOEI) 2013.*).

■マック・ロバートソン・ガールズ・ハイスクール（生徒数1,200名、教員数情報なし）

地域の成績トップ1%の生徒が入学する公立の選抜校である。9年生から12年生の生徒1,200名が在籍する。入学試験では生徒の知っている範囲より高度な問題を出題し、生徒の Aptitude（わからない問題に向き合う力量、自らの知識とスキルを総動員し、知っていることを unlearn して考える力量）を審査する。生徒の人種・民族構成は、近年はインド系や東アジア系が多いという。25年ほど前は、ロシア、イタリア系の生徒が多く、移民としてやってきて家庭がエリート教育のために同校への進学を達成するケースが多かったという。学区制がなく、2時間ほどかけて通ってくる生徒もいる。なお、先住民出身の生徒は在籍していない（2022年時点）。



出典：調査団撮影。

マック・ロバートソン・ガールズ・ハイスクールの正面

同校では VIC 州の中等教育修了証または国際バカロレア修了証の二つの資格を取得でき、11~12年生でカリキュラムが分かれる。第二言語として、四つの外国語（日本語、ドイツ語、インドネシア語、フランス語）から一つが必修。教員数は150名となっている。



出典：同校のホームページ。

同校の生徒たち

5-4-1 学校現場のカリキュラム・マネジメント状況

(1) ルーティ・ヒル・ハイスクール

教科教育は、教科主任のもとに歴史・地理などのサブ教科チームが組織され、指導計画が作られる。各教科には、シニア教員がコーディネーターとなり教科全体の内容・指導法を調整する。実際には各単元について核となる教材やアセスメントを開発し、他の教員はそれを用いて授業を行っているとのことである。

同校は4年毎に学校計画を策定する。学校計画はいくつかの方針に分かれており、「学校改善計画」「生徒エージェンシー（Agency）の育成」などがある。学校計画をもとに、図5-6のような教科別のシラバスが開発される。各教科チームは、学年や学期のはじめに指導計画を作り、学年の終わりには生徒の学びの達成を評価し、文書を作って共有し、次年度の計画に反映させる。同校のホームページには、カリキュラム開発、教員研修の詳細な



HSIE FACULTY
Year 12 Legal Studies: Scope and Sequence (2021 - 2022)

Term 4 - 2021	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
TOPIC 1	CORE 1 - CRIME - 30% of indicative course time											
SUBTOPICS	Transition back to F2F Learning		The Nature of Crime		The Criminal Investigation Process		The Criminal Trial Process		Sentencing and Punishment			
OUTCOMES	H1, H2, H3, H4, H5, H6, H7, H8, H9, H10											
ASSESSMENT	AT1 Case Research and Extended Response (Hand in) - 20% weighting											
AT1												
Term 1 - 2022	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
TOPIC 2	CRIME		CORE II - HUMAN RIGHTS - 20% of indicative course time									OPTION 4
SUBTOPICS	Young Offenders	International Crime	The Nature & Development of Human Rights		Promoting and Enforcing Human Rights		Investigation of a contemporary issue					
OUTCOMES	H1, H2, H3, H4, H5, H6, H7, H8, H9, H10											
ASSESSMENT	AT2 Topic Test - 20% weighting											
AT2												
TERM 2 - 2022	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
TOPIC 3	OPTION 4 - INDIGENOUS PEOPLES (25% of indicative course time)										HSC TRIALS	
SUBTOPICS	The nature of the law		Responses			Contemporary Issues						
OUTCOMES	H1, H2, H3, H4, H5, H6, H7, H8, H9, H10											
ASSESSMENT	AT3 Trial HSC Examinations (3 hours, 5mins) Core 1& 2 & Option 4 will be examined - 30% weighting											
TERM 3 - 2022	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
TOPIC	OPTION 3 - FAMILY (25% of indicative course time)											

出典：同校のホームページ。

図5-6 「人間社会と環境」のシラバス例

指針と活動が公開され、他校のホームページよりも際立っている。訪問時にカリキュラム開発方法について聞き取ったが、そのシステムは訪問時間内に聞き取ることができないほど理論的・系統的な印象があった。

■内容とスキルの関係

校長によれば、教える内容（Contents）を手段として、スキルを身に付けることが、同校のカリキュラム計画の基本にあると言う。例えば先の図 5-6 の歴史の単元で言えば、後述する同校独自のカリキュラム開発ツールに沿って学び活動を進めることで、生徒が歴史について「論理的に判断する」「根拠に基づく判断を行う」というスキルを身に付けることを狙っている。

また、同校は内容とスキルをめぐる同校のカリキュラム方針を教科指導法（Instructional pedagogy）と位置付けるほかに、生徒のエージェンシーをどう育むか、生徒が自分の行為と態度に責任をもつような教育学（Relational Pedagogy）の体系をカリキュラム・マネジメントに組み込んでいるとのことであった。

■グローバル教育：先住民との和解に向けた教育 多様性の包摂

現地調査では、生徒約 10 名と自由にディスカッションする機会に恵まれた。生徒の家族の出身地域は世界中に散らばっており、移民としてオーストラリアで暮らし始めた家庭の状況を知ることができた。生徒の中には、この学校を選んだ理由が多様な出身階層の生徒がいるからであると答えた者もあり、学校生活に異文化経験を得る機会が豊富に埋め込まれていることがわかる。



出典：調査団撮影。

生徒と話し合う調査団

和解に向けた行動計画

ホームページによれば、同校では 2018 年よりオーストラリア先住民の歴史と文化の尊重、先住民生徒の学びの包摂、その他すべての多様な生徒の包摂のための計画作りを始めている。2022 年には 28 人の教員や地域住民とともに「和解行動計画（Reconciliation Action Plan）」を策定した。この中には 23 の行動計画が含まれている。オーストラリア先住民出身の生徒の授業参加の促進、地域内のオーストラリア先住民との連携強化、学校での「和解週行事」の開催などが掲げられている。

また同校の各教科チームにはオーストラリア先住民教育コーディネーターが配属されており、各教科で当該生徒の学びへの参加を支援している。自分がオーストラリア先住民であると人に知られたいくない生徒やオーストラリア先住民として行事に参加することを躊躇する生徒に対して個別に支援する。本来はオーストラリア先住民出身の教員がコーディネーターをするが、同校にはその教員がいないため、例えば人文科学系ではスリランカ系の教員がコーディネーターを担った。



出典：同校のホームページ。

「和解行動計画」策定メンバー

オーストラリア先住民学習

ニューサウスウェールズ州の 10 年生までの中等教育では、教科「人間社会と環境（HSIE）」が設定されている。また、ナショナル・カリキュラムにお

いても領域横断的にオーストラリア先住民に関する学びが組み込まれている。そこで同校では、すべての生徒が「HSIE」に含まれる教科「先住民族学」を履修するとともに、「地理」「歴史」「英語」などでの学習でもオーストラリア先住民についての内容を学ぶようにしている。面談した教員からは、「先住民族学」の状況について以下のような説明が聞かれた。

- オーストラリア先住民についての学習は、彼らの文化・歴史を学ぶためだけでなく、すべての生徒が自らの出自がどこにあり、何であるかを考えるための学びとして位置付けている。
- 同校では和解行動計画があるなど積極的に推進している。思春期のオーストラリア先住民出身の生徒にとっては、「和解週行事」への参加にためらいを見せる生徒もいるが、教員集団で見守りながら支援を続けている。

(2) マック・ロバートソン・ガールズ・ハイスクール

同校訪問時には日本語科を担当している澤木教諭にのみ面談が可能であったため、以下は同教諭から見た同校の特徴を報告する。

州のカリキュラムを参照しつつも、教員個人や教科チーム独自のカリキュラムが編まれている。同校の教員として採用されるには厳しい試験があり、能力の高い個性豊かな教員が集まっている。教員たちは、週に3回、全教員や学年・教科別の会議(Professional Learning Community)を通じて、教科毎に立てているカリキュラムマッピングを共有する。生徒が学びを主導する授業を行うが、その時に教員には高い専門性が求められる。生徒がもち出すアイデアについて、必要なリソースや指針をすぐに提供できなければならない。同校の教員はその力量がある。

同校の特徴として、11年生から国際バカロレアコースを選択することが挙げられる。図5-7はその前の10年生のカリキュラムである。VIC州カリキュラムに加え、バカロレアに進むための応用的な教科学習が組まれている。

Domain	Semester 1	Semester 2	
Arts & Technology	Year 10 Elective	Year 10 Elective	
	VCE Sequence Units 1 & 2		
English	Year 10 Elective Sequence (includes two semesters in a sequence)		
Health & Physical Education	Year 10 Elective	Year 10 Elective	
	Applied Physiology		
	Accelerated VCE HHD		
Humanities	Business and Civics	Year 10 Elective	
	VCE Sequence Units 1 & 2		
Languages	Continue your Language studies (French/German/Indonesian/Japanese)		
	(if studying VCE language externally) Supervised VCE Language Study		
	(if studying non-VCE language externally) Non-Languages Elective	(if studying non-VCE language externally) Non-Languages Elective	
Mathematics	Year 10 Mathematics		
	VCE Mathematical Methods Units 1 & 2 (2024 only)		
Science	Biology	Chemistry	Physics
			Applied Science
			Biology enrichment
			Chemistry enrichment
			VCE Physics Unit 2

出典：同校のホームページ。

図5-7 同校の10年生のカリキュラム

■グローバル教育

教科「日本語」での多文化教育について聞き取ったところ、以下のような回答が得られた。

- 日本語教育では、言語と言語生活に宿っている人間性を考える授業を行う。そもそも言語はコミュニケーションのためにあり、コミュニケーションするために教科的内容が必要であり、その内容は必然的に文化を背負う。他言語を学ぶことは、この論理において他文化を学ぶことになる。
- 刺青とタトゥーは同じ言葉だが、言葉の違いによる違う文化を学ぶことができる。日本での人々が想起するもの・同意している規範と、ニュージーランドのそれは違う。
- 他言語を学ぶことは、考える順番について学ぶことでもある。日本語で話すと結論が最後になる。英語では先に結論を言わなければならない。日本語だと、謝ったり、謙譲してばかりだが、英語では早く言い切ることが求められる。同じ人が話すとしても、言語によって人格が変わるように見える。

5-4-2 教員の授業計画（準備方法、学習指導案）

(1) ルーティ・ヒル・ハイスクール

同校において特徴的なのは、学校全体で統一したカリキュラム開発ツール（教員たちは「レシピ」と呼んでいる）を用いていることである（図 5-8 参照）。このレシピは、アメリカの教育学者（John Hattie）の手法を応用したものである。このツールにおいて、「ビッグアイデア」と「学びの意図（Learning Intention）」は NSW 州のシラバスからそのまま使い、それ以外のマスを教員が開発する。具体的には、カリキュラムを踏襲しながら、1) まず行うこと Do now、2a) ケーススタディ、2b) エビデンスの選択、3) 注釈をつける、4) 小問題を教員が作成する。

ビッグアイデア：現代的課題・人権の促進と法的実行	
学びの意図： 少年兵の人権問題に対する非法的対処の効果を評価する	まず行うこと Do now 前時で学んだことやNGOのホームページを参照して次のエビデンスを提示しなさい。「UNICEFやWar ChildなどのNGO組織が地域紛争に巻き込まれた子どもの権利を促進し、法的な実行力を持たせるためにどのような取り組みをしたか。」
学びのタスク： 1. まず行うこと 2. a. ケーススタディ b. エビデンスの選択 3. 注釈をつける 4. 小問題	成功の指標 <input type="checkbox"/> 前時の学びを想起し、人権促進の成功エビデンスを特定する (Task 1: Do now) <input type="checkbox"/> ケーススタディの効果的な指標に沿って協働的に学ぶ (Task 2a) <input type="checkbox"/> 人権促進・実行におけるメディアの効果について適切なエビデンスを選び、分析する (個人作業) (Task 2b) <input type="checkbox"/> 人権問題の達成と課題について注釈をつける (Task 3) <input type="checkbox"/> 人権問題の非法的対処の効果について評価文を書く (Task 4)

出典：同校ホームページ。

図 5-8 カリキュラム開発における「レシピ」（「歴史」のある単元例）

ビッグアイデア（単元）はおよそ 10 週間かけて学習される。各教員には 5 日間に一度程度、シラバスを研究する時間が与えられ、指導計画を作る。NSW 州のシラバスを参照しながら指導計画を立てるが、教科書はあまり使われない。例えば歴史の授業の場合、教科書の代わりにニュースを取り上げ、批判的思考を試す授業を行っている。理由として、教科書内容は現在起きていることを反映しておらず情報が古いこと、価格が高くまた頻繁に改訂されるので購入が難しいことが挙げられた。指導案においては教員チームの独自性が高い。

このレシピはそのままアセスメントツールとしても機能することが特徴的である。簡易な計画及び評価ツールを用いることで、初任の教員が効果的に授業を実践できるように支援しているという。離職率が高いための対策であるとも語っていた。

(2) マック・ロバートソン・ガールズ・ハイスクール

教科を越えて新しいことをしようとの教員集団の意欲が高く、例えば、「数学」と「演劇」を一緒に行う授業なども試行されている。「日本語」を担当するのは 2 名の教員であるが、その 2 人がお互いの内容を把握し調整しつつも内容を統一して授業を行うことはない。「Compass」という生徒個人情報・学習記録を参照できる生徒データベースがあり、教員たちが集団で生徒個人の状況をリアルタイムで見取り、記録し、共有（閲覧）する。学習面、生活面の記録が色を分けて表示されるため、生徒

の状況を具体的に知ることができるという。教員たちはこのシステムを通じて生徒の日々の経験や出来事から新しい授業を開発している。

また教員たちが共有している授業観として、内容の教授よりも、スキル（学ぶ態度・人間性）の育成を重視していることが挙げられる。同校が国際バカロレアを採用していることもその理由の一つであるという。知っていることを答えさせるのではなく、自ら知識を作る授業を実践したいという。例えば数学の数式を解かせて正答である「5」を導くのが伝統的な教育だとすれば、同校では「5」を作る方法を生徒に考えさせる（足し算で、割り算で、べき乗で）。

5-4-3 授業実践の様子と学習者に対する評価

現地調査では、ルーティ・ヒル・ハイ・スクールにおいて 10 分間のみ授業観察ができた。以下はその概要である。

(1) 授業実践の様子

- 1) 学年：12 年生、14 名（男子 10 名、女子 4 名）
（アフリカ系 1 名、南・東南アジア系 4 名、ポリネシア系 1 名、白人系 8 名）
- 2) 教科：経済
- 3) 授業者：年配の女性教員
- 4) テーマ：グローバル企業の活動
- 5) 授業の展開：

スターバックス、マクドナルド、トヨタなどのグローバル企業について、下記のトピックを調べる。



出典：調査団撮影。

12 年生の授業風景

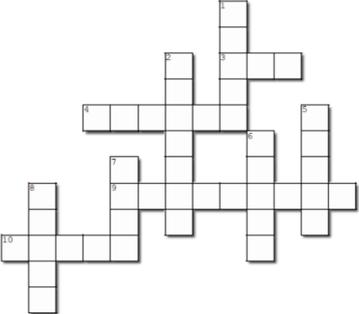
- 計画目標（スピード、特注生産、コスト、依存性、柔軟性、質）
- 活動（サプライチェーン管理、アウトソーシング、技術、在庫管理）
- *単元の始めの授業であり、経営用語の確認のシーンが多かった。

(2) 学習者に対する評価

ルーティ・ヒル・ハイスクールのアセスメントの特徴は、「すべての生徒が自らの最善を尽くす」との学校ビジョンの下に、上述のレシピに示される逆向きアセスメント設計を通じ、生徒が題材（教科コンテンツ）を表現する（スキル）ことを評価している。

同校が徹底しているのは、生徒へのフィードバックをできるだけ頻繁に多く行うことである。授業中か、遅くても 2 日間までに行うことが推奨され、それは学習科学の知見に基づいていると言う。同校では上述の「レシピ」に沿って、毎時のパフォーマンスタスクの成果（レシピにおける「タスク 4. 小問題」）を生徒個人別に見とっている（図 5-9 の中央）。この成果は、「期待以上の成長（緑色）」「期待以下の成長（黄色）」「ネガティブな成長（赤）」の 3 段階され、校内ネットワークソフト上で、色別に管理される。色の分布を見ることで生徒の達成の全体像が視覚化されるようになっており、指導の改善に繋げやすくしている。

Learning Task 1: Crossword



Across

3. A type of bird that can fly at night
4. A shape with four sides of equal length
9. A type of energy that can come from moving water or wind
10. A type of weather with dark clouds and thunder

Down

1. A device that allows you to communicate with someone far away
2. A small, shiny rock that is often used in jewelry
5. A type of tree that loses its leaves in autumn
6. A country in Europe that is known for pizza and pasta
7. A unit used to measure weight
8. A substance that plants need to grow

リテラシーチームによる 10 年生向けドリル・テスト

Rigorous Reading-Formative

Interferal

1. What is the independent variable of the experiment?
2. What is the dependent variable of the experiment?
3. Why is it important that scientific conclusions are honest?
4. Do you think **Labile** can use the data to draw a conclusion about daily temperature changes that occur at other times of the year? Explain

Task 7: Exit Slip 2
What must be included in your conclusion in a scientific report?

Formative

- Working Scientifically
- Vocabulary / Metalanguage
- Literacy

学習評価チームによる各教科の形成的評価ワークシートのサンプル



Do Now:

Using your current knowledge or the visuals, answer the following:

1. What is **NAIDOC** week?
2. Identify as many events/celebrations we do at Rooty Hill High School to learn and celebrate about the history of Aboriginal and Torres Strait Islander people.
3. Explain how the theme 'Get Up! Stand Up! Show Up!' is relevant in

NAIDOC 週間用の教材



Welcome to My Learning Hub

Hi there, click here to [Access Learning](#)

Need help? Watch this video [Help Video](#)

My Capabilities
Learn about yourself and discover your strengths

My PLP
Create your own learning and life plan for your future

My Eportfolio
 Showcase evidence of your learning

Leaderboards
 Compare your own progress with other students

生徒の e ポートフォリオ・サイト

出典：上記 4 点はすべて同校のホームページ。

5-5 教員の能力強化

NSW 州の公立校では、多文化教育のための積極的な校内研修の仕組みを知ることができた。一方で、これ以外の学校の教員がどのような外部リソースを用いて指導計画を立てているかの情報が十分に得られなかった。以下では、教員スタンダードによる教員教育制度を概観したのち、行政が提供しているオンライン研修及び訪問した学校の教員の能力強化事例を報告する。

5-5-1 研修プログラムとその内容

オーストラリアでは、州別に行なっていた教育政策を統一する動きが 2000 年代後半から始まった。連邦政府は、2008 年に初の全国学力調査となるリテラシー・ニューメラシー全国学力調査 (National Assessment Program-Literacy and Numeracy: NAPLAN) を実施し、2009 年にはオーストラリアン・カリキュラム評価報告機関 (ACARA) を設置して連邦カリキュラムを開発し、2010 年にはオーストラリア教職・スクールリーダーシップ機関 (Australian Institute of Teaching and School Leadership: AITSL) を設立して教員・校長スタンダードの開発に着手している。

(1) 教員スタンダード

AITSL は 2011 年に 7 項目からなる教員スタンダードを発表した。この教職の専門性の 7 項目は、初任教員からリーダー的な教員まで、キャリア別に階層化されている (図 5-10)。各階層の審査基準は厳密であり、教員個人に対して審査委員会が設けられる。審査される教員は特定の課程を特定の成績で修了する必要がある。また授業実施記録を含む質的ポートフォリオの提出も求められる。さらに推薦人 (学校長等) の評価を経て、最終的に委員会が資格を付与する。

分野	専門知識		専門力量			専門的関与	
	1	2	3	4	5	6	7
スタンダード	生徒と生徒の学びを知っている	内容とその教授法を知っている	効果的な教授学習過程を計画・実施する	支援的で安全な学び環境を作り維持する	生徒の学びを見取り、介入し、記録する	専門的な学びに関与する	同僚・保護者・地域に専門家として関与する
新卒教員	教員養成プログラム修了 (暫定登録の要件)						
熟達した教員	学校での初任研修修了 (正規登録、登録更新の要件)						
高度熟練教員	高度な専門性 (希望者への認定)						
リーダー	リーダー教員としての高度な専門性 (希望者への認定)						
開発中の教員資格	ミドルリーダー	学校経営の専門性					
開発中の学習内容	脳科学と学び	効果的な教育実践	教室管理	応答的授業			

出典：AITSL への面談、本柳(2015)より調査団作成。

図 5-10 オーストラリア教員スタンダード

新卒教員は主として大学で養成される。教員養成を行う大学・機関は 2015 年時点で全国に 48 カ所ある (本柳、2015)。各大学は、従来は州政府の政策に沿った養成課程を開発・実施していたが、AITSL が教員養成課程スタンダードを開発して以降は、スタンダードに合わせた養成課程を運営して

いる¹⁹。AITSL が設定している教員養成課程スタンダードは、37 のコースを含むこととしている。

大学の養成課程を修了した「暫定登録教員(Provisional Teacher)」は、その後学校で初任研修を受けながら、1~2 年間教職に就く。この間に、主として学校レベルの審査委員会によって「熟達した教員(Proficient Teacher)」に認定されるという。熟達した教員の登録は 5 年毎に審査・更新される。現在教員不足が深刻となっており、州によっては、新卒教員レベルの「暫定登録教員」に新たに「条件付き教員 (Conditional Teacher)」を追加し、教員の足りない学校に配属するケースも見られるという。

「高度熟練教員(Highly Accomplished Teacher)」は 2011 年から始まった資格であるが、任意審査制 (希望者の審査) であること、審査基準が厳しいことなどから、2023 年時点で全国に 1,300 人程度しか認定されていない。全国の教員数が 50 万人であること (AITSL による説明) を考えるとまだ人数は少ない。各州の教育大臣は 2025 年までに高度熟練教員の全国の総数を 1 万人に増やす目標を立てている。

新しい取り組み

AITSL によれば、今後は中間リーダー教員 (Middle Leader Teacher) の認定を始める計画がある。現在、クイーンズランド州と共同開発しているという。高度熟練教員とリーダー (Lead Teacher) が教職専門家のキャリアであるのに対し、中間リーダー教員は、校長になるための準管理職キャリアとして位置付けられる。

また教員スタンダードの項目には新しいコア・コンテンツを盛り込む予定であるという。図 5-11 のように、コア・コンテンツは四つの領域からなり、「脳科学と学び」「効果的な教育実践」

「教室管理」「応答的授業」とな

っている。教育大臣会議においてコア・コンテンツがスタンダードの内容とは紐付けることは決定したが、コア・コンテンツとカリキュラムが紐付けられていない段階である。今後は専門家委員会で開発される。

(2) AITSL と国際教育

連邦政府レベルでは、AITSL が教員資格認定と実践家向けのオンライン研修教材を提供している。国際教育に関する内容として、二つの教材を教員に提示している。「文化的に応答的な授業」を促進するツールキット及び授業実践ビデオである。

			Teacher Standards
1	The brain and learning	 <p>Novice vs expert learners How the brain learns and retains information How the brain masters knowledge A note on neuromyths</p>	1.1, 1.2
2	Effective pedagogical practices	 <p>Most effective pedagogical practice Effective practices in subject areas Multi-tiered systems of support (MTSS)</p>	1.5, 1.6 2.1, 2.2, 2.3, 2.5 3.1, 3.2, 3.3, 3.4, 3.5, 3.6 4.1, 4.2 5.1, 5.2, 5.3, 5.4
3	Classroom management	 <p>Rules and routines Proactive practices Managing behaviour</p>	1.2, 3.1, 3.5 1.1, 1.3, 1.4, 1.5, 1.6 / 4.1, 4.2, 4.3, 4.4 2.4 / 3.7
4	Enabling factors for learning	 <p>First Nations peoples, their cultures and perspectives Cultural responsiveness Family engagement Diverse learning needs</p>	4.1, 4.4 7.1, 7.3, 7.4

出典：AITSL への面談、本柳(2015)より調査団作成。

図 5-10 オーストラリア教員スタンダード

¹⁹ 教育に関しての州の権限が強いオーストラリアでは、単純に国のスタンダードが州の教員養成課程に適用されるわけではない。AITSL との面談では、大学の教職開発の編成権も認められるとのことであった。

文化的に応答的な授業

七つの教員スタンダード項目では、「1 生徒と生徒の学びを知っている」、「2 内容とその教授法を知っている」の二つにおいて、教員が「アボリジニとトレス海峡島嶼民の歴史と文化」の知見をもつことが定められている。また、教室での多様な生徒の包摂に関する知識と力量はスタンダード全体に描かれている。

このように先住民の教育は連邦カリキュラム開発時代からあったのだが、政府は2022年にさらにこれを推進した。連邦政府の意向を受け、AITSLは先住民を包摂する教員力量を目指して、「能力の枠組み—文化的に応答的なオーストラリア教員集団の構築」という文書を発表した²⁰。文書では、「文化的に応答的な」資質と教員スタンダードとの関係が明記されている。これは、今後コア・コンテンツとして教員スタンダードに追加される上記の「応答的授業」にも関わっていると推測される。

この政策文書の発表とともに、AITSLのホームページでは、教員が活用できる異文化教育のための自己省察ツールが掲載されている²¹。教員や生徒が、異文化に対して取りうる七つの態度（否定的、知ろうとしない、必要性を知っている、対応できる、応答的、持続的）を示し、態度の変容を促進するように設計されている。上表は、そのツールにある質問文の一部を示す²²。

- 「私が何者であるか」という認識が文化的なものであることをあなたはどのくらい認識していますか。
- あなたは、文化的アイデンティティに基づく偏見を見つけることに自信を持っていますか。
- あなたは、先住民の人々の強みや達成について語ることに貢献したい、または貢献できると思いますか。
- 先住民ではない生徒にとって先住民の文化と歴史はどれだけ重要だと思いますか。
- あなたの学校の土地がどの先住民の土地であったかを知っていますか。

出典：AITSL ホームページ。

異文化力量開発自己省察ツール Intercultural Development Self-Reflection Tool に掲載される設問文の例

授業実践ビデオ

AITSLは教員スタンダードの各項目の映像化を狙い、300のビデオ教材をホームページに掲載している。教員個人を追いかけて、その教員が1時間の授業を行い、実践を振り返るシーンをまとめている。下図はMs. Oliviaが行うカトリック学校低学年の探究学習のビデオ事例である。「国語」と「社会」を合わせた総合的な学習の時間において、生徒が予測を立て検証する様子が収録されている。1時間分（40分）のすべての授業過程が収められたビデオと、Ms. Oliviaのインタビュー及びリフレクションのビデオが閲覧できる。

Classroom video

Go inside the classroom to watch complete video footage of the lesson.



Teacher interview

Hear directly from the teacher to understand their teaching approach and methods.



Classroom video with commentary

Go inside the classroom to watch video footage with audio commentary from the teacher.



出典：AITSL ホームページ。

AITSLの授業実践ビデオシリーズ

²⁰ Australian Institute for Teaching and School Leadership Inc. (2022). *Capability framework: Building culturally responsive Australian teaching workforce*.

²¹ <https://www.aitsl.edu.au/teach/cultural-responsiveness/building-a-culturally-responsive-australian-teaching-workforce>

²² 設問文に続いて、5段階スケールのチェックがある。全部で30問ほどある。ツールの設問文が長いので、ここでは短く意識した。

ビデオシリーズは、全国の公立学校、カトリック学校、独立学校と三つの学校で収録され、生徒の出身階層が多様な地域、貧困地域等のオーストラリア中の様々な授業が含まれている。授業を見ることで、多文化状況と教員の対応について学びを深めることができるという。

(3) 訪問校での国際教育に関する教員研修

ルーティ・ヒル・ハイスクールの教員研修の特徴は、先住民教育の教員間共有と、生徒と教員がともに能力（Capability）を獲得する研修デザインに表れている。

まず、同校では学校改善課題毎に教員数名のチームを作り、チームが学校改善を主導するようにしている。チームの種類には、「ラーニング・プログレッション」「エビデンスに基づく学校文化・実践」「授業実践」「生徒の学びの旅」などがあるが、その一つに「次

る地域実践（Community Next Practice）」チームがあり、オーストラリア先住民生徒及びすべての生徒の包摂を目指す活動の実施と振り返りを行っている。これらチームの活動記録は学校の年次報告書に反映される。

2018年、「次なる地域実践」の前身となるチームが、先住民に関する教育を強化することに決め、地域の先住民教育関係者とセミナーを開催し、続いて学校の「和解行動計画」（2022年）を策定した。また毎年の和解週間で、オーストラリア先住民を巡って生徒や地域全員が交わる行事を行ってきた。同校では、チームの個別議論を全校教員で議論し合う機会を作っており、「次なる地域実践」の計画と活動を共有している。なお、和解行動計画の策定や活動実施には外部団体の Aboriginal Education Consultative Group（民間企業）の支援を受けている。

また、初任者研修や初任者への関わりが学校全体で行われ、前述の初任者の授業計画の支援ツールや、チームへの参加を通じた現職研修が活発に行われている。同校のホームページでは教員の学び合いの仕組みが動画・文書で提示されている。



出典：Rooty Hill High School ホームページ。

教員によるオーストラリア先住民の学びと先住民との交流・学びと、生徒の先住民の学びが同時に組織される



出典：Rooty Hill High School ホームページ。

教員によるオーストラリア先住民の学びと先住民との交流・学びと、生徒の先住民の学びが同時に組織される

生徒と教員の同心円のコンピテンス・スキル開発

次に、多文化社会を生きる能力(同校では Cultural Competency と呼んでいる)について、同校は生徒と教員の双方の能力の育成を目指している。下の図は同校の教員研修方針の文書であり、教員が学び、その学びの成果が生徒の学びにあらわれることが想定されている。チームメンバーを中心とした教員たちが、地域内のオーストラリア先住民や団体と定期的に会合を重ね、自らが異文化交流を行っている。また、教職員全員がオーストラリア先住民文化教育のコースを受ける。その基礎の上で、生徒へのオーストラリア先住民教育の各活動が行われる。毎年オーストラリア先住民について学び、触れることを目的に行われる和解週間では、地域の先住民の人々と生徒が朝食を摂り、生徒と教員が同席する。

このような生徒と教員の能力の同時追究のアプローチは、多文化教育に限らず、創造的な学びや批判的思考の能力においても同じように捉えられているようである。同校ホームページには校長が教員チームへ問いを投げかける面談動画が多く収録されており、校内の教員の関わり合いの一端を知ることができる²³。

Rooty Hill High School
A Community School Committed to Learning, Leadership and Achievement

Our journey with creativity has been concurrent with staff and students:

- Action Learning with the creativity wheel reflection
- Visible Thinking – ‘We are Thinkers’ focus to develop confidence and as a school platform
- Promoting teacher self-reflection through classroom observation to focus on:
 - What are the students doing?
(in response to the teacher/rather than the teacher)

出典：Rooty Hill High School ホームページ。

Driving dispositions: Creating a community of creativity and critical thinking (同校の創造性育成指針)

²³ <https://sites.google.com/rootyhillhighschool.nsw.edu.au/rhhs-professional-practice/our-projects-2021-2024/video-preview?authuser=0>

5-6 国際教育にかかる教育政策から学校現場の実践までの過程の考察

(1) オーストラリアの教育制度

「5-1 オーストラリアの教育概要」で詳説したように、オーストラリアの教育に関する権限は、憲法規定に基づき、各州政府が有している。その前提の上で提唱された国家教育指針に基づき開発されたオーストラリアン・カリキュラム（AC）は、各州のカリキュラム開発の基礎となりつつ、一部の州にとってはそのまま採用できる、ある種の「セーフティーネット」として機能している。今回訪問した NSW 州と VIC 州の両教育省で言及された「Adopt and Adapt」という言葉はそれをよく表している。すなわち、連邦政府（国）レベルの AC を州政府（地方）レベルでそのまま採用（Adopt）してもよいし、州単位の教育課題や状況に応じて修正（Adapt）してもよいという「導入原則」である。こうした裁量の余地を残した仕組みは、州毎の多様な取り組みを生む。

例えば、以下の表 5-17 は「5-1 オーストラリアの教育概要」の汎用的能力及び領域横断の優先事項の 2 州での導入をまとめたものである。もちろん、カリキュラムやシラバスの詳細な分析及び学校現場での実践などまで検討しなければ、その多様性の詳細は掴めないが、下記の表を見るだけでも外形的には Adapt の多様性が見て取れる。さらに AC から州のレベルだけでなく、学校現場への展開に際しても、処方箋的（Prescriptive）なアプローチから、Whole-School Approach など、より学校に裁量の余地を残すアプローチまで様々な展開が考えられる。こうしたバリエーションは、AC の側から見るとその実装についての社会実験と見ることもできる。

表 5-17 オーストラリアン・カリキュラム（AC）と 2 州のカリキュラム比較

AC	NSW 州教育課程	VIC 州教育課程
汎用的能力	能力 (Capabilities)	能力
リテラシー	リテラシー	主たる学習領域にて
ニューメラシー	ニューメラシー	
デジタル・リテラシー	デジタル・リテラシー	カリキュラム全体に組み込み
批判的・創造的思考	批判的・創造的思考	批判的・創造的思考
倫理的理解	倫理的理解	倫理的能力
異文化理解	異文化理解	異文化理解
個人的・社会的能力	個人的・社会的能力	個人的・社会的能力
領域横断の優先事項	優先事項 (Priorities)	領域横断の優先事項
アボリジニとトレス海峡島嶼民の歴史と文化	アボリジニとトレス海峡島嶼民の歴史と文化	学習領域に埋め込み
アジアとオーストラリアの結びつき	アジアとオーストラリアの結びつき	
持続発展性	持続発展性	
	公民とシティズンシップ	
	多様性と違い	
	仕事と起業	

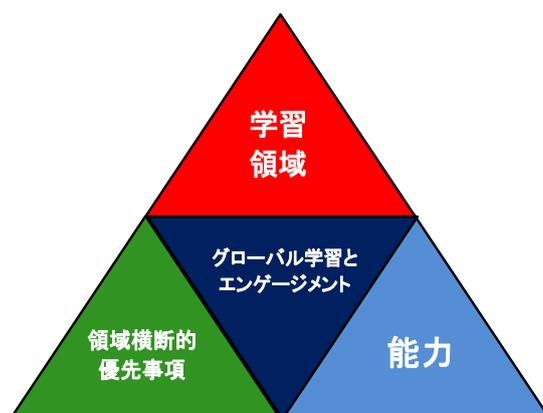
出典：本節担当の調査メンバーにより作成。

その際、AC の大きな特徴の一つが、「コンテンツ」に相当する学習領域（Learning Areas）と広義の「スキル」に相当する汎用的能力（General Capabilities）を領域横断的優先事項（Cross-Curriculum Priorities）も絡めて結びつけるというチャレンジングな課題に挑んでいる点である。2013 年以降に順次導入された現行版（AC 8.4）から約 10 年経って承認された AC Version 9.0 への改

訂を追うと、先述の「社会実験」を10年間行った実践結果をもとに、コンテンツの総量を減らした上で上記の結び付け方を、より明示的にフレームワークレベルでもリソースレベルでも示していく方向に改訂されたことが大きなポイントであった（もう一つのポイントとして、子どもの学習の進展（Learning Progressions）を基に、その基盤（Foundations）を強化することがあったが、ここでは紙幅の都合で詳述はしない）。一見「コンピテンシー（資質・能力）からコンテンツ（知識）へ」という揺り戻しに見える動向も、それが何のためなのかという目的を慎重に読み解く必要があるだろう。それが具体的にどういうことかを国際教育を例に次項で検討する。

(2) オーストラリアの国際教育

国際教育（同国ではグローバル教育＜Global Education＞と呼ばれている）は、ACの構造で言えば、学習領域のどこに位置するか（どの教科で取り扱われているか）、現代的諸課題への対応を含む優先事項の中に位置付けられているかという観点のみから検討しがちになる。しかし、先述のようにそれらの間の「結び付け」が鍵だと考えれば、例えば、「人文・社会科学（HASS）」という学習領域の中に汎用的能力の一つである「異文化理解」の能力の発揮・育成機会をどのように結び付け得るかなども検討していく必要がある。実際に本章（特に「5-3 オーストラリアの国際教育に関する学習内容」）や9章（特に「9-4 成功要因・課題及び教訓」）で詳説したように、AC Version 9.0ではこうした結び付けが電子カリキュラム上でアイコンやリンクで明示され、様々なリソースが提供されるなど、フレームワーク、リソース両面での明示化が進んでいる。また、「9-4」節で紹介するVIC州教育省の図5-12はその好例と言える。すなわち、中心のトピックに常に三つの要素が関わることを図示したものであり、グローバル学習でないものでもこの中心の三角にもってくることによって三つの要素との関わりを明示できるためである。



出典：VIC州教育省からの入手資料を調査団翻訳。

図5-12 VIC州教育省から示されたモデル図

加えて、教員・校長のスタンダードや職能開発枠組み（「5-5 教員の能力強化」）とも連動して、校内研修も充実しており（「5-4 学校現場での国際教育の実施体制・指導方法」）、また教員間の研修や日常的なミーティングのための時間的余裕を確保することでカリキュラム・マネジメントを行う機会も豊富にある（「5-4」節）。学校によっては、国際教育だけでなく、どの教科についても、州の教育目標（ビッグアイデアなど）は転記した上で残りの部分（本時に何をするかなど）を追記して簡単に授業計画を作ることができるテンプレートを準備して、自由で良質な授業作りを促進しようとしているところもある（「5-4-2 教員の授業計画（準備方法、学習指導案）」）。現地調査（NSW州教育省、ルーティ・ヒル・ハイスクール、VIC州カリキュラム評価機関）では、若手の教員を中心に、授業をゼロから創るところにエフォートを掛けるのではなく、これまでの授業の追試やアレンジで構わない

ので、まずは児童生徒の学びを見てみるところに注力することを推奨するという発言もよく聞かれた。いわば、授業作りも科学と同様に「巨人の肩に乗る」作り方ができるという示唆だろう。

これを先ほどの10年間の実践結果を踏まえた課題（ACの要素間の結びつけ）に対する対処と合わせて考えると、10年間で見えた課題に、同じく10年間で蓄積された教材などのリソースも使って解決していこうとする動向と考えることもできよう。つまり、学校現場がどこに注力して新規にデザインすべきか、どこを既存のリソースなどの借用・アレンジで済ませるかという整理が明確になってきつつある可能性がある。その注力すべきところを一言で言えば、今回の限られた現地調査の範囲では、教員同士や学校全体で、一つひとつの授業を超えた、教育の目的や目標（ゴール）を「自分たちで考える」というところにリソースを割こうとしているように感じられた。

最後に多様性である。「5-1」節で詳説したように、多様な学習者の包摂や公正の視点からのカリキュラム改訂を制度レベルでも実践レベルでも見ることができた。現地調査で訪れた各種機関や学校現場でも、既に各学校の教職員や児童生徒、保護者、地域住民にオーストラリア先住民や移民など多様な存在が含まれており、その「内なる多様性」への対処がそのまま国際教育の実践に直結するとの認識も共有されていた。「5-3-3 学校現場での国際教育実践を促進するための支援」には、一見グローバル教育プロジェクトの衰退と見える兆候も、実は多くの学校の日常的な実践への移行の表れと見直す示唆がなされている。

このような多様性への尊重は、授業だけでなく、学校の一のエートスとして定着する可能性がある。ルーティ・ヒル・ハイスクールで、ある生徒が「学校が好き、inclusive さが好き、いろんな先生がいるのが好き」と発言したが、それは先述の「自分たちで考える」先生とこのエートスが融合した成果なのかもしれない。

5-7 フェーズ I 時点からの変容

これまで見てきたオーストラリアの教育制度・教育課程、国際教育に関する基本政策・方針、国際教育に関する学習内容、学校現場での実施体制・指導方法について、フェーズ I 時点（調査期間：2011年12月～2014年3月）から変化した点を以下に示す。なお、以下の表には第9章で述べる開発援助機関等の国際教育関与についてのフェーズ I 時点からの変化も含まれている。

項目	フェーズ I 時点の状況	今回の調査時の状況
教育制度 教育課程	<p>【連邦政府】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2008年からナショナル・カリキュラム（Australian Curriculum: AC）の開発が開始され、順次実施に移される計画。 「英語」「数学」「科学」「歴史」は Version 4.0、「地理」は Version 5.0。 ACは「学習領域」「汎用的能力」「領域横断的な優先学習」の3層から構成。 「学習領域」（F-Y10）は、①英語、②算数・数学、③科学、④歴史、⑤地理、⑥経済・ビジネス、⑦公民とシティズンシップ、⑧芸術、⑨デジタル技術、⑩デザインと技術、⑪保健体育、⑫ワークスタディ、の12領域から構成。 「汎用的能力」は、①リテラシー、②ニューメラシー、③ICT 技能、④批判的・創造的思考、⑤個人的・社会的能力、⑥異文化理解、⑦倫理的理解、の7能力から構成。 「領域横断的な優先学習」は、①アボリジニとトレス海峡島嶼民の歴史と文化、②アジアとオーストラリアの結びつき、③持続発展性、の3内容から構成。 <p>【NSW 州】</p> <ul style="list-style-type: none"> 州独自のカリキュラムが編成され、施行。一定のコンテキストの中で知識・スキル等を養成していくという基本的な考え方。 ACの導入に際して、NSW 州が作成したシラバスが準備されていたが、実施環境が整う2014年までは施行延期。 	<p>【連邦政府】</p> <ul style="list-style-type: none"> AC（F-Y10）は Version 9.0 が施行、AC（Y11-12）は Version 8.4 が施行。 「学習領域」（F-Y10）は、①英語、②算数・数学、③科学、④歴史、⑤地理、⑥経済・ビジネス、⑦人文・社会科学、⑧公民とシティズンシップ、⑨芸術、⑩テクノロジー、⑪保健体育、⑫言語、の12領域から構成。 「汎用的能力」は、①リテラシー、②ニューメラシー、③デジタル・リテラシー、④批判的・創造的思考、⑤個人的・社会的能力、⑥異文化理解、⑦倫理的理解、の7能力から構成。 「領域横断的な優先事項」は、①アボリジニとトレス海峡島嶼民の歴史と文化、②アジアとオーストラリアの結びつき、③持続発展性、の3内容から構成。 Version 9.0 では、「学習領域」の中に「汎用的能力」及び「領域横断的な優先事項」を埋め込んで、教員にとって使いやすいものに改良された。 <p>【NSW 州】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2022年からACを基準とした新カリキュラムの開発開始。現時点では「英語」と「算数・数学」のみ完成。それ以外は、順次改訂予定。 ACの「汎用的能力」は、NSW 州では単に「能力 (Capabilities)」と呼んでいる。 教育実践（アセスメントを含む）を柔軟に行うために、学年毎ではなく、2年毎の「ステージ (Stage)」を設定して、その中で児童生徒の学習アセスメントを行っている（ステージ1：F～Y2）、ステージ2：Y3～Y4…）。 「知識」を重視しており、「能力」及び「領域横断的な優先事項」は知識の記述の中に埋め込んだ。

	<p>【VIC州】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2005年以降、ビクトリア州必須学習スタンダード（Victorian Essential Learning Standards: VELS）が施行されてきた。 ACの導入に伴い、オーストラリア・ビクトリア州必須学習スタンダード（AusVELS）が準備。 	<p>【VIC州】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2022年からACを基準とした新カリキュラムの開発開始。現在「算数・数学」のみ完成、以後順次改訂予定。 2015年からAusVELSではなく、ビクトリア・カリキュラムとして開発が始まり、2015年版はVersion 1、現在開発中のカリキュラムはVersion 2と呼ばれている。 汎用的能力とは呼ばず「能力（Capabilities）」と呼び、この中身は、①批判的・創造的思考、②個人的・社会的能力、③異文化理解、④倫理的理解、の4能力のみ。 領域横断的優先事項は、ACと同様に3つであるが、それ以外にも領域横断的な課題として「山火事についての教育（Bushfire Education）」「進路教育（Career Education）」「家政学（Home Economics）」「リテラシー（Literacy）」「ニューメラシー（Numeracy）」「尊重し合う関係（Respectful Relationships）」「科学・技術・工学・数学（Science, Technologies, Engineering and Mathematics）」「世界的視野と宗教（World Views and Religions）」の八つが追加。 「知識」を重視しており、「能力」及び「領域横断的優先事項」は知識の記述の中に埋め込んだ。
<p>国際教育に関する基本政策・方針</p>	<p>【連邦政府】</p> <ul style="list-style-type: none"> AusAID（外務貿易省＜Department for Foreign Affairs and Trade: DFAT＞の監督下）が「グローバル教育プロジェクト（Global Education Project: GEP）」を推進。 GEPは教師教育に焦点をあて、エデュケーション・サービス・オーストラリア（Education Service Australia: ESA）と協力して教材開発・出版、ウェブサイト運営、授業デザイン支援などを実施。 教科「公民とシティズンシップ」の実践はまだACの導入過程であったことから、見られず。ただし、シティズンシップ教育ウェブサイトや『民主主義の発見キット』『オーストラリアの民主主義』などの教材を開発。 上記以外に、「若者のアジア理解（Engaging Young Australian with Asia）」「環境教育（Education for a Sustainable Future）」「価値教育（Value Education）」が連邦教育省において推進。 	<p>【連邦政府】</p> <ul style="list-style-type: none"> ACの汎用的能力として「異文化理解」が入っていることから、多くの学習領域で国際教育の内容が導入。特に「科学」（F～Y10）、「人文・社会科学（HASS）」（F～Y6）、「公民とシティズンシップ」「経済・ビジネス」「地理」「歴史」（ともにY7-10）、「地理」「古代史」「近現代史」「地球と環境科学」（ともにY11-12）。

	<p>【NSW 州】</p> <ul style="list-style-type: none"> GEP 実施は、NSW Professional Teacher Council (PTC) が担当。 <p>【VIC 州】</p> <ul style="list-style-type: none"> GEP 実施は Geography Teacher Association of Victoria Inc (GTAV) が担当。 	<p>【NSW 州】</p> <ul style="list-style-type: none"> 異文化理解に関する学習内容は重視。 現代的諸課題を扱っている学習領域は、「科学」「地理」「歴史」（ともに K-10 年生）、「先住民民族学」（7-10 年生）、「個人の発達と保健体育及びライフスキル」（K-10 年生）、「科学とテクノロジー」（K-6 年生）、「地球と環境科学」「地理」「先住民民族学」「古代史」「近現代史」「社会と文化」「宗教学 I・II」「コミュニティと家族学」（ともに 11-12 年生）。 教員が国際教育を実践しやすいように NSW 州教育省は様々な教材・リソースを開発し、オンライン上で無料で提供している。 <p>【VIC 州】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「異文化理解」に関する学習内容は重視。 「世界多文化・市民性教育（Global Multicultural Citizenship Education）」に関する学習を重視。 現代的諸課題を扱っている学習領域は、「科学」「公民とシティズンシップ」「経済・ビジネス」「地理」「歴史」「保健体育」「言語」（ともに K-10 年生）、「環境科学」「心理学」「オーストラリアと世界政治」「宗教と社会」「社会学」「健康と人間の成長」「言語」「農業・園芸学」「食品学」（ともに 11-12 年生）。 教員が国際教育を実践しやすいように NSW 州教育省は様々な教材・リソースを開発し、オンライン上において無料で提供している。
<p>国際教育に関する学習内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> オーストラリアでは同国のような多文化社会でよりよく生きていくためには、国際教育は非常に重要と考えられている。そのため、これまで国家規模で国際教育を普及・推進していくために多くのプロジェクトが実施された。 ✓ 「オーストラリア・サステイナブル・スクール・イニシアティブ (AuSSI)」: AC の領域横断的優先事項の一つとして定められた「持続発展性」を学校現場で指導していくというものの ✓ 「グローバル教育プロジェクト (GEP)」: グローバル教育を全国の学校で実践できるように支援した活動 	<p>【AC】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「人文・社会科学」（F~6 年生）「科学」（F-10 年生）「公民とシティズンシップ」「経済・ビジネス」「地理」「歴史」（ともに 7-10 年生）、「地球と

		<p>環境科学」「古代史」「近現代史」「地理」（ともに11-12年生）において国際教育の内容が扱われる。</p> <p>【NSW州】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「科学とテクノロジー」（K-6年生）、「地理」「歴史」「個人の発達と保健体育及びライフスキル」（K-10年生）、「科学」（7-10年生）「先住民民族学」「古代史」「近現代史」「地理」「社会と文化」「宗教学 I・II」「コミュニティと家族学」（ともに11-12年生）で国際教育の内容が扱われる。 <p>【VIC州】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「公民とシティズンシップ」「経済・ビジネス」「地理」「歴史」「科学」「保健体育」「デザインとテクノロジー」（ともにF-10年生）、「地理」「歴史」「環境科学」「心理学」「オーストラリアと世界の政治」「宗教と社会」「社会学」「健康と人間の成長」「農業・園芸学」「食品学」（11-12年生）、「言語」（F-12年生）で国際教育の内容が扱われる。
<p>学校現場での実施体制・指導方法</p>	<p>【ライド小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> シドニー北部のライド地区に立地。児童の民族性は多様で、中国系、東南アジア系、インド系出身が多く、英語を母語としない児童も結構在籍しており、ESLクラスも開設。 優秀な児童を対象としたクラス（Opportunity Class: OC）での総合学習（Connected Outcomes Groups: COGS）を視察。COGSはNSW州では「人間社会と環境」「科学とテクノロジー」「創造的芸術」「保健体育」の4教科を統合したもの。 授業の中で、児童はグループに分かれ、日本、カナダ、アメリカ、イギリス、ニュージーランドの5カ国について、その政治形態について調べ学習を行っていた。 <p>【メルボルン女子高等学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> メルボルン市外の閑静な住宅街にある学校で、学業、スポーツ、芸術面で優れた成績を残している公立の女子校である。 学校独自の教科として「Social World」（Y7）、「Studies of Society and Environment (SOSE)」（Y8）、「World of Ideas」（Y9）が設置されており、グローバル教育が重視されている。 	<p>【ルーティ・ヒル・ハイ・スクール】</p> <ul style="list-style-type: none"> シドニー西部にある7年生から12年生までの総合中等教育学校（公立中等学校）。 先住民出身や少数民族出身の生徒の割合が多く、異文化理解が積極的に行われている。 多くの生徒が、創造芸術や舞台芸術、リーダーシッププログラム、テクノロジー、スポーツなどの課外プログラムに参加している。 生徒には、学校の福利厚生との取り組み、強みに基づくアプローチ及び選択理論に支えられた広範かつ拡張的なカリキュラム、課外授業および課外プログラムを通じて、自己ベストを尽くす機会が与えられている。 同校は提携小学校との強い繋がりがあがる。同校には、教職員と生徒間の質の高い関係によって強化される強力な学術的及び社会文化的基盤もある。強力でポジティブな文化は、「Tell Them From Me」調査や、生徒が他校の生徒よりも積極的な関与や社会的行動を示す機会の多さに反映されている。 同校におけるすべての取り組みは、個人責任の強力な文化に基づいて構築されており、学校のモットー（PERSIST）の文字に基づいた学校の7つの核となる価値観が、学校の方針、プログラム、実践の指針となっている。生徒にとって「PERSIST」とは、参加、卓越性、敬意と責任、成功、革新、安全、チームワーク、リーダーシップを意味している。

		<p>【マック・ロバートソン・ガールズ・ハイスクール】</p> <ul style="list-style-type: none"> • メルボルンの緑豊かなブーンウルン郡 (Boon Wurrung County) にある 9 年生～12 年生までの公立中等学校であり、かつ選抜入学校である。そのため、入学試験があるオーストラリアでも珍しい優秀校である。 • 同校に入学したい生徒は、全国から集まってくる。また教員も 1 年契約で優秀な教員だけが生き残るといった過酷な競争状態となっている。 • 入学試験では、「一見解決できないようなものを、どうやれば解決できるか」という発想力が問われる問題が出され、生徒には単に「知識」ではなく、それらをフル活用して、どうすれば解けるか、解決できるかということを考える忍耐力と思考力が試される。 • 同校の生徒は、数学と科学、美術と演劇、体育、人文科学の教科目において意欲と自発性があり、優秀な成績を獲得している。
<p>開発援助機関等の国際教育への関与</p>	<ul style="list-style-type: none"> • オーストラリア国際開発庁 (Australian Agency for International Development: AusAID) はグローバル教育プロジェクト (GEP) を通じてグローバル教育を積極的に展開していた。 ✓ 『グローバル・パースペクティブ：オーストラリアの学校のためのグローバル教育に関するステートメント (Global Perspectives: A Statement on Global Education for Australian Schools)』(2002 年) ✓ 『グローバル・パースペクティブ：オーストラリアの学校におけるグローバル教育の枠組み (Global Perspectives: A Framework for Global Education in Australian Schools)』 ✓ 単元事例集『グローバル・パースペクティブ・シリーズ』(1999-2000) → 『Think Global』(小学校低学年用)、『Look Global』(小学校高学年用)、『Go Global』(中高校生用) の 3 冊から構成。 ✓ 事例集『Thinking Globally』(2008 年)、『Developing Global Citizens』(2010 年) を開発。 ✓ グローバル教育ウェブサイト開設 (1997 年) と改訂 (2012 年) 	<ul style="list-style-type: none"> • AusAID は 2013 年に外務貿易省 (Department of Foreign Affairs and Trade : DFAT) に吸収された。なお、DFAT 内には旧 AusAID の業務を引き継いだ部署があり、それは「開発・多国間・欧州局 (Development, Multilateral and European Group: IMG)」と呼ばれている。 • ただし、IMG では現在、国際教育に関する業務は行っていない。 • GEP は 1994 年から開始され、2014 年に終了。 • IMG では「オーストラリア NGO 協力プログラム (Australian NGO Cooperation Program: ANCP)」が実施され、開発 NGO に資金提供を行っているが、その中で国際教育を行っている NGO への資金提供は行っていない。 <p>【参考情報】</p> <p>ANCP に参加して、DFAT から資金提供を受けている NGO として、以下のものがあり、そこでは多少「国際教育」のような活動が行われているようであるが、ANCP の担当者によれば、「国際教育を行っている NGO はなく、ANCP も国際教育活動に資金提供はしていない」とい回答であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ Act for Peace : 「若者に共感を」というプログラムを実施。世界の難民たちが直面している食料問題を自ら体験して共感を育成する学習。 ✓ Australian Lutheran World Service

		<p>(ALWS)：職員が学校を訪問して世界の現状についての授業を行う。テーマは「貧困」「難民」「社会正義」など。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ International Needs Australia (INA)：児童生徒が世界の現状を理解し、公正で社会正義が貫かれた世界を構築できる能力を養成するためのワークショップを開催。 ✓ Mary Mackillop Today：児童生徒が将来の複雑な社会でよりよく生きていくためにグローバル・シティズンとなれるように、社会正義や持続可能な開発をテーマとした学習支援を実施。
--	--	---

付属資料 1 : AC に基づいた学習領域「科学」(F~10 年生) の学習内容

<p>目標</p>
<ul style="list-style-type: none"> • 自分たちが住む変化する世界について探求し、質問し、推測する好奇心と意欲を広げる方法としての理科・科学への関心を高める。 • 生物、地球と宇宙、物理と化学に関する知識の強固な基盤を形作る。 • 科学的探求を理解し、質問を含む様々な科学的探求の実践を行う能力を身に付ける。また倫理的及び異文化を意識した原則に基づいて実験と調査を計画及び実施する能力を養う。さらにデータの生成と分析、結果の評価、証拠に基づいた重要な結論を導き出す力を身に付ける。 • 科学的理解と発券を様々な聴衆に伝え、証拠を用いて主張を正当化し、科学的説明と議論を評価し、議論する能力を身に付ける。 • 倫理的、環境的、社会的、経済的影響を考慮しながら、問題を解決し、科学の現在及び将来の利用について情報の基づいた意思決定を行う能力を養う。 • 歴史的及び世界的な貢献を含む科学知識の動的な性質の理解、及び化学キャリアの多様性を含む化学と社会の関係について理解する。
<p>成果</p>
<ul style="list-style-type: none"> • 小学校準備課程：外部の特徴に基づいて植物と動物をグループ分けができる。物体の動きに影響を与える要因を特定することができる。児童は、人々が自然界について学ぶために観察と質問を行っている例を特定することができる。 • 1 年生：自分達が住んでいる場所で生物がどのようにニーズを満たしているかを特定できる。毎日の変化と季節の変化を特定し、それらの変化が日常生活にどのような影響を与えているかを説明できる。押ししたり引いたりすることによって物体の動きや形状がどのように変化するかを説明できる。日常生活で化学を利用する状況を説明し、人々が科学的予測を行っている例を特定できる。 • 2 年生：天体を識別し、空で観察されるパターンについて説明できる。様々な音がどのように生成されるかを示し、物体に対する音のエネルギーの影響を説明できる。材料の組成を変えずに材料を変更する方法を特定できる。人々が日常生活の中で科学をどのように利用しているか、そして科学的な予測を行うために人々がどのようにパターンを使用しているかを説明できる。 • 3 年生：生物と見生物、及び様々なライフサイクルを分類して比較できる。土壌、岩石、鉱物の観察可能な特性を説明し、それらの資源としての重要性が説明できる。熱エネルギーの源と熱伝導の例を特定し、物体の温度の変化を説明できる。観察可能な特性に基づいて固体と液体を分類し、除隊変化を引き起こす方法を説明できる。人々が説明するためにデータをどのように使用するかを解説できる。 • 4 年生：関連するコンポーネントと感の相互作用としてのシステムについて理解を深め、パターンを分析して、これらの相互作用が予測可能な方法で発生する可能性があることを特定できる。システムのコンポーネントを分類し、食物連鎖や水循環の表現など、システムの相互作用の単純なモデルを作成することができる。様々な材料とその特性を調査することで形状と機能の関係を探り、分類により予測が可能になることを学ぶ。遠くから作用する力を調査し、一部の相互作用は肉眼では見ることができない現象から生じることを学ぶ。公正なテストを使用して、システムのコンポーネント間の関係を調査する。システムの促成を測定及び比較するために標準の測定単位を使用することの価値と、結論を引き出すための公正な方法の重要性を認識する。 • 5 年生：生物の携帯と行動がどのようにして生存を可能にするのかを説明できる。地球の表面を変化させる主要なプロセスを説明できる。光源を特定し、観察された現象を説明するために光の伝達をモデル化できる。固体、液体、気体の粒子に配置をそれらの観察可能な特性に関連付けることができる。科学の進歩につながるコラボレーションの例や、時間の経過とともに変化した科学知識について説明できる。科学的知識が個人やコミュニティの行動に影響を与える例を特定できる。 • 6 年生：体調の変化が生物にどのような影響を与えるかを説明できる。太陽と太陽系の惑星の関係をモデル化し、地球と太陽の相対位置が地球上で観察される現象にどのように関係しているかが説明できる。電気エネルギーの伝達と変換における回路コンポーネントの役割を特定することができる。物質の可逆的変化と不可逆的変化を分類して比較できる。科学がしばしば共同作業である理由を説明し、科学知識に対する様々な個人の貢献について説明できる。個人やコミュニティが科学的知識をどのように利用するかを説明できる。 • 7 年生：地球上の生命の多様性を探索し、情報の順序付けと整理における分類の役割についての理解を深める。モデルを使用及び開発して、生態系を通るエネルギーと物質の流れを表現及び分析し、これらのシステム内のコンポーネントの変化による影響を調査する。地球-太陽-月系の関係を調査し、モデルを使用して事象を予測し説明する。物質の粒子の性質について理解を深め、顕微鏡スケールでの物質とエネルギーの相互作用が巨視的な特性をどのように決定するかを探索する。物体の動きの変化を説明する時に、複数の力の影響を考慮することができる。正確な測定を行い、システムコンポーネント間の関係を分析する。モデルを構築及び使用して、直接研究することが難しい規模の現象に関する仮説をテストし、これらの観察やその他の証拠を使用して結論を導き出せる。科学と社会の関係を理解し始め、データを取得する際には倫理的および文化的配慮が必要であることを認識する。 • 8 年生：細胞機能における特殊な細胞構造と細胞小器官の役割を説明し、器官及び身体システムレベルでの構造と機能の

関係を分析する。プレートテクトニクスの理論の理解を応用して、地圏の変化のパターンを説明できる。岩石の特性がその形成にどのように関係し、その使用に影響を与えるかを説明できる。様々な形式のエネルギーを比較し、単純なシステムにおけるエネルギーの伝達と変換を表すことを理解する。様々な種類の物質を分類して表し、物理的変化と化学的変化を区別することができる。様々な要因が科学知識の発展にどのように影響し、科学知識の変化につながるかを分析できる。科学的対応を知らせる重要な考慮事項と、それらの対応が社会にどのような影響を与えるかを分析する。視点、政策、規制を形成する上での科学コミュニケーションの重要性を分析する。

- 9年生：身体システムが刺激に対してどのように調整された反応を提供するかが説明できる。有性生殖と無性生殖のプロセスがどのようにして種の存続を可能にするかが説明できる。地球圏内及び地球圏間の相互作用が炭素循環にどのような影響を与えるかが説明できる。単純なシステムにおけるエネルギー保存を分析し、波動モデルと粒子モデルを適用してエネルギー伝達を記述することができる。原子構造、原子の再配列、質量の変化という観点から観察可能な化学プロセスを説明できる。科学知識の発展における出版と査読の役割を説明し、科学、技術、工学の関係について解説できる。科学と社会が相互に結びついている様々な方法を理解する。
- 10年生：遺伝と遺伝的多様性を支えるプロセスを説明し、自然選択による進化の理論を裏付ける証拠を説明できる。宇宙の起源と進化における重要な出来事を順序立て、ビッグバン理論を裏付ける証拠を説明できる。地球規模の気候変動パターンの傾向を記述し、原因要因を特定できる。ニュートンの法則がどのように動きを記述し、それをシステム内の物体の動きを予測するために適用するかを説明できる。周期表のパターンと傾向を説明し、反応生成物と、反応物と反応条件の変化による影響を予測することができる。科学知識の発展における出版と査読の重要性を分析し、科学、技術、工学の関係を分析する。科学と社会の間の相互作用に影響を与える主要な要因を分析する。

学習内容				
学年/領域	生物分野	地球・宇宙分野	物理分野	化学分野
F	動植物の外部特徴を観察し、それらの特徴に基づいてそれらをグループ化する方法を説明	なし	物体がどのように動くか、また物体のサイズ、形状、材質などの要因がその動きにどのような影響を与えるかを説明	物体がさまざまな材料で構成されている可能性があることを認識し、それらの材料の観察可能な特性の説明
1年生	空気、水、食料、住居などの動植物の基本的なニーズを特定し、それらが住んでいる場所がそれらのニーズをどのように満たしているかの説明	環境の毎日及び季節の変化を説明し、それらの変化が日常生活にどのような影響を与えるかを考察	押したり引いたりする力を強さと方向で説明し、これらの力が物体の動きや形状に及ぼす影響を予測	なし
2年生	なし	地球が太陽系の惑星であることを認識し、空の太陽、月、惑星、星の位置の変化のパターンを識別	音を出すための様々な動作と様々な音の作り方を探求し、音のエネルギーが物体を振動させることを理解	材料はその組成を変えずに物理的に変化する可能性があることを認識し、曲げ、ねじり、伸ばし、より小さな断片に分割するなど、材料に対するさまざまな動作の影響を調査する
3年生	生物と無生物の特徴を比較し、植物と動物のライフサイクルの違いを理解	土壌、岩石、鉱物の観察可能な特性を比較し、それらがなぜ重要な地球資源であるかを調査	熱エネルギーの発生源を特定し、熱エネルギーが物体から物体に伝達されるときに温度がどのように変化するかを調査	固体と液体の観察可能な特性と、熱エネルギーの追加または除去がどのように状態変化を引き起こすかを調査
4年生	生息地内での消費者、生産者、分解者の役割と相互作用、食物連鎖が摂食関係をどのように表すかの説明	水源を特定し、空、地形、海洋を通る水の動きなど、水循環の主要なプロセスの説明	ある物体が別の物体に力を及ぼす仕組みを特定し、物体の運動に対する摩擦力、重力、磁力の影響を理解	繊維、金属、ガラス、プラスチックなどの天然材料及び人工材料の特性を調査し、これらの特性がその使用にどのような影響を与えるかを検討
5年生	生物の特定の構造的特徴と行動が特定の生息地でどのように生存を可能にするかを調査	風化、浸食、輸送、堆積が地表にどのようにゆっくり、または急速な変化を引き起こすかを説明	光源を特定し、光が直線の経路を進むことを認識し、影がどのように形成され、光が反射および屈折するかを説明	粒子の動きと配置をモデル化することで、固体、液体、気体の観察可能な特性の説明

6年生	生息地の物理的条件を調査し、その変化が生物の成長と生存に与える影響を理解	太陽に対する地球や他の惑星の動きを記述し、地球の傾き、時点、太陽の周りの公転が、昼夜の長さの変化などに与える影響についてモデル化する	回路部品、絶縁体、導体の役割を含む、電気回路におけるエネルギーの伝達と変換の調査	溶解や状態変化などの可逆的变化と、新たな物質を生み出す調理や錆びなどの不可逆的变化との比較
7年生	地球上の世目の多様性を順序付け、組織化	地球、太陽、月の相対位置の周期的な変化をモデル化し、周期が引き起こす現象を理解	物体に作用する重力などの平行力と不平等力を調査して、物体の運動の変化、その質量、物体に作用する力の大きさと方向に関連付ける	粒子理論を使用して、粒子の動きや粒子間の引力など、物質内の粒子の配置を理解する
8年生	細胞を生物の基本単位として認識し、植物と動物の作業比較	発散、収束、変形プレート境界における地質学的特徴の形成を含む地殻活動、プレートテクトニクス理論	様々な種類のエネルギーを運動またはポテンシャルとして分類し、エネルギーの伝達と変化を説明	物質を元素、化合物、混合物に分類し。二次元、三次元のモデル、元素記号、分子と化合物の式などの表現比較
9年生	刺激に対する身体の反応を調節及び調整する身体システムの役割を比較、負のフィードバックメカニズムの動作	炭素循環を表し、燃焼、呼吸など主要なプロセスが地球圏（地圏、生物圏、水圏、大気）間の相互作用にどのように依存しているか	波動モデルと粒子モデルを使用して、様々な媒体を介したエネルギー伝導を記述	電子、陽子、中性子の発券後に原子のモデルがどのように変化したかの
10年生	減数分裂・有糸分裂の役割、遺伝における染色体、DNA、遺伝機能、メンデル遺伝のパターン	地球圏、生物圏、水圏、大気圏の間のエネルギーの流れのモデルを使って、地球規模の気候変動パターンの説明	ニュートンの運動法則を調査し、物体の力、質量、加速度の関係を提供的に分析	原子の構造と性質と周期表の元素の構成との関係

注：網掛け箇所は国際教育に関する内容。

付属資料2：ACに基づいた学習領域「人文・社会科学（HASS）」（F～6年生）の学習内容

<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界及び過去と現在を通して、場所、人々、文化、制度について興味関心とともに、尊重する気持ちをもって、こうした事象の学習に楽しく取り組む。 人々、場所、価値、制度、過去と現在、身近な地域と世界といった文脈における主要な歴史的、地理的、公民的、商業的、経済的な知識を発展させる。 社会を構成し、持続可能な発展に影響を及ぼし、帰属意識を生み出す歴史的発展、地理的現象、公民的価値、経済的要因について理解し、尊重する気持ちを育む。 専門分野及び/または分野横断的な調査で活用される主要な概念の理解を深める。 分野専門的な質問、信頼できる情報源を用いた調査、分析、評価、コミュニケーションなどを含む分野専門的なスキルを使用する能力を発展させる。 批判的かつ創造的に問題を解決し、情報に基づいた意思決定を行い、責任ある積極的な市民となり、情報に基づいた経済的・財政的選択を行い、倫理を反映する能力を含む、現在及び詳細の日常生活への効果的な参加に必要な資質を養う。 																								
<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校準備課程：自分の人生で重要な人物や出来事を特定し、それらに関するイベントがどのように祝われたり、記念されたりしているかを理解する。また馴染みのある場所の特徴、人々にとって特別な意味をもった場所、それらを管理する方法について理解する。 1年生：家族構成、役割及び日常生活の重要な側面の継続性と変化を理解する。身近な地域の位置、自然とその特徴及びその変化を理解し、人々がそれらをどのように管理してきたかについて知る。 2年生：地元の人々、集団、場所及び/または建物の重要性を理解する。また技術変化が人々の生活にどのような影響を与えてきたかを理解する。加えて、様々な地理的区分で場所を空間的に表し、それら人々と場所とはどのように相互接続されているかを知る。 3年生：変化の原因、影響、貢献について理解するとともに、オーストラリアの多様性に対する出来事やシンボルなどについて知る。またある規則の下でそれらの類似点及び相違点を認識し、その規則の重要性とそれへの人々の貢献について説明することができる。 4年生：1788年前後のオーストラリアの人々の多様な経験について知り、オーストラリアにおけるイギリス植民地の成立とその要因について理解する。また植民地化が人々と環境に及ぼす影響について理解を深め、環境の重要性や資源の持続可能な配分と管理について理解する。加えて、こうしたことは地方自治体やコミュニティの努力と規則が重要な働きをすることについても理解する。 5年生：1800年以降にオーストラリアがイギリスの植民地となった原因を理解し、植民地の発展における主要な人物や集団の役割について説明できるようになる。またオーストラリアの民主主義の価値観と特徴、市民がどのように目標を達成してきたかについて説明することができる。 6年生：オーストラリア連邦、民主主義、市民権にかかわる主要人物や出来事、考え方について説明することができる。また連邦制以降のオーストラリアへの移住の要因とその影響についても説明することができる。加えて、オーストラリア政府の主要な制度、役割と責任、民主的な価値観と信念についても理解する。 																								
<p>学習内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年/領域</th> <th>歴史分野</th> <th>地理分野</th> <th>公民とシティズンシップ分野</th> <th>経済とビジネス分野</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>F</td> <td>生まれ、育った家族、家族メンバーの関係、家族における重要な出来事に対するお祝いや記念日</td> <td>身近な場所、私たちに国/場所の重要性</td> <td>なし</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>1年生</td> <td>過去と比較した場合の今日における家族構成や役割の類似点及び相違点、両親や祖父母時代と今日の私たちの日常生活の相違点</td> <td>身近な地域の自然とその特徴、場所はどのように変化し、どのように管理されてきたか</td> <td>なし</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>個人、集団、場所、建造物と社会的・文化的・精神的な視点から見たそれらの重要性、技術の発展がどのように人々の生活や働き方、旅行やコミュニケーションの方法を変化させたか</td> <td>地理的区分において場所は身近な地域から地方、そして国へとどのように表現されていくのか、また人々と場所はどのように相互関連しているのか、オーストラリア先住民と場所との相互関係</td> <td>なし</td> <td>なし</td> </tr> </tbody> </table>					学年/領域	歴史分野	地理分野	公民とシティズンシップ分野	経済とビジネス分野	F	生まれ、育った家族、家族メンバーの関係、家族における重要な出来事に対するお祝いや記念日	身近な場所、私たちに国/場所の重要性	なし	なし	1年生	過去と比較した場合の今日における家族構成や役割の類似点及び相違点、両親や祖父母時代と今日の私たちの日常生活の相違点	身近な地域の自然とその特徴、場所はどのように変化し、どのように管理されてきたか	なし	なし	2年生	個人、集団、場所、建造物と社会的・文化的・精神的な視点から見たそれらの重要性、技術の発展がどのように人々の生活や働き方、旅行やコミュニケーションの方法を変化させたか	地理的区分において場所は身近な地域から地方、そして国へとどのように表現されていくのか、また人々と場所はどのように相互関連しているのか、オーストラリア先住民と場所との相互関係	なし	なし
学年/領域	歴史分野	地理分野	公民とシティズンシップ分野	経済とビジネス分野																				
F	生まれ、育った家族、家族メンバーの関係、家族における重要な出来事に対するお祝いや記念日	身近な場所、私たちに国/場所の重要性	なし	なし																				
1年生	過去と比較した場合の今日における家族構成や役割の類似点及び相違点、両親や祖父母時代と今日の私たちの日常生活の相違点	身近な地域の自然とその特徴、場所はどのように変化し、どのように管理されてきたか	なし	なし																				
2年生	個人、集団、場所、建造物と社会的・文化的・精神的な視点から見たそれらの重要性、技術の発展がどのように人々の生活や働き方、旅行やコミュニケーションの方法を変化させたか	地理的区分において場所は身近な地域から地方、そして国へとどのように表現されていくのか、また人々と場所はどのように相互関連しているのか、オーストラリア先住民と場所との相互関係	なし	なし																				

3年生	地域における変化とその影響、多様な背景をもった人々がどのようにこうした変化に貢献したのか、オーストラリアのアイデンティティと多様性にとって重要な出来事、シンボル、象徴、それらがどのように国内で祝われているのか（「オーストラリアの日」「ANZACの日」「NAIDOCウィーク」「National Sorry Day」「イースター」「クリスマス」や他の宗教的・文化的催しを含む）	国家・領域として、植民地化以前よりオーストラリア先住民の国/居住地としての現代オーストラリアの存在、またオーストラリアの近隣地域や国々の位置、オーストラリアの異なった地域における先住民と国家との繋がり、自然的な特徴に関して、オーストラリアと近隣諸国との類似点と相違点	学校や地域社会において誰が規則を作り、なぜその規則が重要なのか、規則に従わない場合の結果はどうか、人々はなぜ地域社会に参加しているのか、児童はどのように積極的に地域社会に参加し、貢献することができるのか	なし
4年生	オーストラリア先住民の多様性と彼らの社会的組織と国家との継続的な関係性、1788年にオーストラリアにイギリス植民地が建設された理由、イギリス植民地建設に関わった軍隊や文官、囚人を含む個人的、集団的経験、オーストラリア先住民と外国からの人々との交流の影響、イギリスからの第一艦隊がオーストラリアに到着した後の国の状況、これがオーストラリア先住民にとっては侵略と考えられた理由	自然植生、水源を含む環境がオーストラリアや他の大陸に人々や動物にとっての如何に重要であるか、オーストラリア先住民が国/居住地に対してもっていた管理責任を含む再生可能な資源と再生不可能な資源の持続可能な使用と管理	規則と法の違い、なぜ法は重要なのか、法はどのように人々の生活に影響しているのか、地方政府の役割と地域社会の住民はどのように地域サービスを利用し、貢献しているのか、地域社会における人々がもっている文化的、宗教的、社会的集団の多様性とその重要性	なし
5年生	1800年以降のオーストラリアにおけるイギリス植民地建設の経済的、政治的、社会的原理由、オーストラリア先住民、植民地経営者、囚人におけるイギリス植民地建設の影響と自然環境におけるイギリス植民地建設の影響、オーストラリアの植民地発展におけるオーストラリア先住民や同地への移民を含む個人や集団の役割	オーストラリア先住民や他の国々からの人々の影響、山火事、洪水、旱魃、サイクロンに対するオーストラリアの環境管理とその結果	選挙及び選出された代表者の役割と責任といったオーストラリア民主主義の主要な特徴、市民の目標達成のために、信念や価値観を共有した市民はどのようにして協働していくのか	天然資源、人的資源、資本などの資源の種類と、それらの需要と供給をどのように満たすのか
6年生	オーストラリア連邦、憲法、民主主義の制度を導いた有用な個人や出来事、オーストラリア先住民、移民、女性と子どもに大きな影響を与えた連邦制度構築後から20世紀全般におけるオーストラリアの政治制度及び市民権の変化、オーストラリア連邦制構築後から20世紀全般においてオーストラリアへの移民する動機、またアジア地域からオーストラリアへの移民についての物語や社会的影響	アジア地域の地理的多様性とオーストラリアに関係するその位置、オーストラリアと他国との関係性、この関係はどのように人々や場所を変化させたか	オーストラリアの政治体制における主要な組織、またそれがどのようにウェストミンスター制度に基づいているか、西側民主主義の特徴的な価値観と信念、オーストラリア政府の3つのレベルにおける役割と責任	知識ある個人としての消費者選択と戦略の影響

注：網掛け箇所は国際教育に関する内容。

付属資料3：ACに基づいた学習領域「公民とシティズンシップ」（7～10年生）の学習内容

目標	
（「人文・社会科学」に同じ）	
<ul style="list-style-type: none"> 世界及び過去と現在を通して、場所、人々、文化、制度について興味関心とともに、尊重する気持ちをもって、こうした事象の学習に楽しく取り組む。 人々、場所、価値、制度、過去と現在、身近な地域と世界といった文脈における主要な歴史的、地理的、公民的、商業的、経済的な知識を発展させる。 社会を構成し、持続可能な発展に影響を及ぼし、帰属意識を生み出す歴史的発展、地理的現象、公民的価値、経済的要因について理解し、尊重する気持ちを育む。 専門分野及び/または分野横断的な調査で活用される主要な概念の理解を深める。 分野専門的な質問、信頼できる情報源を用いた調査、分析、評価、コミュニケーションなどを含む分野専門的なスキルを使用する能力を発展させる。 批判的かつ創造的に問題を解決し、情報に基づいた意思決定を行い、責任ある積極的な市民となり、情報に基づいた経済的・財政的選択を行い、倫理を反映する能力を含む、現在及び詳細の日常生活への効果的な参加に必要な資質を養う。 	
成果	
<ul style="list-style-type: none"> 7年生：オーストラリアの政府制度の主要な特徴と法制度の原則と特徴について説明することができる。またオーストラリアの民主主義の特徴について理解できるようになる。さらにオーストラリア社会の性質、その文化的及び宗教的多様性についても理解し、オーストラリア社会の結束を支える価値観について認識する。 8年生：オーストラリアの民主主義についてどのように知らされ、参加しているかを説明することができる。またオーストラリア政府における政党と選挙で得られれば代表者の役割について理解することができる。さらに法律の特徴とどれがどのようにして制定され、それにはどのようなものがあるのかを知る。加えて、オーストラリア人が自分たちのアイデンティティの多様な側面を表現する方法について知り、国民的アイデンティティについて説明することができる。 9年生：オーストラリア憲法の役割、連邦政府制度及び憲法改正のプロセスについて理解することができる。またオーストラリアの民主主義における政策開発と立法プロセスを説明することができる。さらにオーストラリアの裁判所制度の主要な特徴と管轄を理解し、裁判所と法廷の役割、裁判プロセスがわかるようになる。加えて、個人や集団が国内及び世界の市民生活に参加し、貢献する理由が説明できる。最後にアイデンティティと多様性の反映に対するメディアの影響についても説明できるようになる。 10年生：オーストラリア政府の主要な機能と価値を他の政府と比較して説明することができる。これは地域及び世界レベルでのオーストラリア政府の役割と責任を示すことでもある。またオーストラリア高等裁判所の役割をはじめ、国際的な法的義務が法律と政府の政策にどのように影響するかを理解することができる。加えてオーストラリアの回復力ある民主主義と団結した社会への課題について説明することができる。 	
学習内容	
7年生	政府と民主主義、法律と市民、市民権（多様性とアイデンティティ） <ul style="list-style-type: none"> オーストラリアの政治制度の特徴、民主主義の特徴 オーストラリア社会の性質とその文化的・宗教的多様性
8年生	政府と民主主義、法律と市民、市民権（多様性とアイデンティティ） <ul style="list-style-type: none"> オーストラリアの民主主義についての理解と政治制度の理解 オーストラリアの法律とアイデンティティの保護
9年生	政府と民主主義、法律と市民、市民権（多様性とアイデンティティ） <ul style="list-style-type: none"> オーストラリア憲法の役割とその快晴のプロセス オーストラリアの立法、司法の理解 民主主義における人々のアイデンティティの維持と社会の多様性
10年生	政府と民主主義、法律と市民、市民権（多様性とアイデンティティ） <ul style="list-style-type: none"> オーストラリア政府の主要な機能についての理解 法律と政府の政策との関係についての理解 オーストラリアの回復力ある民主主義と団結した社会作り

注：網掛け箇所は国際教育に関係する内容。

付属資料 4 : AC に基づいた学習領域「経済・ビジネス」(7~10 年生) の学習内容

目標	
(「人文・社会科学」に同じ)	
<ul style="list-style-type: none"> 世界及び過去と現在を通して、場所、人々、文化、制度について興味関心とともに、尊重する気持ちをもって、こうした事象の学習に楽しく取り組む。 人々、場所、価値、制度、過去と現在、身近な地域と世界といった文脈における主要な歴史的、地理的、公民的、商業的、経済的な知識を発展させる。 社会を構成し、持続可能な発展に影響を及ぼし、帰属意識を生み出す歴史的発展、地理的現象、公民的価値、経済的要因について理解し、尊重する気持ちを育む。 専門分野及び/または分野横断的な調査で活用される主要な概念の理解を深める。 分野専門的な質問、信頼できる情報源を用いた調査、分析、評価、コミュニケーションなどを含む分野専門的なスキルを使用する能力を発展させる。 批判的かつ創造的に問題を解決し、情報に基づいた意思決定を行い、責任ある積極的な市民となり、情報に基づいた経済的・財政的選択を行い、倫理を反映する能力を含む、現在及び詳細の日常生活への効果的な参加に必要な資質を養う。 	
成果	
<ul style="list-style-type: none"> 7 年生：経済において限られた資源を個人や地域社会に割りあてる決定がどのように行われるかについて理解することができる。またビジネスが存在する理由とその種類を説明し、起業家の特徴がどのようにビジネスの成功に貢献するかを理解できるようになる。さらに個人が働くことを選択する理由、収入を得る方法、存在する仕事の種類について理解し、製品とサービスに関して個人と企業がもつ権利と責任についてわかるようになる。 8 年生：商品やサービスの生産に対する資源の配分に市場がどのように影響するかを説明することができる。また企業が市場の機会に適応し、職場環境に対応する方法を理解することができる。さらに、オーストラリアの税制の重要性と、個人や企業による意思決定への影響について説明することもできる。加えて、個人及び企業が予算を立てて計画する理由を説明することができる。 9 年生：オーストラリアの金融部門の役割と、個人や企業による意思決定への影響について説明することができる。またグローバル市場の参加者の相互依存と経済的意思決定への影響についても説明することができる。さらに貿易を行う理由とオーストラリアとアジアとの貿易パターンを理解することができる。加えて、企業が競争上の優位性を生み出し、維持しようとする理由を理解し、個人や企業が消費者と金融のリスクと報酬をどのように管理しているかを理解することができる。 10 年生：経済指標がオーストラリア政府の意思決定にどのように影響するかを分析し、経済パフォーマンスと生活水準を改善するために政府が介入する方法を説明することができる。また企業が労働力を管理し、生産性を向上させるために用いるプロセスについても理解することができる。さらにオーストラリアの退職金制度の重要性と、それが消費者と金融の意思決定に与える影響についても理解できるようになる。加えて、消費者及び財務上の決定に影響を与える要因を分析し、これらの決定の短期的及び長期的な影響について理解することができる。 	
学習内容	
7 年生	無限の需要と供給を満たすために限られた資源を割りあてる決定が下される時に機会費用が生じる理由、ビジネスが存在する理由と、様々な種類のビジネスが商品やサービスを提供する方法、起業家の特徴と、それらがビジネスの成功にどのような影響を及ぼすか、個人が働く理由、従事している仕事の種類、収入を得る方法、消費者及び金融商品、サービスの関連する個人と企業の権利と責任
8 年生	商品やサービスの生産に対する資源の配分に関する決定に市場がどのように影響するのか、及びこれらの決定に対する価格の影響、企業が市場の機会に適応し、変化する仕事の性質に対応する様々な方法、先住民のオーストラリアの企業や起業家が市場でどのように機会を利用しているか、オーストラリアの税制の重要性とこの制度が個人や企業の意思決定に与える影響、短期及び長期的の財務目標を達成するために個人及び企業が計画、予算を立てるために用いるプロセス
9 年生	オーストラリアの金融セクターの役割と、個人、企業、グローバル市場による経済的意思決定への影響、経済的志士決定に消費者、企業、金融セクター、政府の相互依存がどのように関係するか、オーストラリアが他国と取引する理由及びオーストラリアとアジアの間の取引パターン、起業家の役割を含め、企業が競争上の優位性を有無だし維持するために用いるプロセス、個人と企業が消費者と金融のリスクと報酬をどのように管理するか
10 年生	経済指標が経済的意思決定にどのように、そしてなぜ影響するのか、オーストラリア社会の経済パフォーマンスと生活水準を向上させるために政府が経済に介入する方法、主要な消費者及び財務上の決定に影響を与える要因及びこれらの決定の短期的・長期的な結果、オーストラリアの退職金制度の重要性とこの制度が消費者と金融の意思決定に与える影響、起業家の役割を含め、企業が労働力を管理し生産性を向上させるために用いるプロセス

注：網掛け箇所は国際教育に関係する内容。

付属資料5：ACに基づいた学習領域「地理」（7～10年生）の学習内容

<p>目標</p> <p>（「人文・社会科学」に同じ）</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界及び過去と現在を通して、場所、人々、文化、制度について興味関心とともに、尊重する気持ちをもって、こうした事象の学習に楽しく取り組む。 人々、場所、価値、制度、過去と現在、身近な地域と世界といった文脈における主要な歴史的、地理的、公民的、商業的、経済的な知識を発展させる。 社会を構成し、持続可能な発展に影響を及ぼし、帰属意識を生み出す歴史的発展、地理的現象、公民的価値、経済的要因について理解し、尊重する気持ちを育む。 専門分野及び/または分野横断的な調査で活用される主要な概念の理解を深める。 分野専門的な質問、信頼できる情報源を用いた調査、分析、評価、コミュニケーションなどを含む分野専門的なスキルを使用する能力を発展させる。 批判的かつ創造的に問題を解決し、情報に基づいた意思決定を行い、責任ある積極的な市民となり、情報に基づいた経済的・財政的選択を行い、倫理を反映する能力を含む、現在及び詳細の日常生活への効果的な参加に必要な資質を養う。 	
<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 7年生：場所の特徴が人々によってどのように異なって認識され、評価されるかが説明できる。人々にとって環境が重要であることがわかり、人と場所と環境の相互接続について理解し、これらの相互接続が場所や環境をどのように変化させるかを理解することができる。さらに地理的現象や課題に対処するための方法や戦略についても理解できる。 8年生：人々の相互作用と環境プロセスが場所の特性にどのように影響するかを説明することができる。場所の特徴が人々によってどのように異なって認識され、評価されるのかがわかる。また、環境に対する人間の活動の危険性についても理解できるようになる。さらに人間と場所と環境との間の相互関係は、それらを変化させることについてもわかる。加えて、環境的、経済的、社会的要因を参照しながら、地理的現象や課題に対処するための方法や戦略についても理解できる。 9年生：人々の活動や環境プロセスが場所の特徴をどのように変化させるかについて説明することができる。環境に対する人間の活動の影響及び人間の活動に対する環境への影響について理解することができる。また生物群系の分布の特徴を説明し、環境への影響を特定することもできる。加えて、環境的、経済的、社会的要因を参照しながら、地理的現象や課題に対処するための方法や戦略についても理解できる。 10年生：様々な規模での人間と環境プロセスの相互作用が場所の特性をどのように変化させるかを説明することができる。環境に対する人間活動の影響、人間の活動に対する環境への影響を時間軸を使って説明することができる。さらに人間と場所と環境との間の相互関係は、それらを変化させることについてもわかる。加えて、環境的、経済的、社会的要因を参照しながら、地理的現象や課題に対処するための方法や戦略についても理解できる。 	
<p>学習内容</p>	
7年生	<p>世界の水資源、場所と居住可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間と環境との関係（相互接続関係）、人間の活動による環境の変化・危険性 環境維持のための方法・戦略
8年生	<p>景観と地形、国家の変貌</p> <ul style="list-style-type: none"> 人々の活動の活況プロセスへの影響 環境的、経済的、社会的な要因を検討して環境についての課題解決に向けた方策
9年生	<p>生物群系（バイオーム²⁴）と食料安全保障、相互関連の地理</p> <ul style="list-style-type: none"> 生物体系の分布の特徴把握と環境への影響についての理解 環境的、経済的、社会的な要因を検討して環境についての課題解決に向けた方策
10年生	<p>環境の変化と管理、人間幸福の地理</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境における人間活動の影響、人間活動に対する環境恵の影響 人間と環境との相互関係についての理解 環境的、経済的、社会的な要因を検討して環境についての課題解決に向けた方策

注：網掛け箇所は国際教育に関係する内容。

²⁴ ある気候条件の地域で、それぞれの条件下での安定した極相の状態になっている動植物の集まり（群集）のことを指す。熱帯雨林、サバナ、ツンドラなど、それぞれの生物体ごとに、異なったバイオームがあることになる。

付属資料 6 : AC に基づいた学習領域「歴史」(7~10 年生) の学習内容

目標	
<p>(「人文・社会科学」に同じ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界及び過去と現在を通して、場所、人々、文化、制度について興味関心とともに、尊重する気持ちをもって、こうした事象の学習に楽しく取り組む。 人々、場所、価値、制度、過去と現在、身近な地域と世界といった文脈における主要な歴史的、地理的、公民的、商業的、経済的な知識を発展させる。 社会を構成し、持続可能な発展に影響を及ぼし、帰属意識を生み出す歴史的発展、地理的現象、公民的価値、経済的要因について理解し、尊重する気持ちを育む。 専門分野及び/または分野横断的な調査で活用される主要な概念の理解を深める。 分野専門的な質問、信頼できる情報源を用いた調査、分析、評価、コミュニケーションなどを含む分野専門的なスキルを使用する能力を発展させる。 批判的かつ創造的に問題を解決し、情報に基づいた意思決定を行い、責任ある積極的な市民となり、情報に基づいた経済的・財政的選択を行い、倫理を反映する能力を含む、現在及び詳細の日常生活への効果的な参加に必要な資質を養う。 	
成果	
<ul style="list-style-type: none"> 7 年生：古代における過去の歴史的意義とオーストラリアの初期の先住民族の歴史について理解する。オーストラリアや他の社会における個人や集団の出来事とその発展、原因と結果についてわかり、これらの社会の変化と継続性に関する社会的、宗教的、文化的、経済的、環境的及び政治的側面についても理解する。また古代社会の発展における重要な個人や集団の影響を特定し、オーストラリアや他の社会における古代からの遺産の重要性についてわかるようになる。 8 年生：古代と現代の間の歴史的意義について理解し、中世、ルネサンス、前近代のヨーロッパまたは帝国やその拡大に関する社会、またこの時期のアジア太平洋世界の社会における出来事、発展、転換期、その原因と結果を説明することができる。そして、これらは社会または歴史的機関の変化と継続に関連する社会的、宗教的、文化的、経済的、環境的、政治的側面についても理解する。さらにこの時代の社会における重要な個人や集団、機関の役割と歴史的出来事への影響についてもわかるようになる。 9 年生：1918 年までの近世の時代の歴史的意義を説明することができる。オーストラリアと第一次世界大戦に関連した世界的な出来事や転換点、その原因と結果を理解する。またアジアの文脈においても説明できる。加えて、これらは社会的、文化的、経済的、政治的側面とも密接に関係していることを理解し、この時代の社会における重要な個人や集団、機関の役割と歴史的出来事への影響についてもわかるようになる。 10 年生：1918 年から 21 世紀初頭までの機関の歴史的意義を説明することができる。第二次世界大戦に至るまで、そしてその大戦を通して、さらに戦後の世界に至り 20 世紀のオーストラリア及び国際的な出来事、転換点、その原因と結果を説明することができる。加えて、これらは社会的、文化的、経済的、政治的側面とも密接に関係していることを理解し、この時代の社会における重要な個人や集団、機関の役割と歴史的出来事への影響についてもわかるようになる。 	
学習内容	
7 年生	<p>オーストラリアの深い歴史、古代世界</p> <ul style="list-style-type: none"> オーストラリアの初期の先住民族の歴史 古代の出来事について社会的、宗教的、文化的、経済的、環境的、政治的な意義の理解
8 年生	<p>中世ヨーロッパと初期の世界、帝国とその拡大、アジア太平洋地域</p> <ul style="list-style-type: none"> 古代と現代の間にある中世の意義についての理解 中世におけるアジア太平洋地域における出来事とこの地域の発展・変化についての理解
9 年生	<p>オーストラリアの建国とその変遷 (1750-1914)、第一次世界大戦 (1914-1918)、産業革命と人々の移動 (1750-1900)、アジアと世界 (1750-1914)</p> <ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦についてオーストラリアに関連した出来事、その原因や結果についての理解 これらの出来事における社会的、文化的、経済的、政治的な意味の把握と理解
10 年生	<p>第二次世界大戦、近代オーストラリア国家の建設、グローバル化が進む世界</p> <ul style="list-style-type: none"> 第二次世界大戦に至るまで、大戦中、そして戦後におけるオーストラリアと世界の出来事についての理解 これらの出来事における社会的、文化的、経済的、政治的な意味の把握と理解

注：網掛け箇所は国際教育に関係する内容。

付属資料 7 : AC に基づいた学習領域「地球と環境科学」(11~12 年生) の学習内容

目標	
<ul style="list-style-type: none"> 地球及び環境科学への関心とこの学際的な知識が現代の問題を理解するためにどのように活用できるかについて認識する。 地球圏、大気圏、水圏、岩石圏の四つが相互作用するダイナミックな惑星としての地球について理解する。 様々な時間枠で地球システムを継続的に変化させる複数の平行プロセスを含む複雑な相互作用を評価することができる。 地球と環境科学の知識が時間の経過とともに発展したことを理解する。また社会的、経済的、文化的、倫理的な考慮事項に影響を与えたり、影響を受けたりすることを理解する。 定性的及び定量的データの収集と分析、また証拠の解釈を含む様々な分野、研究、実験室調査を実施する能力を養う。 証拠を参照して、地球及び環境科学の概念、解釈、主張及び結論を悲観的に評価する能力を身に付ける。 適切な表現、形態、様式を用いて地球と環境についての理解、調査結果、議論とその結論を伝える能力を習得する。 	
成果	
<ul style="list-style-type: none"> 地球システムとその構成要素が様々な空間規模にわたってどのように相互関連しているか、また時間の経過とともにどのように変化したかを分析することができる。 物質の循環とエネルギーの移動の変換が、時間的・空間的規模の範囲にわたって地球システム内及び地球システム間でどのように相互に関連しているかを分析することができる。 システムを説明するために使用される理論とモデル及びそれらに含まれるシステムの側面について説明することができる。 システムとプロセスの理論とモデルを適用して、現象を説明し、複雑な問題を解釈し、馴染みのない状況で合理的でもっともらしい予測を行うことができる。 地球と環境の理論とモデルの開発における協働、議論、レビュー、テクノロジーの役割を理解することができる。 多様なニーズを満たし意思決定のための情報を提供するために、地域及び環境科学が他の科学と一緒にどのように用いられているか、またこれらの応用が相互作用する社会的、経済的、倫理的要因によってどのように影響を受けているかを理解することができる。 	
学習内容	
単元 1	地球システムについて <ul style="list-style-type: none"> 地球の年齢について変化する見解 古代プロセスの類似物として現代プロセス 地球の内部構造についての理解
単元 2	地球のプロセス - エネルギーの移動と変換 <ul style="list-style-type: none"> プレート・テクトニクス理論についての理解 プレートの動き 地熱エネルギー
単元 3	地球に住む - 地球資源の生産、使用、管理 <ul style="list-style-type: none"> 採掘する資源の場所とその埋蔵量 オーストラリアの炭層ガス採掘 カーボン・プライシング
単元 4	変わる地球 - アースハザード (地球的危機) の原因と影響 <ul style="list-style-type: none"> 科学者は地震リスクの評価に責任を負うべきか? 異常気象 (Severe Weather Events) に対応した都市開発計画 オーストラリアの塩分濃度

注：網掛け箇所は国際教育に関する内容。

付属資料 8 : AC に基づいた学習領域「古代史」(11~12 年生) の学習内容

目標	
<ul style="list-style-type: none"> 古代社会の主要な人物、組織、構造、特徴を含む古代の知識と理解を深める。 調査と探究、情報を用いた解釈や証拠に基づいた議論及びコミュニケーションのスキルを含む歴史的調査を遂行する能力を養う。 証拠、継続性と変化、原因と結果、重要性、共感、視点、解釈、表現、論争可能性など主要な歴史的概念を用いた分析的・批判的思考を養う。 古代世界の思想、信念、価値観の起源、その影響、現代に伝えられる遺産を理解する。 	
成果	
<ul style="list-style-type: none"> 古代世界の情報と証拠の使用に関連する問題の重要性を理解できる。 古代社会の主要な特徴と構造及びそれらが過去の人々の生活と行動をどのように形成したかを説明できる。 古代世界の主要人物、出来事、特徴、発展の重要性について理解できる。 出来事とその変化、主要な人物や集団に関連する様々な解釈と論争の的となっている事柄を分析し、過去を説明する上でそれらの有用性を評価できる。 	
学習内容	
単元 1	<p>古代社会の調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 次に挙げる中から二つを選択して調査する：①歴史的な認証と信頼性。②古代遺跡の保存及び再建、③文化遺産、所有権、博物館の役割、④遺体の処理と展示 次に挙げる二つの場所のうち一つを選択して、そこで起こった出来事、主要な人物及び集団について調べる（古代ティラ<サントリーニ島・マサダ>）
単元 2	<p>古代社会</p> <ul style="list-style-type: none"> 次に挙げる中から二つを選び、①奴隷制、②芸術・建築物、③武器、④土木技術、⑤家族形態、⑥信念・儀式・葬儀のそれぞれについて調べる（古エジプト王国時代、ラムサイド時代、青銅器時代のギリシャ人、スパルタ、ペルシャ、ローマ、プトレマイオス朝エジプト、秦と漢の中国、イスラエルとユダヤ、アッシリア、マウリヤ朝時代のインド）。
単元 3	<p>人々、力、権力</p> <ul style="list-style-type: none"> 次に挙げる中から一つを選び、それについて調べる（新王国時代のエジプトからホルレムヘブの死まで、ペルシャ、古代ギリシャ、アテネ、ローマ、後漢と三国時代）。 次に挙げる中から 1 人を選び、その人物について調べる（アケナテン、アウグストゥス、シーザー、シセロ、シモン、ダリウス 1 世、ハトシェプスト女王、劉備、リヴィア、ペリクレス、ソロン、スラ、テミストクレス、トトメス 3 世、諸葛孔明、クセルクセス）。
単元 4	<p>古代社会の再構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 次に挙げる中から一つを選び、それについて調べる。 ① テーベ：東と西、第 18 エジプト王朝 ② 新王国の帝国主義：外交と統治、第 18~20 エジプト王朝 ③ アテネのアゴラとアクロポリス ④ アテネ・スパルタ・ペロポネソス戦争 ⑤ フリオ・クラウディアンとローマ帝国 ⑥ ポンペイとヘルクラネウム

注：網掛け箇所は国際教育に関係する内容。

付属資料 9 : AC に基づいた学習領域「近現代史」(11～12 年生) の学習内容

目標	
<ul style="list-style-type: none"> 近代世界を形作った特定の出来事、思想、動き、発展についての知識を習得し、理解できる。 研究、情報の評価、証拠の統合、解釈と表現の分析及び調査結果の伝達におけるスキルを含む歴史的調査を行う能力を養う。 証拠、継続性と変化、原因と結果、重要性、共感、視点及び論争可能性を含む歴史的な概念を適切に用いることができる。 現代の議論の参加するための分析的・批判的思考を含むスキルを備えた情報に通じた市民になる能力を養う。 	
成果	
<ul style="list-style-type: none"> 変化と継続の程度を評価し、それが様々な時間と場所で個人や集団の生活にどのように影響を及ぼしたかを理解できる。 特定の状況における変化と継続の重要な原因について理解できる。 思想、動き、発展に対する様々な視点と反応が、過去の人々の生活と行動をどのように形成していったのかを分析することができる。 当時及び現代世界に対する思想、動き、出来事、発展の重要性を理解できる。 出来事、動き、発展の様々な解釈と論争的となる事象を分析し、過去を説明する上での有用性を評価できる。 	
学習内容	
単元 1	<p>近代世界の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> 次の中から二つを選び、それについて調べる（啓蒙時代<1750-1789 年>、アメリカ独立戦争<1763-1812 年>、フランス革命<1774-1799 年>、産業革命<1750-1890 年代>、帝国主義の時代<1848-1914 年>）。
単元 2	<p>20 世紀の変化を引き起こした動き</p> <ul style="list-style-type: none"> 次の 20 世紀に起こった出来事の中から二つを選び、それについて調べる（女性による権利擁護運動、先住民族の認識と権利、脱植民地化、アメリカにおける公民権運動、労働者による権利擁護運動）。
単元 3	<p>20 世紀の近代国家</p> <ul style="list-style-type: none"> 次の中から一つを選び、その時期の社会状況について調べる（アメリカ合衆国<1917-1945 年>、オーストラリア<1918-1949 年>、ドイツ<1918-1945 年>、ロシア・ソビエト連邦<1917-1945 年>）。 次の中から一つを選び、その時期の社会状況を調べる（日本<1931-1967 年>、インド<1947-1974 年>、インドネシア<1942-1974 年>、中国<1937-1976 年>）。
単元 4	<p>1945 年以降の近代世界</p> <ul style="list-style-type: none"> 次の中から一つを選び、特に 1945 年から 2010 年の時期に焦点をあてて、その状況について調べる（世界秩序の変化、アジアとの関わり、グローバル化した世界、人々の動き、中東和平を求めると闘争、平和と安全の探究）。

注：網掛け箇所は国際教育に関係する内容。

付属資料 10 : AC に基づいた学習領域「地理」(11~12 年生) の学習内容

目標	
<ul style="list-style-type: none"> • 自然及び生態学的危険の性質、原因及び結果に関する知識を習得し、理解する。また場所の持続可能性に影響を与える課題についても理解できるようになる。さらに土地被覆の変化や様々な空間的文脈における国際的な統合について理解する。 • 地理的現象や課題への探究を通して、場所、空間、環境、相互接続、持続可能性、規模、変化の概念について理解し、適切に用いることができる。 • 達成する能力を備え、地理的な調査とスキルの重要なユーザーとなり、さらに地理的に考えてコミュニケーションする能力を育む。 • 人類が直面している地理的課題に対する代替的対応を特定し、評価し、制度化して、環境的、社会的、経済的要因を考慮して行動を適切な行動を提案できる能力を育む。 	
成果	
<ul style="list-style-type: none"> • 変化のプロセスが様々な規模で場所や環境に空間的な影響を与える方法を分析し、文脈の役割を説明することができるようになる。 • 人、場所、環境の間の相互関係及びそれらの地理的意義と結果を分析することができる。 • 空間分析、パターン及び関連性を様々な規模及び文脈で分析し、もっともらしい将来の変化を予測することができる。 • 地理的な問題または課題についての別の視点を分析し、相互作用する環境的、経済的、社会的要因によって意思決定がどのように伝えられるかについて説明することができる。 	
学習内容	
単元 1	国家的・生態学的危機 <ul style="list-style-type: none"> • 国家的・生態学的危機の概要についての理解 • 自然破壊・生態学的破壊について深く学ぶ • 生態学的破壊についての事例を選び、それについて調査する
単元 2	持続可能な場所 <ul style="list-style-type: none"> • 場所とその挑戦についての概要についての理解 • ある場所が直面している挑戦 • オーストラリアにおけるある地域が直面する課題と危機
単元 3	土地被覆の変化 <ul style="list-style-type: none"> • 土地被覆の特徴、程度、結果の概要についての理解 • 土地被覆の変化と世界的な気候や生物多様性の変化との相関関係について深く学ぶ • 土地被覆に関するプログラムについて深く学ぶ
単元 4	グローバルな変革 <ul style="list-style-type: none"> • 国際関係についての概要の理解 (国際的な経済統合、文化統合) • 次に挙げる中から一つを選び、それについて調べる (鉱石または化石ベースのエネルギー資源、職員または繊維ベースの商品、複雑な製造過程によって生産された商品、「無重力」またはサービスベースの経済における典型的な商品)。

注：網掛け箇所は国際教育に関係する内容。

付属資料 11 : NSW 州教育課程に基づいた学習領域「先住民族学」(7~12 年生) の学習内容

目標			
<ul style="list-style-type: none"> オーストラリア先住民族のアイデンティティ、コミュニティ、自律性、役割及び先住民とその他の人々の間の様々な関係についての知識を習得し理解を深める。 先住民族のコミュニティに対して敬意と責任をもって関与し、公正で包括的な世界の積極的で、情報に基づいた擁護者になる。 			
成果			
<ul style="list-style-type: none"> オーストラリア先住民族のアイデンティティ、コミュニティ、文化的表現において、私たちとの類似点と相違点(多様性)についての知識を習得し、理解できる。 オーストラリア先住民族の自己決定や自律性の重要性について知識を習得し、理解できる。 オーストラリア先住民族の居住地区、その周辺地域、オーストラリア国内及び国政的な役割及び非先住民族の人々との様々な関係について理解できる。 オーストラリア先住民族と文化に対する非先住民族の認識の範囲に影響を与える要因及びこれらの認識の影響についての知識を習得し、理解できる。 オーストラリア先住民族のコミュニティと協力する際に、適切なプロトコルと倫理的慣行を用いることができるようになると同時に、コミュニケーションのスキルを養う。 			
学習内容			
学年	必須	選択	事例研究
7~10 年生	<ul style="list-style-type: none"> オーストラリア先住民族のアイデンティティ オーストラリア先住民族の自己決定と自律性 	<ul style="list-style-type: none"> オーストラリア先住民族の企業と組織 オーストラリア先住民族と美術 オーストラリア先住民族と音楽 オーストラリア先住民族とメディア オーストラリア先住民族と口語及び筆記表現 オーストラリア先住民族と映画やテレビ番組 オーストラリア先住民族とテクノロジー オーストラリア先住民族とスポーツ オーストラリア先住民族による法的・政治的な相互関係 その他、学校独自で開発された内容 	<ul style="list-style-type: none"> 地域相談 調査計画 データ収集 情報整理 情報の共有
11~12 年生	なし	<ul style="list-style-type: none"> オーストラリア先住民とその土地 遺産とアイデンティティ 世界の先住民族コミュニティ(比較研究) 地域社会の調査(調査・探求学習) 社会正義と人権問題 先住民族と土地の問題についての考察 プロジェクト学習 	

注：網掛け箇所は国際教育に関係する内容。

付属資料 12 : NSW 州教育課程に基づいた学習領域「社会と文化」(11~12 年生) の学習内容

目標			
<ul style="list-style-type: none"> 社会的・文化的リテラシーを開発し、相互作用が人間の行動をどのように形成するかを理解する。 学際的な概念と社会的・文化的研究方法を用いて、生徒が特に興味のある分野で研究を行い、個人的プロジェクト (Personal Interest Project: PIP) としてその結果を発表することができるようになる。 			
成果			
<ul style="list-style-type: none"> (具体的な記載なし) 			
学習内容			
学年	予備コース	人間・社会・文化コース： 鍵概念	人間・社会・文化コース： 深い学習
11~12 年生	<ul style="list-style-type: none"> 社会的・文化的世界：社会における個人や集団の相互関係 個人と社会のアイデンティティ：多様な社会的・文化的文脈における社会化と個人と社会のアイデンティティの開発 異文化コミュニケーション：多様な社会的・文化的・環境的文脈に置かれた人々の行動様式とコミュニケーションを介した周囲の世界についての認識 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的・文化的継続性と変化：社会的・文化的な継続性と変化の特徴及び選択された国別研究における方法と社会理論の適用 個人的プロジェクト (PIP)：個人の研究プロジェクト 	<p>以下から二つを選択</p> <ul style="list-style-type: none"> 大衆文化：大衆文化と社会と個人間の相互接続 信念体系とイデオロギー：文化とアイデンティティに対する信念体系とイデオロギーの関係 社会的包摂と排除：社会的包摂と排除の特徴及び社会と文化における個人と集団への影響 社会的適合性と不適合性：適合性と不適合性の特徴及び人々の態度と行動形成への影響

注：網掛け箇所は国際教育に関する内容。

付属資料 13 : NSW 州教育課程に基づいた学習領域「宗教学 I」(11~12 年生)の学習内容

目標		
<ul style="list-style-type: none"> • 宗教の特徴と重要性を理解する。 • 個人や社会における信念体系と宗教的伝統の影響について理解し、批判的認識を促進する。 		
成果		
<ul style="list-style-type: none"> • (具体的な記載なし) 		
学習内容		
学年	予備コース	人間・社会・文化コース
11~12 年生	<ul style="list-style-type: none"> • 宗教と信念の特徴：人生の意味としての人間に探究に対する独特の反応として、オーストラリアの先住民族の信念と精神性を含む宗教と信念の特徴 • 二つの宗教についての学習：仏教、キリスト教、ヒンズー教、イスラム教、ユダヤ教から二つを選択し、それぞれについて起源、主な信条、聖典と書物、中核となる倫理的教え、個人の献身・信仰の表明・遵守を調べる 	<ul style="list-style-type: none"> • 1945 年以降のオーストラリアにおける宗教・信念体系：1945 年以来、オーストラリアの多文化及び多信仰社会における宗教的表現。またオーストラリア先住民の精神性への感謝と、今日のオーストラリアにおける宗教的信念と宗教的表現についての理解も含む。 • 二つの宗教についての深い学習：仏教、キリスト教、ヒンズー教、イスラム教、ユダヤ教から二つを選択し、それぞれについて重要な人物と思想、生命倫理または環境倫理あるいは性的倫理に関する宗教的伝統における倫理的教え、支持者の生活における重要な実践を調べる。

注：網掛け箇所は国際教育に関する内容。

付属資料 14 : NSW 州教育課程に基づいた学習領域「宗教学 II」(11~12 年生) の学習内容

目標		
<ul style="list-style-type: none"> • 宗教の特徴と重要性を理解する。 • 個人や社会における信念体系と宗教的伝統の影響について理解し、批判的認識を促進する。 		
成果		
<ul style="list-style-type: none"> • (具体的な記載なし) 		
学習内容		
学年	予備コース	人間・社会・文化コース
11~12 年生	<ul style="list-style-type: none"> • 宗教と信念の特徴：人生の意味としての人間に探究に対する独特の反応として、オーストラリアの先住民族の信念と精神性を含む宗教と信念の特徴。 • 二つの宗教についての学習：仏教、キリスト教、ヒンズー教、イスラム教、ユダヤ教から二つを選択し、それぞれについて起源、主な信条、聖典と書物、中核となる倫理的教え、個人の献身・信仰の表明・遵守を調べる。 • 古代を起源とする宗教：古代を起源とするアステカあるいはインカあるいはマヤ、ケルト、ノルディック、神道、道教、オーストラリア以外の土着宗教から二つの宗教を選択し、究極の意味を求める人間の探究への応答について調べる。 • 1945 年以前のオーストラリアにおける宗教：1945 年以前のオーストラリアにおける宗教の到来、設立、発展について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 1945 年以降のオーストラリアにおける宗教・信念体系：1945 年以来、オーストラリアの多文化及び多信仰社会における宗教的表現。またオーストラリア先住民の精神性への感謝と、今日のオーストラリアにおける宗教的信念と宗教的表現についての理解も含む。 • 三つの宗教についての深い学習：仏教、キリスト教、ヒンズー教、イスラム教、ユダヤ教から三つを選択し、それぞれについて主要な人物と思想、生命倫理・環境倫理・性倫理に関する倫理的教え、支持者の生活における重要な実践を調べる。 • 宗教と平和：平和の問題に対する考えについて調べる。 • 宗教と非宗教：新しい宗教的表現による人間の意味と非宗教における人間の意味について探究する。また宗教的世界観と非宗教的世界観の違いについて調べる。

注：網掛け箇所は国際教育に関する内容。

付属資料 15 : NSW 州教育課程に基づいた学習領域「個人の発達と保健体育及びライフスキル」(K~10 年生) の学習内容 (特にここではライフスキル<7~10 年生>の学習内容に焦点をあてる)

目標
<ul style="list-style-type: none"> • 個人のアイデンティティの感覚を促進し、回復力と敬意をもった関係を構築する戦略について理解する。 • 様々な身体活動の状況において、自信をもって有能かつ創造的に対応するための動作スキル、概念、戦略について理解する。 • 健康、安全、福祉、身体活動への参加に影響を与える状況要因の重要性を理解する。 • 健康、安全、福祉、身体活動への参加を促し、強化する。
成果
<ul style="list-style-type: none"> • K (早期ステージ) : 個人の特徴と強みを特定し、自分がどのように成長し変化しているかを認識し、体の様々な部分を特定する。人々が経験する様々な感情を描写する。他の人と積極的に交流するための対人スキルを練習する。回復力、健康、安全、そして活動的になるのに役立つ行動を支援し、認識できる人を特定する。個人の健康、安全、福祉、身体活動への参加に影響を与える状況要因を探る。安全を確保し、サポートを受けるためのスキルと戦略を特定する。自制心の発達により、感情的な反応を探求し、様々な遊びやグループの状況で他の人と積極的に協力する。 • Y1~2 (ステージ 1) : 年齢を重ねるにつれて起こる変化について説明し、個人のアイデンティティの特徴と、それが強みや成果によってどのように影響されるかを認識する。他人と交流するための前向きな方法を認識し、実証し、感情的な反応が他人の感情にどのような影響を与えるかを特定する。様々なタイプの人間関係を探求し、敬意を持った人間関係を築き維持するために必要な資質について説明する。健康に関する意思決定に影響を与える状況要因を理解し、自分自身や他の人を健康、安全、活動的に保つ方法について説明する。健康、安全、身体活動を促進する環境を認識し、様々な状況に対応するための様々な保護戦略を実践する。自分の安全を守るための指示に従い、仕事や問題について助けを求める。 • Y3~4 (ステージ 2) : 物理的および社会的な変化と個人の管理戦略を認識する。個人の強みを認識し、それを幅広い状況に適用する。思いやりと敬意をもった人間関係を築くためのスキルと資質、そして健康、安全、幸福を改善する方法を研究する。他人の権利と感情を特定し、自分自身と他人をサポートするための戦略を考案する。健康に関するメッセージを調べ、健康的で安全な選択に与える影響について説明する。健康的で安全で身体的に活動的な環境に貢献する責任があることを認識する。フィットネスを強化するために設計された身体活動を実行し、身体活動、健康、フィットネスの関係について話し合う。健康的で安全でアクティブなライフスタイルを開発および維持する機会を増やす戦略を提案する。 • Y5~6 (ステージ 3) : 人々や場所がアイデンティティに及ぼす影響を調査し、関係を確立して管理するためのスキルを実践する。制御可能な要因と制御不可能な要因を特定し、健康、安全、福祉、身体活動への参加に対する状況要因の影響を認識する。健康的で安全で活動的な生活を守り促進するための対応、スキル、戦略を計画し、実践する。自分たちのコミュニティとの繋がりを調べ、身体活動レベルを高めるための行動を実行する。健康情報にアクセスして解釈し、スキルを適用して自分自身や他人の健康、安全、幸福を増進するための支援を求める。 • Y7~8 (ステージ 4) : コミュニティと繋がる方法を模索することで、健康と幸福を増進するためのスキルと戦略を提案する。変化や移行に影響を与える要因を認識し、現在及び将来の課題に対処するための戦略を評価する。立ち直りを養う方法を分析し、自分自身と他の人をサポートするための助けを求める戦略と行動を示す。敬意を持った関係の特徴と、他者に属し、繋がりをもつことの重要性を認識する。健康習慣、行動、リソースを調査し、様々な健康と身体活動の問題に関連して、自分自身と他の人の健康、安全、幸福を促進するための行動を提案する。サポートや健康情報へのアクセスに関して批判的思考スキルを開発する。前向きな健康と生涯にわたって身体活動を続けるための習慣を身に付ける必要性を認識する。 • Y9~10 (ステージ 5) : アイデンティティを形成し、若者の健康上の決定、行動、行動に影響を与える幅広い要素を評価する。戦略と介入を計画及び評価し、自分自身と他人の健康、安全、幸福を擁護する。変化や

移行が人間関係に及ぼす影響を調査する。課題を考慮して前向きに対応する能力と、思いやりがあり、包括的で敬意をもった関係にどのように貢献できるかを評価する。様々な状況における感情的な反応を振り返り、健康、安全、福祉を促進し、複雑な状況に対処するための保護スキルを実証する。自分自身や他人のフィットネス レベルと生涯にわたる身体活動への参加を向上させ、サポートするための行動を計画し、実行する。

学習内容

- 学習内容は、児童生徒が一つ以上のライフスキルの成果を達成するために取り組む際に、意図される学習について説明する。これは、児童生徒が学校教育または放課後の機会の次の段階に進むための基盤を提供する。
- 教員は、児童生徒のニーズ、強み、目標、興味及び事前の学習に基づいて、順序、強調点及び必要な調整に関する結果の選択と内容の選択について決定を下す。学習内容で提供されている例は単なる提案である。教員は、個々の児童生徒の特定のニーズを満たすために、提供された例を使用したり、他の例を使用したりできる。
- 7～10 年生のライフスキルの学習内容は、次の三つの内容から構成される。
 - 健康、福祉、人間関係
 - 動きのスキルとパフォーマンス
 - 健康、安全、アクティブなライフスタイル。
- この要素は、7～10 年生 のライフスキルの結果と内容に対処するための可能なフレームワークを提供するものであり、単なる提案に過ぎない。教員は、児童生徒のニーズを満たすために、一つまたは複数の要素から柔軟に対応することが可能である。
- 必要に応じて、児童生徒には身体活動に参加する機会を与える必要がある。特別な教育が必要な一部の児童生徒については、教員は運動経験に対する適切かつ適切な調整を考慮する必要がある。成果を達成するには、個々の児童生徒の運動スキルを実証する能力を考慮する必要がある。
- 児童生徒が自分の健康、安全、福祉、身体活動への参加に関するスキルと実践を開発する機会が、7～10 年生のライフスキルの成果と内容全体に組み込まれている。児童生徒は次の三つの領域にわたるスキルを探索、強化、洗練することができる。
 - 自己管理 (Self-Management)
 - 対人関係 (Interpersonal)
 - 動き (Movement)
- 9～10 年生 (ステージ5) においては、人権と自由についての学習が扱われ、コミュニティへの参加や活動的な市民を育成することが重要視される。

注：網掛け箇所は国際教育に関する内容。

付属資料 16 : NSW 州教育課程に基づいた学習領域「コミュニティと家族学」(11~12 年生) の学習内容

目標			
<ul style="list-style-type: none"> オーストラリア社会における家族やコミュニティの様々な特徴と相互依存性について理解する。 家族やコミュニティが直面している現代の課題に対処するために、資源を効果的に計画し管理できるようになる。 			
成果			
<ul style="list-style-type: none"> 資源管理と、個人、集団、家族、地域社会の福祉を確保する上でのその役割に関する知識を習得し理解できるようになる。 肯定的な人間関係が個人、集団、家族、コミュニティに幸福にもたらすということを知ると同時に理解できるようになる。 個人に対する様々な社会的要因の影響と、集団、家族、コミュニティの性質に関する知識を習得し理解できるようになる。 研究方法論に関する知識を習得し理解できるようになる。また研究や分析、さらにはコミュニケーションの能力やスキルを養う。 個人、集団、家族、コミュニティのニーズを満たす管理プロセスを用いるスキルを養う。 批判的思考と幸福を促進する責任ある行動をどうことができる能力を養う。 個人、集団、家族、コミュニティの多様性と相互依存性を理解することができる。 			
学習内容			
学年	予備コース	人間・社会・文化コース	人間・社会・個人モジュール
11~12 年生	<ul style="list-style-type: none"> 資源管理と、個人、集団、家族、地域社会の福祉を確保する上でのその役割に関する知識を習得し理解できるようになる。 肯定的な人間関係が個人、集団、家族、コミュニティに幸福にもたらすということを知ると同時に理解できるようになる。 個人に対する様々な社会的要因の影響と、集団、家族、コミュニティの性質に関する知識を習得し理解できるようになる。 研究方法論に関する知識を習得し理解できるようになる。また研究や分析、さらにはコミュニケーションの能力やスキルを養う。 個人、集団、家族、コミュニティのニーズを満たす管理プロセスを用いるスキルを養う。 批判的思考と幸福を促進する責任ある行動をどうことができる能力を養う。 個人、集団、家族、コミュニティの多様性と相互依存性を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究方法：個人プロジェクトの成果を出すための研究方法と能力 特定の集団：特定のコミュニティ集団の特徴とニーズ 準備と世話：現代社会における子育てや介護の役割を担う個人や集団が直面する課題 	<p>以下から一つを選択</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族と社会の相互関係：一生涯にわたって家族を支援し擁護する政府及びコミュニティの構造 テクノロジーの社会的影響：進化するテクノロジーの個人及び生活様式に与える影響 個人と労働：個人が家庭と職場の両方において役割を果たそうとする時に直面する現代的課題

注：網掛け箇所は国際教育に関する内容。

付属資料 17 : NSW 州教育課程に基づいた学習領域「科学とテクノロジー」(K~6 年生) の学習内容

目標					
<ul style="list-style-type: none"> 科学と技術の概念を探求し、世界についての知識と理解を発展させる。また問題に対する解決策を調査、計画、調査、開発できるようにする。さらに科学的な作業と設計と生産のスキルを応用することで、自然、現象、構築された環境への興味と理解に対する熱意を育む。 					
成果					
<ul style="list-style-type: none"> K (早期ステージ) : 科学的に作業し、周囲の世界を理解するために設計と生産のプロセスに取り組む。自分の周囲を探索し、観察や経験について質問する。データを収集し、様々な方法で自分のアイデアや観察を伝える。学生は可能性と解決策を個別に、または他の学生と協力して調査し、設計プロセスを使用して解決策を開発する。教室の様々な設備を効果的に使用し、リソースや材料を使用する際に安全に作業する方法を学ぶ。 Y1-2 (ステージ 1) : 科学的に作業し、設計と生産のプロセスに取り組む。ガイド付き調査に参加し、質問を提示して回答し、予測を行う。様々な方法を使用して情報を収集し、表現する。機器や材料を安全に操作し、持続可能で時間効率の高い選択をする。ラベル付きの図面やモデルを使用し、必要に応じてデジタル技術を使用して、デザインのアプローチやソリューションを生成および開発する。自分たちが行ったことについて説明し、予め決められた基準を使って自分たちのアイデアを評価する。 Y3-4 (ステージ 2) : 質問をし、結果を予測し、自主性を高めながらガイド付き調査に取り組むことにより、科学的に作業し、設計と生産のプロセスに参加する。必要に応じて正式な単位を使用して観察を行って記録し、結果と予測を比較する。行われた方法が公正であるかどうかを振り返り、その後の調査を改善する方法を特定する。データのパターンを整理して特定し、情報を整理して表現するための表を作成する。 Y5-6 (ステージ 3) : 自分たちの生活と持続可能な未来に関連する地域、国、地球規模の問題における科学技術の役割についての認識を深める。科学的に作業し、設計と生産のスキルを独立して協力して学ぶ。調査のための質問を提起し、起こりそうな結果を予測し、データと情報を収集、記録、分析する際の正確さと誠実さを実証する。公正なテストを計画および実施し、変数を分離し、適切な測定方法を選択する。表やグラフを作成してデータを整理し、証拠を使用して予測と比較し、結論を導き出し、説明を展開することでパターンを特定することができる。意図した結果に基づいて成功を評価する基準を作成する。リサーチと既存のソリューションを使用して、デザイン プロジェクトのニーズと機会を検討し、アイデアを伝える。リスクを特定し、設計のアイデア、手法、結果を改善するためのプロセスを振り返ることができる。必要に応じてデジタル技術を使用して、表、グラフ、図でアイデアを伝える。 					
学習内容					
学年	生物の世界	物質の世界	物理的な世界	地球と宇宙	デジタル技術
K	生物とその特徴、ニーズ、行動及びそれらが生息する環境	材料の観察可能な特性と、それらを有用な製品の製造への使用	物質の物理的特性と、それらが物質の動きに及ぼす影響	毎日の環境及び季節の変化	デジタルシステムとそれが通信への使用
Y1~2	生き物の特徴、その環境、環境の変化と繁殖	物質の変化、操作、結合	光、音、熱エネルギーの特定と、それらの感知と生成	空と風景で起こる観察可能な変化	デジタルシステムとそのコンポーネント
Y3~4	生物の分類、ライフサイクル、生存	固体と液体が状態をどのように変化させるか、また天然材料や加工された材料の特性	光、熱、電気エネルギーと、接触力が物体の動作に与える影響	地球の表面とそれが時間の経過による変化	デジタルシステムとデジタルシステムがデータを送信する方法
Y5~6	生物の成長と生存及びそれらの時間の経過による適応の環境への適合	様々なマテリアルの特性とそれらの組み合わせ方法がどのように用途を決定し、設計ソリューションに影響を与えるか	接触力と非接触力の違いと、エネルギーがある形態から別の形態にどのように変換されるか	太陽系における地球の位置、自然災害によって引き起こされる地球表面の変化及びそれらをどのように軽減できるかの探求	デジタルシステムの個々のコンポーネントがデータの処理と表現において果たす役割の理解

注：網掛け箇所は国際教育に関する内容。

付属資料 18 : VIC 州教育課程に基づいた学習領域「心理学」(11~12 年生) の学習内容

目標	
<ul style="list-style-type: none"> 人間の思考、感情、行動を記述、説明、分析、予測するための心理学モデル、理論、概念の知識と理解を発展させる。 人間の思考、感情、行動に対する生物心理社会的アプローチを理解し、適用する。 心理的モデル、理論、概念を日常の状況に適用して、精神的健康についての理解を深める。 好奇心、寛容さ、創造性、柔軟性、誠実さ、細部への注意、証拠に基づいた結論とアボリジニとトレス海峡諸島の人々の知識を尊重する姿勢を育む。 人間の取り組みとしての科学の協力的、累積的、反復的、学際的な性質について、その可能性、限界、社会文化的、経済的、政治的、法的な影響と結果を含めて理解を深める。 研究室や現場でのさまざまな調査方法論を通じて、個人及び共同で科学調査を行う幅広いスキルを開発し、調査を洗練してデータの品質を向上させる。 この分野の研究と実践を管理する研究、倫理、安全のガイドラインを理解し、これらのガイドラインを適用してデータを生成、照合、分析、批判的に評価、報告する。 定性的および定量的データを分析及び解釈して証拠を提供し、データのパターン、関係及び限界を認識する 地元および世界の市民として、現代の科学に基づいた問題について、情報に基づいた批判的な視点を培う。 科学のプロセスと現象を説明するための主要なモデル、概念、理論、科学法則の知識と理解を発展させ、この理解を個人的、社会文化的、環境的、技術的文脈を含む身近な状況および不慣れな状況に適用する。 適切な用語、慣例、形式を使用して、この分野の理解を明確かつ正確に伝える。 	
成果	
<ul style="list-style-type: none"> 単元 1 と単元 2 の達成度の評価手順は学校の決定事項である。これらの単位の達成レベルの評価は VCAA に報告する必要はない。学校は、成績、説明文またはその他の指標を使用して達成度を報告することを選択する VCAA は、単元 3 と単元 4 で採点された評価を受ける学生の評価手順を指定する。指定された評価タスクは、VCE 学習デザインの各ユニットの詳細に示されている。 	
学習内容	
<p>単元 1 : 行動と精神プロセスの形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> 心理的発達が期待通りに起こらない状況を含め、心理的発達の複雑な性質を検討する。またアボリジニやトレス海峡諸島の人々を含む西洋社会と非西洋社会の古典的及び現代的知識が、心理的発達の理解及び発達を予測し説明するために使用される心理的モデルと理論の発展に与えた貢献を検討する。さらに人間の脳の構造と機能、精神プロセスと行動において脳が果たす役割を研究し、脳の可塑性と脳損傷が人の心理的機能に与える影響を調査する。 本単元は次の三つの学習分野から構成される。 <ul style="list-style-type: none"> 学習分野 1 : 心理学の発展に影響を与えたものとは何か? 学習分野 2 : 精神プロセスと行動は脳によってどのように影響されるのか? 学習分野 3 : 現代心理学は心理学研究をどのように実施し、検証しているのか?
<p>単元 2 : 内的要因と外的要因が行動と精神プロセスに与える影響</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人の態度、自分自身の認識、他者との関係において社会的認知が果たす役割を評価する。また異なる文化的グループが異なる経験や価値観をもっていることを認識しながら、個人やグループの行動に影響を与える可能性のある様々な要因や状況を探求する。さらにオーストラリア社会におけるアボリジニとトレス海峡諸島の人々の経験と、それらの経験が心理的機能にどのような影響を与えるかを考えることが奨励される。 本単元は次の三つの学習分野から構成される。 <ul style="list-style-type: none"> 学習分野 1 : 人間はどのように影響を受けて、特定の行動をとるのか?

	<p>学習分野 2：何が人間の世界に対する知覚に影響を与えるのか？</p> <p>学習分野 3：科学的調査は知覚や行動についてどのようなことを提供するか？</p>
<p>単元 3：行動や精神プロセスに経験が与える影響</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 神経系の機能の理解及び学習と記憶に影響を与える生物学的、心理的、社会的要因の理解に対して、古典的及び現代の研究がもたらした貢献を調査する。また人間の神経系がどのようにして人が周囲の世界と相互作用することを可能にするかを調査する。さらにストレスが人の心理的機能にどのような影響を与えるかを調査し、心理的機能における腸と脳の関係に関する新たな研究を含め、ストレスを心理生物学的プロセスとして考察する。 • 学生は、学習と記憶のメカニズムが知識の獲得と、新たな行動や変化した行動の発達にどのようにつながるかを研究する。また学習と記憶及び記憶に関与する脳領域の相互接続性を説明するモデルを検討する。アボリジニとトレス海峡諸島の人々による記憶の宝庫としての場所の使用など、記憶力を向上させるための記憶術の使用が調査される。 • 本単元は次の二つの学習分野から構成される・ <ul style="list-style-type: none"> 学習分野 1：神経系はどのようにして心理的機能を可能にするか？ 学習分野 2：人間はどのように学習し、記憶するのか？
<p>単元 4：精神的な健康のサポートと維持</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 睡眠の需要と精神的健康に対する睡眠の影響について探る。睡眠を調節する生物学的メカニズムと、生涯にわたる急速眼球運動（REM）睡眠と非急速眼球運動（NREM）睡眠の関係を考察する。また人の睡眠覚醒サイクルと睡眠衛生の変化が人の心理的機能に及ぼす影響を研究し、古典的及び現代の研究が睡眠の理解にもたらした貢献についても検討する。 • 幸福の多次元のかつ全体的な枠組みとしての社会的及び感情的幸福（SEWB）を含む、精神的幸福を定義及び概念化する方法を検討する。そして、連続体としての精神的健康の概念を探求し、特定の恐怖症を理解するために科学モデルとして生物心理社会的アプローチを適用する。またアボリジニとトレス海峡諸島の人々の幸福に不可欠な生物心理社会的保護因子と文化的決定要因の重要性を考慮することによって、精神的幸福をどのようにサポートできるかを探求する。 • 本単元は次の三つの学習分野から構成される。 <ul style="list-style-type: none"> 学習分野 1：睡眠は精神的プロセスや行動にどのような影響を与えるか？ 学習分野 2：精神的な健康に影響を与えるものは何か？ 学習分野 3：科学的調査が精神プロセスと心理的機能を調査するためにどのように使用されるか？

注：網掛け箇所は国際教育に関する内容。

付属資料 19：VIC 州教育課程に基づいた学習領域「オーストラリアと世界の政治」（11～12 年生）の学習内容（2024 年から実施）

目標			
<ul style="list-style-type: none"> • 基本的な政治的概念を理解し、それを適用することができる。 • 国内及びグローバルな文脈における現代の政治と権力の特徴を理解する。 • オーストラリアの民主主義の特徴を理解するとともに、批判的に研究する。 • 国内政策及び外交政策の策定と実施におけるプロセスを分析する。 • グローバルな課題及びこれらに影響を与える主要な要因について研究する。 • 世界的な危機への対応の有効性について評価することができる。 • 論理的かつ合理的な分析、統合、議論のスキルを育成する。 			
成果			
<ul style="list-style-type: none"> • 単元 1：政治権力の行使に関連する主要な考え方について説明することができ、またオーストラリアの民主主義と非民主主義の政治制度を比較することによって、政治権力への様々なアプローチを分析し、評価することができるようになる。さらに政党、利益団体、メディアの役割と機能及びオーストラリアの政治への参加に対するそれらの影響を分析し、説明できるようになる。 • 単元 2：グローバル化によって生み出された社会的、政治的、経済的な相互関係を特定して分析し、グローバルコミュニティへのオーストラリアの参加について評価できるようになる。また自身が選択した事例研究に関連して、グローバルなアクターが協力して、どのように対立や不安定性などを効果的に管理できるようになるかを説明できるようになる。 (オーストラリアの政治) • 単元 3：オーストラリアの政治制度の重要な価値観と原則を理解し、民主主義の長所と短所を評価できるようになる。またアメリカの政治制度の主な特徴を理解すると同時に、民主主義の価値と原則がどの程度指示されているかという観点から、オーストラリアとアメリカ合衆国の政治体制を批判的に比較することができるようになる。 • 単元 4：オーストラリア連邦の国内公共政策がどのように策定され実施されるかを理解し、これらのプロセスに影響を与える要因を分析するとともに、選択された現代の国内政策の課題を批判的に評価できるようになる。またオーストラリアの外交政策の特徴、目的、手段を分析し、オーストラリアの外交政策が直面している二つの重要な課題について考えることができるようになる。 (グローバルな政治) • 単元 3：主要なグローバル・アクターの力を理解し、彼らが目的をどの程度達成し、国家主権に異議を唱えることができるかを説明できるようになる。また国益を追求する特定のアジア太平洋諸国による様々な種類の権力の使用についての有効性を分析し、評価できるようになる。 • 単元 4：二つの地球規模の倫理問題に関連する議論の内容を分析し、これらの問題に対する世界の関係者の対応についての有効性を評価できるようになる。また二つの現代における世界的危機を分析し、これらに対する世界の関係者の対応についての有効性を評価することができるようになる。 			
学習内容			
単元	一般	オーストラリアの政治	グローバルな政治
単元 1	思想、アクター、権力	なし	なし
単元 2	グローバルな連携	なし	なし
単元 3	なし	オーストラリアの民主主義についての評価	グローバルなアクター
単元 4	なし	オーストラリアの公共政策	グローバルな挑戦

注：網掛け箇所は国際教育に関係する内容。

付属資料 20 : VIC 州教育課程に基づいた学習領域「宗教と社会」(11~12 年生) の学習内容

目標	
<ul style="list-style-type: none"> スピリチュアリティ、宗教、新興宗教運動の特徴と目的を理解する。 他者の精神性と宗教的信念を理解し、尊重し、その宗教的信念を保持する自由と権利を認める。 人間の意味に探求における宗教の性質と目的について議論する。 スピリチュアリティ、宗教的伝統、宗派の構成員資格を通じて、社会と個人のアイデンティティ形成の間の相互作用を理解する。 個人の重要な人生経験から意味をなす方法を提供するスピリチュアリティと宗教の能力について熟考する。 社会とスピリチュアリティ、宗教的伝統、宗派によって生み出された集合的アイデンティティとの間の相互作用について考察する。 重要な宗教的、文化的、政治的、社会的、倫理的問題についての討論を含め、社会と宗教の間の進行中の相互作用及び相互への影響を分析する。 	
成果	
<ul style="list-style-type: none"> 単元 1 : 宗教の性質と目的について議論し、選択した宗教例にあてはめて宗教の側面を調べることができるようになる。また宗教の役割の変化と宗教と社会の相互関係について時間軸を念頭に置いて議論できるようになる。さらに過去と現在のオーストラリアにおける宗教の存在について議論できるようになる。 単元 2 : 複数の世界観が共存する社会における倫理的意思決定と道徳的判断に対する様々な影響について説明できるようになる。また複数の世界観が共存する社会において少なくとも二つのスピリチュアリティ、宗教的伝統及び宗派の中で倫理的視点と道徳的判断がどのように形成されるかを分析できるようになる。さらに複数の世界観が共存し、スピリチュアリティ、宗教的伝統、宗派が貢献する社会における倫理的問題に関する二つ以上の議論を調べることができるようになる。 単元 3 : 宗教と宗教的信念の性質と目的を分析できるようになる。また宗教の他の側面を通じた信念とその表現が、意味の探究にどのように対応することを意図しているかについても調べることができるようになる。さらに宗教に関連する側面と人生の重要な経験を通じて、宗教的信念とその表現との相互作用について分析できるようになる。 単元 4 : 宗教的伝統または宗派が異議を唱えられた時とったスタンスとそれを裏付ける反応について分析し、比較できるようになる。また宗教的伝統または宗派内での相互作用及び宗教的伝統または宗派とより広い社会との間の相互作用について、重要な課題に関連して議論し、これらに対するスタンスと対応の影響を評価できるようになる。 	
学習内容	
単元 1	社会における宗教の役割 <ul style="list-style-type: none"> 時代を超えた宗教の性質と目的 (宗教の側面とその相互関係、宗教が提供する声明と存在の起源、精神的な物語、社会における宗教の枠割) 時代を通じての宗教 (宗教の社会化のプロセス、テクノロジー・哲学・科学の発達と宗教への影響、精神性・宗教的伝統) オーストラリアの宗教
単元 2	宗教と倫理 <ul style="list-style-type: none"> 倫理的決定と道徳的判断 宗教と倫理 (宗教的伝統及び宗教宗派の倫理的観点を知らせる権威・原則・規範、倫理以外の精神性・宗教的伝統・宗教宗派における倫理的意思決定プロセス) 社会における倫理的課題
単元 3	意味の探索 <ul style="list-style-type: none"> 意味の探究に対する反応 (宗教的側面、人生の大きな問題に関する質問と回答、一般的な宗教的信念の性質、意味の探究における宗教的信念の目的) 意味の表現 (宗教一般について意味を表現し、意味の探究に回答する際の信仰以外の各側面の役割、宗教の諸側面の相互関係) 重要な人生経験、宗教的信仰と信念
単元 4	宗教、挑戦と変化 <ul style="list-style-type: none"> 挑戦と反応 (進学、倫理及び宗教的伝統または宗教宗派の存続に関わる重大な課題の概観、重大な課題に直面した時に宗教が一般的にとる立場とその理由) 宗教と社会の相互関係

注：網掛け箇所は国際教育に関する内容。

付属資料 21 : VIC 州教育課程に基づいた学習領域「社会学」(11~12 年生) の学習内容

目標	
<ul style="list-style-type: none"> • 人々の集団と社会的行動の研究としての社会学の性質について理解する。 • 主要な社会学概念、理論、方法をオーストラリアの社会生活とグローバルな状況に定期用する。 • 社会制度についての理解を深め、比較の視点を通して変化する。 • 社会学的な視点から分析と評価を行う能力を開発する。 • 社会的認識と現代の議論に役立つ能力を開発する。 	
成果	
<ul style="list-style-type: none"> • 単元 1 : 社会学的調査の性質を理解し、十分な情報に基づいて社会的カテゴリーとしての若者について議論できるようになる。また家族制度について分析できるようになる。 • 単元 2 : 規範から逸脱した行動と逸脱していると見做された人々に対する道徳的崩壊の影響について説明する一連の社会学的理論を分析できるようになる。またオーストラリアの犯罪について議論し、人間の行動を形成するための司法制度における処罰方法の有効性について評価できるようになる。 • 単元 3 : オーストラリアの先住民文化に対する一般的認識と見解の変化を分析し、評価できるようになる。またオーストラリア社会における民族性について分析できるようになる。 • 単元 4 : 一般的なコミュニティでの経験を分析することを通して、特定のコミュニティについても分析・評価ができるようになる。また社会運動の性質と目的を分析し、社会変化への影響を評価できるようになる。 	
学習内容	
単元 1	<p>若者と家族</p> <ul style="list-style-type: none"> • 若者のカテゴリーと経験 (社会学的探究の特性、社会的カテゴリーの定義、若者の社会的カテゴリー、若者の生物学的及び心理学的定義が社会的概念とどう異なるか) • 家族 (制度の社会学的概念及び社会制度としての家族の場所と役割、子どもをもつカップルの様々な形態の家族定義、オーストラリア社会における家族形態の時間経過による多様性)
単元 2	<p>社会規範と規範を破る</p> <ul style="list-style-type: none"> • 逸脱 (相対的な概念としての逸脱と規範と逸脱の関係、デュルケムの機能主義的逸脱理論とその逸脱の四つの役割) • 罪 (人に対する犯罪、財産に対する犯罪、被害者のいない犯罪を含む社会学的概念の犯罪、ホワイトカラー犯罪、企業犯罪、規範と法律の関係)
単元 3	<p>文化と民族性</p> <ul style="list-style-type: none"> • オーストラリアの先住民文化 • 民族性 (人種と民族の社会学的概念の性質と意味、民族中心主義・文化相対主義・他者の概念、ステュアート・ホールによる民族混血理論の本質、民族の経験と関連性、他の先進国と比較したオーストラリアの現在の民族的多様性)
単元 4	<p>コミュニティ・社会運動・社会変革</p> <ul style="list-style-type: none"> • コミュニティ (時代とともに変わりゆくコミュニティの概念、コミュニティの一般的な経験、弧コミュニティの性質と集団としてのコミュニティ分類の理由、コミュニティの経験に対する影響とその影響同士の相互作用) • 社会的運動と社会変革 (社会運動と社会変革の概念、社会運動の特徴と目的)

注：網掛け箇所は国際教育に関する内容。

付属資料 22 : VIC 州教育課程に基づいた学習領域「保健体育」(F~10 年生)の学習内容

目標	
<ul style="list-style-type: none"> 情報にアクセスし、評価し、総合して、生涯を通じて自分自身と他人の健康、福祉、安全、身体活動への参加を守り、強化し、擁護するための積極的な行動を起こすことができるようになる。 個人的、行動的、社会的、認知的スキルと戦略を開発及び使用して、個人のアイデンティティと幸福感を促進し、敬意をもった関係を構築及び管理することが「できる」。 様々な身体活動の状況や環境において、自信をもって有能かつ創造的に対応するための動作スキル、概念、戦略を習得、適用、評価することができる。 定期的な運動ベースの学習体験に参加して楽しみ、個人的、社会的、文化的、環境的、健康上の実践と成果に対するその重要性を理解し、評価することができる。 多様かつ変化する個人的及び状況的要因が、地域的、地域的、世界的に健康と身体活動に対する理解とその機会をどのように形作っているかを分析することができる。 	
学習内容	
個人、社会、コミュニティの健康	動作と身体的活動
<p>健康で安全で活動的であること</p> <ul style="list-style-type: none"> 「保健体育」は、児童生徒が自分の健康、安全、幸福について意思決定できるようサポートすること、そして児童生徒が立ち直れるようサポートするための知識、理解、スキルを開発することに重点を置いている。また健康情報にアクセスして理解できるようになり、健康的で安全かつ積極的な選択ができるようになることを推奨する。さらにこの学習内容では、個人のアイデンティティや感情、児童生徒の健康、安全、幸福に影響を与える状況要因についても探求している。児童生徒はまた定期的な身体活動に関連する行動的側面についても学び、活動的な個人になるために必要な気質を開発する。 	<p>身体を動かす</p> <ul style="list-style-type: none"> 「保健体育」は、遊びと基本的な動作スキルの重要な初期の基礎を築く。幅広い動作スキルの習得と洗練に焦点をあており、児童生徒は動作の概念と戦略を適用してパフォーマンスを向上させ、能力と自信をもって動作するようになる。児童生徒は生涯を通じて身体活動に参加するために必要なスキルと気質を開発する。
<p>健康と幸福のためのコミュニケーションと交流</p> <ul style="list-style-type: none"> 「保健体育」は、児童生徒が健康上の焦点となる様々な領域や問題に批判的に取り組むことができるようにするための知識、理解、スキルを開発する。またこれは、自分自身や他人の健康、安全、幸福に影響を与える変化する状況や環境に新しい情報を適用するのに役立つ。 包括性、アイデンティティに影響を与える要因、効果的なコミュニケーション、敬意をもった関係、コミュニティの健全性への理解を促進するための戦略を策定する。 	<p>動きを理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> 「保健体育」は、身体がどのように、なぜ動くのか、そして動くとき身体に何が起こるのかについての知識と理解を高めることに重点を置いている。児童生徒は身体活動に参加しながら、動きと身体活動のパフォーマンスの質を理解し向上させるために使用できる理論、技術、戦略を分析および評価し、自分たちの生活の中で、また時代や文化を超えて、身体活動、屋外レクリエーション、スポーツの場所と意味を探求する。
<p>健康で活力ある地域社会への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> 「保健体育」は、児童生徒が地域社会の健康と福祉に重大な影響を与える状況要因を分析できるようにするための知識、理解、スキルを開発する。この学習内容は、児童生徒が情報、製品、サービス、環境にアクセスして、地域社会の健康と福祉を促進するための行動を起こすことをサポートする。 	<p>動きを通して学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「保健体育」は、運動や身体活動への参加を通じて開発できる個人的及び社会的スキルに焦点をあてている。これらのスキルには、コミュニケーション、意思決定、問題解決、批判的かつ創造的思考、協力が含まれる。このスキルは、学生が個別にまたは小グループまたはチームで動作タスクを実行したり、動作の課題を解決したりすることで開発できる。児童生徒は運動体験を通じて、自己認識、自己管理、課題への粘り強さ、パフォーマンスの向上への努力など、その他の重要な個人的及び社会的スキルを開発する。また組織化されたスポーツやレクリエーションの中での様々な役割も経験する。

注：網掛け箇所は国際教育に関係する内容。

付属資料 23 : VIC 州教育課程に基づいた学習領域「健康と人間の成長」(11~12 年生) の学習内容

目標	
<ul style="list-style-type: none"> 健康と幸福、そして人間の発達の複雑な性質を理解する。 身体的、社会的、感情的、精神的、精神的なものを含めた、健康と福祉についての幅広い視野を養う。 生物学的、社会文化的、環境的要因を理解する。 健康と福祉が生涯を通じてどのような影響を受けるかを調査する。 人は生まれ、成長し、生き、働き、老いていくことを理解する。 健康情報を評価し、サポートするために適切かつ積極的な行動をとるためのヘルスリテラシーを開発する 健康と福祉、リスクの管理を行う。 オーストラリアの医療制度とそれを支える政治的および社会的価値観についての理解を深める。 社会正義の原則を適用して健康と福祉の不平等を特定し、健康と福祉を分析する。 国連の持続可能な開発目標の目標を適用して有効性を評価する。 健康と福祉の取り組みとプログラムにおいて、健康と福祉、人間開発にプラスの影響を与える行動を提案し、実行する。 個人、地方、国及び/または世界レベルでの成果を測る。 	
学習内容	
<p>単元 1 : 健康と福祉についての理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> 健康と福祉を、多様かつ進化する視点と定義をもつ概念として考察 健康と福祉は幅広い文脈と解釈に左右されるという見解 人によって異なる意味がある 健康を理解するための基礎として世界保健機関 (WHO) の定義を調査し、他の解釈も検討 健康はあらゆる側面が複雑に組み合わさったものであり、個人のバランスによって特徴付けられる 健康と福祉に関する個人的な視点と優先事項を特定 アボリジニとトレス海峡島嶼民の健康に対する考え方、信念、実践に影響を与える要因を調査 健康と幸福の多面性、複雑な相互作用に注目する 健康と福祉への影響と、健康状態の測定と評価に使用される指標について説明
<p>単元 2 : 健康と成長の管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> 健康と福祉、発達の変遷を寿命と社会から調査 若者から成人期への成長の一部である変化と期待に注目 成人期の検査を通じてヘルスリテラシースキルの適用を促進 独立性と責任が増し、長期的な関係を築く時期を理解 子育てや健康関連のマイルストーンや変化の管理について考えられる考慮事項を理解 オーストラリアの医療制度について調査し、アクセスして分析する能力を高める デジタルメディアと健康によってもたらされる課題と機会を調査 テクノロジーを活用し、医療データの利用と質の高い医療へのアクセスに関する問題を検討
<p>単元 3 : グローバル化する世界におけるオーストラリアの健康</p>	<ul style="list-style-type: none"> 健康、福祉、病気を多角的で動的なものとして捉え、さまざまな影響を受けるものとして捉える 健康と福祉を世界的な概念として探求し始め、より広範な調査アプローチ。最適な健康と幸福の利点とその重要性を考える時、彼らの考え方は、個人および集団の資源として、普遍的な権利としての健康にまで及ぶ 世界保健機関が述べている、健康増進に必要な基本的条件を満たしていることを理解 様々な公衆衛生アプローチと多様なモデルの相互依存性について考察 医療システム、公衆衛生アプローチの変化の進行を世界的な文脈の中で考察
<p>単元 4 : グローバル化の文脈における健康と人間の成長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 世界的な文脈での健康と福祉及び人間の発達を検討 様々な国の健康状態と病気の負担を調査し、健康に寄与する要因を探る 物理的、社会的、経済的条件を含む、国家間及び国家内の不平等を理解する 世界の変化を調べることを通じて、世界的な文脈での健康についての理解を深める 長期にわたる病気の負担を調査し、持続可能性と人間開発の重要な概念を研究 グローバル化の進展と気候変動に関する世界的な傾向が健康に与える影響を考慮し、デジタル技術、世界貿易、人の大量移動について調査する 国連の持続可能な目標に焦点をあて、健康と福祉、人間開発を改善する 開発目標 (SDGs) と世界保健機関 (WHO) の取り組みを理解する 非政府組織の役割とオーストラリアの海外援助プログラムを理解する 世界的な文脈における健康への取り組みとプログラムを評価し、行動を起こす能力を習得する

注：網掛け箇所は国際教育に関する内容。

付属資料 24 : VIC 州教育課程に基づいた学習領域「言語」(F~12 年生) の学習内容

目標		
<ul style="list-style-type: none"> 英語に加えてその他の言語を学ぶことで、児童生徒の読み書きのレパートリーとコミュニケーション能力が広がる。 言語、文化、コミュニケーションのプロセスの性質についての児童生徒の理解を強化する。 VIC 州の大きな特徴として、先住民言語が含まれていることである。 言語の学習を通して、その言語が使われている国や地域の文化や考え方についても学ぶ。 		
学習内容		
分類	説明	言語コース
ローマ字表記言語	これらの言語は、その表記体系、つまり視覚的に記録される手段がローマ字であり、学習者に要求される読解力は英語と類似している。	<ul style="list-style-type: none"> フランス語 ドイツ語 インドネシア語 イタリア語 スペイン語 トルコ語 ベトナム語
非ローマ字表記言語	これらの言語は、書記体系がアルファベットであるものの、ローマ字ではない言語であり、学習者は新しいアルファベットを習得する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> アラビア語 現代ギリシャ語 ヒンディー語 韓国語
文字言語	これらの言語は、文字体系が音節、表意文字、または音節と表意文字の組み合わせである言語であり、アルファベットの読み取りや新しい文字の学習とは異なる読み取りプロセスが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 中国語 日本語
古典言語	これらは古代の言語であり、現代のコミュニティでは日常のコミュニケーション手段としてはもう使用されていない。	<ul style="list-style-type: none"> 古典ギリシャ語 ラテン語
手話	これはオーストラリアのろう者コミュニティの言語であり、ほとんどの学習者にとって、これには英語での読書も含まれる。	<ul style="list-style-type: none"> オーストラリア手話 (Auslan)
先住民言語	アボリジニとトレス海峡諸島の言語はそれぞれ独自である。それは風景、考え、世界の見方や解釈の方法に声を与える。その土地の言語が話されると、その風景とそこに住む人々のすべての要素が一つにまとめられる。それは、これらの人々の相互関係、そして風景、過去、現在、未来との関係を網羅している。	<ul style="list-style-type: none"> ビクトリア州先住民言語

注：網掛け箇所は国際教育に関する内容。

付属資料 25 : VIC 州教育課程に基づいた学習領域「デザインとテクノロジー」(F~10 年生) の学習内容

目標		
<ul style="list-style-type: none"> • テクノロジーの重要なユーザーとなり、設計されたソリューションのデザイナー及びプロデューサーになる。 • 持続可能な未来のために設計されたソリューションを調査、生成、批評できるようになる。 • デザインとシステム思考を使用して、革新的で倫理的なデザインのアイデアを生成し、それらを様々な聴衆に伝えることができる。 • 様々な材料、システム、コンポーネント、ツール、機器を創造的に選択し、安全に操作することで、多様な状況に適した設計されたソリューションを作成することができるようになる。 • デザインとテクノロジーの知識とスキルを新しい状況に移す方法を学ぶ。 • デザイン及びテクノロジーの職業における人々の役割と責任、及び彼らがどのように社会に貢献しているかを理解する。 		
学習内容		
テクノロジーと社会	テクノロジーの文脈	デザインされたソリューションの創造
<ul style="list-style-type: none"> • 「テクノロジーと社会」では、人々がテクノロジーをどのように使用し、開発するかに焦点をあてる。 • 経済的、環境的、倫理的、法的、美的、機能的要因及びテクノロジーが個人、家族、地域、地球規模のコミュニティ、環境に与える影響が考慮される 	<ul style="list-style-type: none"> • 「テクノロジーの文脈」では、テクノロジー 文脈の特性及びそれらを使用して革新的な設計ソリューションを作成する方法に焦点をあてる。 • 以下のサブストランドの下に編成された四つの特定の文脈を検討する。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 工学原理とシステムでは、システム内で光、音、熱、動き、制御、サポートを生み出すために力をどのように使用できるかを探る。 ➢ 食品と繊維の生産では、人間が生産または収穫した資源としての食品と繊維及び農場やプランテーションなどの管理された環境で食品と繊維がどのように生産されるか、または野生の家畜から収穫されるかに焦点をあてる。 ➢ 食品の専門分野では、栄養原則の適用、食品の特性と特性、食品の選択と調理、現代の食品問題を探求する。 ➢ 材料とテクノロジーの専門分野では、伝統的、現代的、新興の材料を幅広く調査し、テクノロジーの広範な使用を伴う専門分野を研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 調査：ニーズと機会を批判、探索、調査し、自分たちの選択が個人、社会、環境にどのような影響を与えるかを振り返る。 • 生成：様々な聴衆に向けてアイデアを開発し伝える。選択を行い、オプションを比較検討し、代替案を検討し、様々なデザインのアイデアや可能性を文書化する。 • 制作：様々なスキルとテクニックを応用して、特定の目的とユーザーのニーズを満たす設計されたソリューションを作成する。 • 評価：設計プロセス全体を通じて、設計したソリューションの品質や有効性などについて評価し、判断する。 • 計画と管理：設計されたソリューションを効果的に作成するために、他のリソースとともに時間を計画および管理する方法を学ぶ。

注：網掛け箇所は国際教育に関する内容。

付属資料 26 : VIC 州教育課程に基づいた学習領域「農業・園芸学」(11~12 年生) の学習内容

目標	
<ul style="list-style-type: none"> • 地方、州、地域における農業及び園芸産業の役割について理解する。 • キャリアパスと雇用の幅広さと実行可能性についての認識を高める。 • 倫理的かつ持続可能な土地、水、動植物の管理についての理解を深める。 • 食品及び繊維産業における変化の推進力と影響を分析し、革新的な技術を適用する。 • 農業及び園芸の理解を広げるための応用的な体験的なタスクに取り組む。 • 科学的方法論とデータ分析を農業及び園芸の計画に適用する。 • 気候変動を含む食品及び繊維生産に対する課題を分析する。 • 生物学的耐性と生物多様性及びバイオセキュリティに対する脅威耐性、生物多様性、バイオセキュリティに対する脅威についての理解を深める。 • 食品及び繊維産業に関連する問題に関する情報とさまざまな観点を評価する。 	
成果	
<ul style="list-style-type: none"> • 単元 1 と単元 2 の達成度の評価手順は学校の決定事項である。これらの単位の達成レベルの評価は VCAA に報告する必要はない。学校は、成績、説明文またはその他の指標を使用して達成度を報告することを選択できる。 • VCAA は、単元 3 と単元 4 で採点された評価を受ける学生の評価手順を指定する。指定された評価タスクは、VCE 学習デザインの詳細に示されている。 	
学習内容	
単元 1 : 変化と機会	<ul style="list-style-type: none"> • オーストラリアの農業及び園芸産業について理解を深め、この分野で働く機会と現実について研究する。またヨーロッパ人が入植する以前のビクトリア州固有の食物と繊維の供給源、そしてオーストラリアの農業と園芸産業の現在と過去の認識を考慮する。さらに変化と課題に直面した時のイノベーションと創造的な問題解決に焦点をあてて、現代のキャリアパスと専門的役割を探求する。加えて、気候帯、土壌の質、植物と動物の選択、職場の健康と安全、品質保証データの収集と分析の観点から、食品と繊維の慣行に対する社会文化的影響と農業と園芸のベストプラクティスを理解し、ベストプラクティスの理解を反映した実践的なタスクに取り組む。 • 本単元は次の二つの学習分野から構成される。 学習分野 1 : 食品及び繊維産業 学習分野 2 : 食品及び繊維製品
単元 2 : 動植物の成長	<ul style="list-style-type: none"> • 植物と動物の栄養、成長、生殖を研究する。植物や動物が成長し繁殖する条件と、それに関連する問題や課題についての理解を深める。また農業や園芸の実践の有効性と持続可能性を評価する。さらに植物の構造、機能、栄養、成長を研究する。そして、動物の栄養と消化、成長と発育を調査し、生産方法を比較する。加えて、食品と繊維の生産という観点から、植物と動物の生殖プロセスと技術を研究し、動植物の成長と管理に関する実践的な業務を引き受ける。 • 本単元は次の二つの学習分野から構成される。 学習分野 1 : 植物の栄養、成長、繁殖 学習分野 2 : 動物の栄養、成長、生殖
単元 3 : 未来の確保	<ul style="list-style-type: none"> • オーストラリアの食品及び繊維産業における研究とデータ、イノベーションとテクノロジーの役割を検討する。またリスクを軽減し、これらの業界の存続可能性を保護する実践についても検討する。イノベーションは、オーストラリア及び世界の食

	<p>品および繊維の生産者が直面する課題の解決と解決策の発見という文脈で考慮される。このような課題に対するオーストラリアの過去の対応を調査し、成功につながった対応や予期せぬ結果をもたらした対応を分析する。また農業や園芸におけるイノベーションとテクノロジーの日常的な役割を考察し、過去 6 年間に新たに出現した開発の影響を研究する。さらに変化の推進力としての市場の需要と社会の期待の影響を調査する。加えて、バイオセキュリティの重要性、つまり害虫、病気、雑草から農業および園芸産業を保護すること、及び生物学的耐性によってもたらされる深刻な脅威に対抗するための対策が強調される。革新的で持続可能かつ安全な農業及び園芸の実践についての認識を反映する実践的な課題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本単元は次の二つの学習分野から構成される。 学習分野 1：革新と解決策 学習分野 2：リスクと回復力
<p>単元 4：持続可能な食品と繊維の生産</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 土地管理の観点からの持続可能性と食品及び繊維産業における持続可能性の役割を検討する。持続可能性は、環境、経済、社会の側面を含む総合的な概念である。また気候変動やその他の環境課題への効果的な対応のケーススタディを通じて、気候変動が食料や繊維の生産に及ぼす影響を研究する。そして環境劣化と持続可能な土地管理と再生へのアプローチを調査する。また生態系、生物多様性の重要性、環境改変技術の適用可能性を研究する。特に環境指標の継続的な監視について考察する。農業や園芸の実践という文脈の中で、持続可能性は課題であると同時に機会であると考えられており、資源供給者から消費者に至る生産チェーン全体に思考を広げていく。さらに持続可能な市場を確保し、一次農産物に付加価値を与え、オーストラリア産製品の高品質を確保及び促進するための戦略を研究する。加えて農業や園芸の持続可能な管理と倫理的配慮のあらゆる側面を反映する実践的な課題に取り組む。 • 本単元は次の二つの学習分野から構成される。 学習分野 1：持続可能な土地管理 学習分野 2：持続可能なビジネス・プラクティス

注：網掛け箇所は国際教育に関する内容。

付属資料 27 : VIC 州教育課程に基づいた学習領域「食品学」(11~12 年生) の学習内容

<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識があり、洞察力があり、有能な食の国民として成長する。 食の計画、準備、評価、楽しみ方における実践的な食のスキルを身に付ける。 栄養学、食品科学、官能評価 (Sensory Evaluation) の原則を食品の計画と準備に適用する。 食べ物の起源、文化、習慣、行動についての理解を広げる。 食料生産、流通、ガバナンスのグローバル及びローカルシステムを理解する。 食品の選択に対する多様な影響についての認識を育む。 持続可能性及び食料システムの法的、経済的、心理的、社会文化的、健康、倫理的、政治的側面に関連する問題を調査し、議論する。 食品情報、食品広告、現在の食品トレンドに応じて、証拠に基づいた結論を分析し導き出す。 	
<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元 1 と単元 2 の達成度の評価手順は学校の決定事項である。これらの単位の達成レベルの評価は VCAA に報告する必要はない。学校は、成績、説明文またはその他の指標を使用して達成度を報告することを選択できる。 VCAA は、単元 3 と単元 4 で採点された評価を受ける学生の評価手順を指定する。指定された評価タスクは、VCE 学習デザインの各ユニットの詳細に示されている。 	
<p>学習内容</p>	
<p>単元 1 : 食品の起源</p>	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的及び文化的観点から食に焦点をあて、時代や世界中での食の起源と役割を調査する。学習分野 1 では人類が歴史的にどのように食料を調達してきたかを探求し、狩猟採集民から農村ベースの農業、そして今日の都市生活と食料の世界貿易に至るまでの一般的な進展を調べる。世界の特定の食料生産地域を調査することを通して、食の起源と重要性について考える 学習分野 2 ではオーストラリアに焦点をあてる。ヨーロッパ人が入植する前のオーストラリアの先住民の食べ物と、それ以降、特に食料生産、加工、製造業、移民の影響を通じて食のパターンがどのように変化してきたかを考察する。今日のオーストラリア料理のアイデンティティの一部である料理を調査し、オーストラリア料理の概念について考える。 本単元は次の二つの学習分野から構成される。 学習分野 1 : 世界の食料 学習分野 2 : オーストラリアの食料
<p>単元 2 : 食品メーカー</p>	<ul style="list-style-type: none"> 現代オーストラリアの食料システムを調査する。学習分野 1 は商業的な食品生産産業に焦点をあて、学習分野 2 では商業生産との比較及び補完として、家庭及び小規模環境における食品生産に焦点をあてる。こうしてオーストラリア経済における食品産業の重要性について洞察を深め、消費者のニーズを満たす安全で高品質な食品を提供する産業の能力を調査する。 本単元は次の二つの学習分野から構成される。 学習分野 1 : オーストラリアの食料システム 学習分野 2 : 家庭での食事
<p>単元 3 : 日常生活における食事</p>	<ul style="list-style-type: none"> 食品の様々な役割と日常的な影響について調査する。学習分野 1 では、食品の科学、つまり食品に対する私たちの身体的必要性と食品がどのように私たちの体に栄養を与え、時には害を与えるのかを探求する。そして食べ物に対する感謝の科学、食事と消化の生理学、腸の健康に対する食事の役割を研究する。またオーストラリアの食事ガイドラインとオーストラリアの健康的な食事ガイド (www.eatforhealth.gov.au を参照) の健康的な食事の

	<p>推奨事項の背後にある栄養学的根拠を含む科学的証拠を分析し、多様な栄養素の要件についての理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学習分野 2 は、食品の選択への影響、つまり地域社会、家族、個人が時間の経過とともに食事パターンをどのように変化させるか、そして私たちの食品の価値観や行動が社会環境の中でどのように発展するかに焦点をあてる。そしてアイデンティティと繋がり形成と表現における食品の役割と、食品情報をフィルタリング及び操作する方法について探究する。また生涯にわたる健康的な食事パターンの確立に役立つ行動原理を研究する。 • 本単元は次の二つの学習分野から構成される。 学習分野 1：食品科学 学習分野 2：食事の選択、健康と幸福
<p>単元 4：食糧問題、課題、未来</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 世界の食料システムの一部としてのオーストラリアの食料システムに関する議論を検討し、増加する世界人口に適切に食料を供給するという課題に関連する重要な問題について考える。学習分野 1 では、食品情報や誤った情報に対する個人の対応と、消費者が適切な食品を選択できるようにするための食品の知識、スキル、習慣の開発に焦点をあてる。また食料安全保障、食料主権、食料市民権の関係も考慮する。さらに情報を評価し、証拠に基づいた結論を導き出す方法を検討し、この方法論を適用して現代の食品の流行、トレンド、食生活をナビゲートする。加えて、食品ラベルを解釈し、食品パッケージに使用されているマーケティング用語を分析することによって食品選択スキルを練習し、向上させる。 • 学習分野 2 では、環境、気候、生態学、倫理、水と土地の使用と管理を含む農業慣行、イノベーションと技術の開発と応用、食糧安全保障と食糧主権の課題に焦点をあてる。選択されたトピックを調査し、現在の状況と視点を明確にし、解決策を検討し、問題を解決して持続可能な未来をサポートするために行われた作業を分析する。この単元の焦点はオーストラリアの食糧問題、課題、未来にある。 • 本単元は次の二つの学習分野から構成される。 学習分野 1：食の情報ナビゲートする 学習分野 2：環境と倫理

注：網掛け箇所は国際教育に関する内容。